

博士論文

言語類型論の視点から見る言語景観の日中比較
対照

—言語の普遍性と個別性について—

(A Comparative Analysis of Linguistic Landscape
in Japanese and Chinese from the Perspective of
Linguistic Typology:
Language Universals and Individual Differences)

2020年3月

立命館大学大学院文学研究科

人文学専攻博士課程後期課程

YU Leyu

立命館大学審査博士論文

言語類型論の視点から見る言語景観の日中比
較対照

—言語の普遍性と個別性について—

(A Comparative Analysis of Linguistic Landscape in
Japanese and Chinese from the Perspective of
Linguistic Typology:
Language Universals and Individual Differences)

2020年3月

March 2020

立命館大学大学院文学研究科

人文学専攻博士課程後期課程

Doctoral Program: Major in Humanities

Graduate School of Letters

Ritsumeikan University

ウ ラクイク

YU Leyu

研究指導教員：宇野木 洋 教授

Supervisor : Professor UNOKI Yo

言語類型論の視点から見る言語景観の日中比較対照

—言語の普遍性と個別性について—

問題の所在と研究目的

序章

第1章 「言語景観」の特徴

第2章 先行研究

第1節 タイトルと見出しに関する先行研究

第2節 「言語景観」(標識・看板)の位置づけ

第1項 「文献」文字と「景観」文字の相違

第2項 多言語表示に見ることばの市場価値

第3節 「言語景観」に関する条例

第1項 日本における「言語景観」に関する条例

第2項 中国における「言語景観」に関する条例

第3章 研究目的

第1部：看板・標識と言語

第1章 看板・標識の機能・働きから

—指示・勧告・命令

第1節 指示標識

第2節 勧告標識

第3節 命令標識

第2章 「言語景観」にみる表現のテクニック

第1節 修辞の使用

第2節 数量詞の使用

第3章 「有」と「在」について

—行き先表示版をめぐって

第1節 中国語の“有”と“在”

第2節 行き先表示などの見る「有」と「在」

第4章 標識・看板と方言

第5章 看板表記にみる語気助詞(文末詞)

第1節 中国語における普通話の独占状態について

第2部：ピクトグラムの諸相

序章 「言語景観」にみる表記のバリエーション

第1章 ピクトグラム

第2章 人物の描き込みについて

第3章 ピクトグラムにみるアイコニシテイ

第4章 漢字の類像性とピクトグラムの六書的側面

第5章 ピクトグラムの歴史

第6章 新たに加えられた案内用図記号(ピクトグラム)

第7章 ピクトグラムで表現できない個別言語 —ピクトグラムに見る普遍性と個別性

第8章 地図記号

第9章 公共標識等の英語表記

—英語表記書き込みの理由

第3部：色彩と視点をめぐる問題

第1章 色彩語から見られる普遍性と恣意性

第1節 色彩語の分化と拡大

—慣用表現と象徴的表現

第2節 赤と緑、藍と黄、白と黒などに見られる補色関係

第3節 色彩語と年齢

第2章 読み手の視点からみる日本語と中国語のずれの原因

第1節 視点の問題

第2節 方向観念の相違

第1項 方向性：起点志向と着点志向

第2項 非常口のピクトグラム

第3節 表現の長さと対句志向

第4節 ピクトグラムに潜む問題

—ステレオタイプとの関連で

結論

参考文献

言語類型論の視点から見る言語景観の日中比較対照

一言語の普遍性と個別性について

立命館大学大学院文学研究科

人文学専攻博士課程後期課程

フリガナ ウ ラクイク

氏名 YU Leyu

問題の所在

序章

グローバル化が叫ばれて久しい。多少の逆流・障害はこれからもあるものの、人・モノ・金の流れは国境を超え、拡散し続けるであろう。言語の面でも強弱・大小の違いはあれ、時には交流の障害になりつつも多くの言語が併存し使用される状況もますます増えてくるだろう。近未来において、英語を初めとする幾つかの「国際語」が共通語となり、他の言語は国際舞台から姿を消すのか、多言語主義社会¹が多くの人たちに受け入れられていくのか予断はできない。

しかし、多言語が入り乱れるという状況は当分続くことは否定しようもない。日本政府は2019年1月²に出国税を導入し、その収入の使途の一つとして道路標識や道案内の看板の多言語化に充当するとしている。

標識が、その指示に従わなければ違法となる強制力の強いものから、意味するところを知っていれば便利なもの、さらには宣伝広告のように強制力はないが、宣伝をする側に利益をもたらすもの、またトイレ表示のように動かぬ対象に向け固定して取り付けられるものから、大雨警報のように瞬時に発令され生命の存亡に関わるものまで多岐にわたるが、多言語主義社会においては、多言語による表記が随所に必要になる。とは言え、世界のすべての言語を書き込むことは不可能であり、さらに子どもでも理解できる絵文字の活用や統一、何よりも分かりやすく誤解されることがないピクトグラムの制定が喫緊の課題となってくる。交通標識の「³速度を落とせ」に slow という英語を書き込むことになったのは、slow をピク

¹ 多言語主義社会とは、単一言語主義社会と異なり、社会において複数の言語が併存している状況を容認する社会のことである。

² 国税庁「国際観光旅客税について」

URL: <https://www.nta.go.jp/publication/pamph/kansetsu/kanko/index.htm>

(最終閲覧日：2019年2月1日)

³ 表記の統一について、筆者は可能な限り日本で通用している漢字を用いる。例文の表記も日本語は「」、中国語は《》、英語は英語そのままという表記で統一される。

トグラムのみで表すことが不可能であるという結論に達したからであろう。

2018年日本では地震・大雨・台風などの災害が頻発し、避難警報のあり方が再び議論を呼んでいる。大雨による災害に対しては、どの段階で避難を呼びかけるのかが問題になっている。危険度を5段階に分け、最終段階は危険な状況がすでに始まっており、命を守る行動を呼びかけるものであるが、それ以前の段階をどのような言葉で伝えるのか、またハザードマップの色による描き分けも〔緑色⇒黄色⇒赤色〕という基本線は定まっているものの、第3段階を「赤」で示すと、それより危険度が多い第4段階と第5段階をピンクと紫色にするとの試案に対して、ピンクが赤よりも危険度が高いことを示すのに違和感がある⁴との意見があり、なお議論は結論をみていない。

本稿では、多言語社会にあって、ピクトグラムと多言語による標識・看板などを相補うものとして捉え、両者にまつわる様々な問題を考える。さらには標識・看板などを「言語景観」として捉える。

ピクトグラム、標識・看板、タイトルをひとまとめにして論じるのは以下のような共通点があると考えからである。

- (1) 通常、文脈のない環境で瞬時に伝えるべき内容が理解される。
- (2) 簡単明瞭で、誤解の可能性を排除したものである。
- (3) 可能なかぎり現実世界と並行した（アイコンニック）なもので、恣意的な約束事を排除したものである。
- (4) タイトルなどの文字情報の場合は、可能な限り短くしかも内容を端的に伝えうるものである。
- (5) 記憶に残るよう、美的なもの、韻律のよいものが好まれる。

ただ、広告は必ずしも多言語話者を想定したものでない場合であることが少なくない。しかし、その場合も（4）の形に近づけたものが望ましい。

本稿でいう景観とは、我々が目にする環境のことであるが、その中でも具体的な情報を伝える媒体のことである。看板や絵文字などなんらかの情報を伝えるものであれば、そこには、言語や文化、大げさに言えば世界観が入りこみ、他言語話者や文化の異なる集団からみれば、誤解や違和感を生じさせることが少なくない。とりわけ、文字媒体を使用することが欠かせない看板や標識、さらには文章などのタイトルには、他の文章とは幾つかの点で異なる。まず基本的には言語文脈が存在せず、文脈に代わるものとして本のタイトルであれば、書店の

⁴ 地震調査研究推進本部「地震調査研究推進本部の成果物における配色方針の検討に関する調査等報告」

URL: https://www.jishin.go.jp/main/seisaku/hokoku18d/s55sg67_3.pdf

（最終閲覧日：2019年5月4日）

どのコーナーに配架されているか、装丁などの状況が理解を助ける。また多くの場合、見てすぐわかるために短いものであることが基本にある。表現を短くするには、日本語、中国語とも日常語よりも古典語・文章語が有効である。なお、古典語は優雅さ・上品さをも併せてもつことが多い。例えば2016年に評判になったアニメ映画『君の名は。』は、実際の映画の中では「君の名前は？」というセリフが用いられていた。「名前」よりも「名」のほうが文章語的である。夏目漱石の『吾輩は猫である』の「吾輩」は、現代日本語では古めかしい。『風とともに去りぬ』の「ぬ」はもはや現代日本語では用いられぬ古語である。古い表現が看板やタイトルに用いられることは留意しておきたい。

一方、ピクトグラムは使用言語が異なる場合、あるいは文字が読めない場合でも「理解される」べきであるという前提が多かれ少なかれあるように思われる。

文字情報に関しては、日本と中国では、多くの漢字を共有しているため、「同じ」という思い込み「同文同種」⁵感が存在し、それがかえって誤解の原因になることも少なくない。それは日中同形異義語のみにとどまらず、日本語の漢字仮名交じり文であっても、中国語話者は漢字のみを拾い読みし、違った解釈をすることがしばしばある。

たとえば、薬局の店頭に「毒下し有ります」と書かれた張り紙をみて、中国語の《下毒手》を連想して驚いたというようなことがある。中国語では「殺害の手を下す。悪辣な手段をとる(小学館『中日辞典』)」という意味だからである。日中同形語の例は枚挙にいとまがない。育毛剤に「無香料」の意味で《無気味》と書いてあり、「無気味なほど効果がある」と誤解し、多くを買い込んだ日本人がいたという。こういう顕著な差はむしろ問題が大きくない。両国語の間に微妙なずれが存在し、それが蓄積し大きな問題に発展する可能性も否定できない。

看板や交通標識などではその形や色彩や設置場所も問題になる。京都では、景観の観点から、看板の大きさや色彩について条例が制定されたことは記憶に新しい。樹木の成長・繁茂や積雪・夕陽によって視界が遮られるという問題もある。

本研究では、看板や張り紙などのような公共の場所で人々の目に付く言語景観から、日中の相違を考え、ことばと表現そのものの問題だけでなく、日中の表現的差異に着目し、可能な限り言語・文化の壁を剔出することを目指したい。

第1章 「言語景観」の特徴

看板にも、交通安全や人の命の大切さを訴える普遍性の強く長期間設置されるものから、「オリンピックまで〇〇日」、「この辺り事故多し」のように時間的・空間的に制約のあるもの(以下本稿では「境遇性 *deixis* がある」という)がある。ここの境遇性とは、看板主がいつ、どこで、どのような立場に立ち情報を伝えるかによって、情報の成立する可能性が違ってくるということである。例えば「この辺り事故多し」という看板は、過去に事故が多発している場所(境遇)にあつてこそ意味を持つというようなことである。中国に多く見られる

⁵ 陳舜臣 『日本人と中国人——「同文同種」と思いこむ危険』 祥伝社 2006年

政治的スローガンを書いた看板は、多くの場合国家目標やはびこる悪弊の撲滅を主張するなど、政治的背景に依存したものである。さらには読み手の位相を意識したものがある。日本語のように境遇性とくに敬語をはじめとする待遇性の強い言語にあっては、“staff only”が客の目に入る可能性があれば、「恐れ入りますが、お客様の立ち入りはご遠慮ください。」のように丁寧な表現になり長くなる傾向がある。「進入禁止」「立入禁止」《禁止入内》などのような単刀直入なものと比較すればその違いは大きい。英語の **staff only** が動作主 **staff** と限定副詞 **only** のみでなっており、それに対応する日本語、中国語では動作主が抜け落ち、動作が一人歩きしている点である。これは本稿で主張する「ピクトグラムにおける動作主の書き加え」と関連する。日本語でも「役員室」という言い方があり、「この場所は役員室だ」という「室」の属性を指し、「立入」という動作に関してはなんら言及することなしに、「役員以外の者の立ち入り禁止」という意味を読み手に忖度させることができる。その種の例として、中国語には《無煙校区》という看板がある。これも、属性を表すのみならず、「この学校では禁煙です」という命令、禁止の意味が明確に伝わる。**staff only** の逐語訳「関係者のみ」は日本語として意味不明である。注意したいことは、英日中ともこのような掲示はドアや入口という環境の中で見られるという点である。そういう状況に依存して、省略が行われる。ただ省略の行われ方に差があり、英語では動作主が残り、日本語・中国語では動作そのものが残る点である。言うまでもなく、日本語や中国語でも「関係者以外の入室禁止」や《閑人免進》のような動作主を入れた表現も用いられるが、短くするときに残る部分が違うということである。なお **only** についてはタイトルや曲名の項でも触れる。これは、「唯一」が優越感や他者でなくほかでもないあなたという意味が、悪く言えば排外的、よく言えば「二心なし」ということになる点が大きい。

日本語・英語・中国語を比較すると、日本語の長さが際立つ。さらに読み手の状況により情報量が異なる。つまり状況依存性が高い。車内やプラットホーム、寺社の門前などでは、読み手が静止してじっくり読みとることも考えられる、その場合は、「文献」文字と大差ないこともある。しかし、多くは、高速道路の表示のように、極めて短い時間に読み取ることが想定される。

以下、標識や看板などの「言語景観」の特徴を箇条書き的に述べる。

(1) 表現のコンパクトさ

読み手の注意を惹き、伝えたいことを確実に伝えるため、目に入りやすい場所に、可能な限り簡潔に、しかも誤解のないように配慮されたものである。

(2) 言語や文化の特徴が端的に表れる可能性がある。

中国語の《禁止停車》が日本語で「停車禁止」になるのは前者が VO 言語であり、後者が OV 言語であるという言語類型論的な違いによる。《油漆未乾》(ペンキがまだ乾いていない)が「ペンキ塗りたて」になるのは、着点を「塗る」ことにおいているのか「乾く」

ことにおくのかの視点の違いによる。より一般的に言えば、中国語が起点重視型、日本語が着点重視型という言語類型論的特徴によるものである。⁶さらには中国語では《禁止吐痰》（「唾を吐くな」）のように日本語ではほとんど見かけなくなったようなものがなお見られるが、文化の発展段階の差によるか、習慣の差によるものか、あるいは乾燥し、砂塵の多い自然環境によるものなのか議論が分かれるものもある。日本語自体、標識においてさえ「止まれ」が「止まる」となるように、命令形自体が少なくなっていることも注意しておきたい。トイレでは「皆様のご協力によりきれいに使われております」といったような迂言的表現が決して珍しいものではなくなっている。

(3) 言語の多様性

看板表記の場合には、言語の多様性、つまり外国語や方言、位相差、表記の方法（変体仮名やピクトグラムなどの使用）などが駆使される。食事を含めたファッション関係でフランス語風・イタリア語風が多用され、オリジナリティを出すため誇張したり、奇をてらったりする表現（「このタバコはあなたを殺す（フランス）」）、さらには方言「好きやねん、大阪」のように様々なバリエーションを持つ。さらには好まれる色彩に大きな差が見られる。赤をはじめとする暖色を多用するのか、青などの寒色を多用するのかで景観は大きく変わる。大阪道頓堀の手足が動く赤い蟹の看板は他府県いや大阪であっても他地域に住むものからすれば、目をひきはするが、自らが居住する住居の近くにはほしくないものである。つまり、色彩や形状は国・地域の差に大きく依存する部分があるということである。

(4) 景観との関係

近年、景観との調和が強く意識され、大小・形態・色彩にまで様々な規制が行われるようになってきている。たとえば、京都市はこれまで歴史都市として、優れた自然・歴史景観を保全と形成するため、建物の高さやデザインなど、屋外広告物の表示位置・面積・形態デザインなどの規制を実施している。特に、屋外広告物に対しては、周囲の町並みと調和するため、規制対象色と禁止色に使用できる面積割合まで定められた。

第2章 先行研究

言語景観に用いられる表現についての言語学的な研究は散発的には見られるが、まとまった考察はないと言える。

本研究では、標識・看板などの「景観」文字およびそれに類するピクトグラム、端的に内容を伝えるという意味で類似する小説などのタイトルを「文献」文字と対置させることにより考察するものである。

第1節 タイトルと見出しに関する先行研究

⁶ 中川正之 『漢語からみえる世界と世間』 岩波書店 2005年

ここではタイトルについて尾上圭介（1982）⁷の日本語動詞の基本形である「ール形」についての考察を引用することから始める。

ここではとりあえず結論予想的に、ないし仮説設定的に言うなら、それは動詞の諸活用形の中で「ースル」形（終止形）の意味が直接的、素材的、直観直叙的であることに求められるのではあるまいか。（p.18）

動作動詞の場合、「ースル」形は動作概念の直接的な言語化の形として、一面では動作、作用の類別的な語彙名称として働く（この故の、辞書の項目は古来終止形で立てられている）……（p.19）

事態の骨格をただそのこととして描写するだけの本来非時間的な「ースル」形が、……（p.20）

引用は断片的ではあるが、これからのみでも、「ースル」形が書籍のタイトルとして用いられることが分かる。つまり「類別的な語彙名称として働く」ということは、当該の語の表現が動作や属性を表すものではなく、類別的な語彙名称として、指定・名付け機能をもつものであることを語っている。

尾上氏の主張の一つは、日本語の動詞終止形は、「彼は明日来る」のように未来時制を表すという大方の見方を退け、それは素材的なものであり、時間軸に定位される以前の、あるいはそれを超越した類別的なものであることを繰り返し述べている。繰り返しになるが、それだからこそ、タイトルにも用いられる。

- ① 「二階堂氏が調整に動く」（新聞の見出し）、
- ② 「南の島に雪が降る」（映画の題）、
- ③ 「カルメン故郷に帰る」（映画の題）

本研究でも、尾上氏の立場を踏襲し、タイトルに「ール」形が用いられることが多いことを確認したうえで「風とともに去りぬ」、「風立ちぬ」のような完了のアスペクトマーカ―「ぬ」を伴うタイトルが存在することを指摘しておきたい。ただし、「ぬ」が古形、つまり文語であることに注意したい。タイトルのみならず「空き室あり」のような看板にも古い形式が用いられる。「空き室ある」という現代語と比べれば格調が高いと言えるが、それがタイトル・看板に用いられることと如何なる関係にあるのか現段階では不明である。

本来書名は「門、こころ、明暗」のように名詞一語が主流であり、その事情は中国語でも変わらない。しかし奇をてらう風潮が格式の打破に向かうのは必然であろう。

尾上（2001）、大河内（1997）⁸は、素材としての言語と実際に用いられる言語の差に着目している。繰り返しになるが、尾上は、「食べる」のような動作動詞のル形が日本語教育で

⁷ 尾上圭介 「現代語のテンスとアスペクト」 『月間日本語学：一巻二号』 明治書院 1982年

⁸ 大河内康憲 『中国語の諸相』 白帝社 1997年

言われているように未来を指すという考えに異論を呈し、繰り返ル形は未来を表すとか現在を表すとかという議論そのものが的はずれたものであるとする。例えば、菊地寛の『父帰る』という小説のタイトルは、父の出奔から帰って来るまでの様々な出来事を名付ける際に、時間軸を離れて、抽象的な動詞原型「帰る」を用いたのであるとする。大河内は中国語の名詞の総称的・抽象的な側面に着目し、数量詞を付加することなどにより、実際の発話に用いられるとし、裸の名詞などを素表現と呼んだ。なお、中国語の新聞の見出しにアスペクト辞《了》などが用いられぬのも同様である。また、時間軸に定位されないということは、具体的な動作・出来事が一般化されるということである。その意味で看板標識と共通したものを有する。「事故多発」という看板は、一年前にも二年前にもここで事故が起こったというような具体的な事実を根拠にはいるが、「ここは事故多発地域である」と指定していることに注目したい。本来を「動作」は動詞が、「属性」は形容詞が、「指定」は名詞が表すが、動作・出来事であっても時間軸に定位されないことで一般化し、「指定」に用いられることを強調したい。これは、「ここはトイレです」と指定するピクトグラムや地図記号とも相通じるものである。忘れてはならないことは、小説のタイトル・標識・ピクトグラムに共通することは、示したいことを端的に表現することである。小説のタイトルでいえば、可能な限り短くすることである。

小説の短さに対して、ライトノベルの特徴の一つとして『ダンジョンに出会いを求めるのは間違っているだろうか』、『終末なにしてますか？忙しいですか？救ってもらっていいですか？』などのようにタイトルの長さが注目されている。⁹従来の小説との差別化をはかっているのであろう。

中川（2017）¹⁰は、余華の小説《活着》の日本語バージョンの訳について、日中のタイトルの差に注目している。

東日本大災害で損壊した図書館の再建にあたり新設された復興コーナーに余華の小説の日本語バージョン『生きる』が配架されていることを取り上げ、この小説は登場人物のほとんどが悲惨な死をとげるもので、復興というテーマにふさわしくない。日中両国語のずれに起因する可能性もあるとする。つまり『生きる』をおそらく「生きて行こう」とする意思を表す動詞のル形と解釈されてしまった可能性は否定できない。中国語タイトル《活着》を日本語に訳すとすれば『生きること』が最適だと思われるが、訳者は尾上（2001）の言う「類別的な語彙名称」として用いたのかも知れない。あるいは作者には一人の男が自分以外の家族が全員死んでいくという残酷な出来事に、どれだけ絶望しても、生き続けていこうという意志を持っていることを訴えているとの解釈もあり得るだろう。このような意志を震災地の人々に伝えたいと考えて配架された可能性も否定できない。

⁹ 下條正純教授は「BBP は＜異世界＞空間として可能か？-見知らぬ言語との出会い-」における口頭報告で指摘しておられるものによる。立命館大学言語教育センター 2019年1月11日

¹⁰ 中川正之 「活着」 『漢語の散歩道(749)』 日中友好新聞日本中国友好協会 2017年

中国語の《着》は動詞接尾辞として動作の進行・結果状態の持続を表すもので、日本語のアスペクトマーカ―「テイル」と似ているが、日本語小説のタイトルとして『活きている』がふさわしいのかどうか、中川（2017）は疑問を呈している。中国語では《活》のみではタイトルにはなれないし、中国人の語感では《活着》が違和感のないことを指摘し、「日中両国語のタイトルや見出しの違いは興味深い研究課題である」と指摘している。

中川（2017）では菊池寛の『父帰る』が、父の出奔から帰って来るまでのストーリーを裸の動詞「帰る」で表していること、中国語ではタイトルにアスペクト標識の《着》が用いられているようなことを念頭に置き、先に引用した尾上氏、大河内氏の問題意識を継承したものである。菊池寛の『父帰る』の中国語訳は《父帰》である。口語的な表現でないこと、ここでは、接尾辞《了・着・過》を使わず、日本語の「帰る」のように動詞《帰》のみで中国語のタイトルを表している。読み手も動詞《帰》に思いを馳せることが出来る。

もちろん人目を引くためあえて規範を破るという修辞が存在することを認めた上で、なお日中両国語の間に存在する溝について異同を追及する姿勢が感じられる。

陳舜臣の小説『玉嶺よ ふたたび』の中国語訳は《重見玉嶺》であるが、これは中国語の《重》が副詞であり、それだけでは自立性に欠けるため動詞《見》を加えるという操作が行われた。日本語の「ふたたび」と中国語の《重》の文法機能の差に由来するものである。

タイトルや看板には、そのような差異がどのように反映しているのかを考察することも本研究の目的の一つである。

第2節 「言語景観」（標識・看板）の位置づけ

前述したように、タイトルと「言語景観」に用いられる看板や標識、ピクトグラムなどの表現は端的に内容を伝えるし、「文献」文字とかなり違っている。また、「言語景観」に用いられる表現は多言語で示されたり、図絵のピクトグラムで示されたりするケースが多い。その際、読み手が母語以外の多言語に対して心理的な価値が重要な問題となる。また、読み手の母国の文化や習慣によって、ピクトグラムに対する理解も違っていく。

第1項 「文献」文字と「景観」文字の相違

高田（2011, p152）¹¹は、「文献」による文字とは紙媒体の資料に書かれた文字・印刷された文字であるとする。

「景観」文字は、「非文献」文字で、街路の看板や張り紙などに使用されるものである。このような文字は書かれたあるいは印刷された文字という点では同じであるが、「文献」が意識的に読むことを前提としているのに対して、「景観」文字は意識的、無意識的であれ、目に入ることを期待し工夫を凝らした文字である。それだけに、字体や配色などの「見た目」

¹¹ 高田智和 「『景観文字』の記録と分析のために」 『世界の言語景観 日本の言語景観 景色のなかのこぼれ』中井精一 ダニエル・ロング（編），桂書房，pp.149-165 2011年

が重視される。それはピクトグラムも同様であり、誤解なく伝えるとともに、景観と融合するようデザインされていることが期待される。

第2項 多言語表示に見ることばの市場価値

言語には優劣がないとはいえ、実際には言語の「社会的格差」が存在していることは否定できない。教育機関では、学習者が多く、人気のある言語と人気のない言語が存在するし、お国なまりは恥ずかしいということもよく耳にする。また国と国との関係が微妙に言語の「価値」に影響することも事実である。

アメリカのカリフォルニア州では、進出する中国系スーパーが店名の漢字表記をやめローマ字表記にした。無用な摩擦を避けるための措置であると言われている。こういう「見た目」の問題のみならず、何を連想させるかということも配慮される。例えば、《夫妻肺片》という有名な四川料理がある。それは、牛のハチノス（肺臓）や牛タンなどで作った辛い前菜である。しかし、「夫婦の肺」では「人間の肺臓なのか？」と誤解を招く恐れがあるし、日本語では食欲をそそるものではない。アメリカでも同様なのか、ヒューストンのある四川料理店では、映画「ミスター&ミセスミス」というタイトルを借用して料理名として、“10 best new restaurants of 2017”と名付け、食に関するランキングで“Appetizer of the Year”（2017年の前菜）を受賞した。名付けが商品価値とは密接に関係しているということであろう。

日本では来日外国人の増加により、英語のほか中国語や韓国語が併記された看板が多く見られるようになった。以下、上述の「名付け」と「連想」に関して、言語学の「命題」と「情（モダリティ）」の面から考えてみたい。

井上（2000, pp.4-52）¹²には、言語の「社会的格差」が産まれる理由として、概略次のような指摘がある。

言語には「知的価値」と「情的価値」の二つの価値がある。実際の場面でどれほど多くの人が理解するのか否かによって、さらにはそれが購入促進などの経済活動に結びつき市場価値を持つか否か、それが言語の「知的価値」である。それに対して、具体的な情報の多寡とは関係なく、言語に接する際の心理的、感情的なものが「情的価値」である。

「情的価値」は、さらに二分される。母語表記に対する心理的価値が「絶対的情的価値」で、外国語表記に接する際の心理的価値が「相対的情的価値」である。

文が事態を表す部分、つまり知的部分（命題）と、文に対する話し手・書き手の態度を表す情的部分（モダリティ）に二分することは言語学では古くから行われており、知的部分と情的部分の境界をめぐる様々な議論がある。仁田（1989, p44）¹³では、「命題として描

¹² 井上史雄 『日本語の値段』 大修館書店 2000年

¹³ 仁田義雄 『日本語のモダリティ』 くろしお出版 1989年

き出されている対象的な内容そのものがモダリティと深い相関関係を有している。モダリティを問うことは、また、命題を問うことにもつながっていく。」と指摘している。モダリティが命題と交わり、その境界が明確なものでないのと同様、「知的価値」と「情的価値」が明確に二分できるものではないと言えるだろう。

情的価値を「絶対的価値」と「相対的価値」に二分するのは、自文化中心主義と文化相対主義との二分を連想させる。この点でも自文化への執着と異国への憧れ、あるいは出自拒否と自文化への回帰という形で、一人の中でも微妙な揺れを見せるが、言語を市場価値という観点で見るという井上の指摘は注目される。

市場価値については、広告が主な考察対照になるが、言語研究者やマーケティング関係者により散発的な指摘はある。鈴木（1990, pp.47-48）¹⁴では、太陽のマークを描いている日本製の缶詰はあるアラブの国では売れなかったという。アラビア半島では、国土面積の多くは砂漠に覆われ、暑さに悩まされることが多く、太陽は我々が思うほど好ましい存在ではなかったからである。それはアラブの国々の国旗に太陽よりも月や星が用いられることが多いという点からも裏付けられる。同じモノをピクトグラムにしても、文化が違えば市場価値も違って来る事例である。

この問題は後述する男女の絵が描かれた「トイレ」のピクトグラムに見られるジェンダーの問題にも関連してくる。

第3節 「言語景観」に関する条例

「言語景観」は読み手の「情的価値」から影響を受けるのみならず、作り手からも様々な制約条件が定められる。

第1項 日本における「言語景観」に関する条例

京都市は、美しい都市景観を維持・発展させていくため景観条例を2011年に改訂した。京都の町にふさわしい、歴史的景観を阻害することのないように、広告が設置される場所、ならびに看板の大きさ、用いられる色、地域によっては、建築物に取り付けられる看板の位置・高さまで細かく規制したものである。広告の内容あるいは用語に関しては、明確な規定はないが、『京都市屋外広告物等に関する条例に基づく車体広告の特例許可に関するガイドライン』¹⁵では、広告内容の制限を以下のようにしている。

(4) 広告の内容

¹⁴ 鈴木孝夫 『日本語と外国語』 岩波書店, 242p 1990年

¹⁵ 「京都市屋外広告物等に関する条例に基づく車体広告の特例許可に関するガイドライン」 2003年6月 京都市都市計画局

URL:<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000056/56450/20030600.pdf>

(最終閲覧日: 2017年10月8日)

以下に該当する内容の広告は望ましくない。

- ア 性や暴力を意識させるもの
- イ 青少年の健全育成の観点から好ましくない業態及び商品
- ウ 身体の一部等を殊更に強調し、生理的不快感を与えるもの
- エ 違法又は反社会的な業態及び商品に関するもの

日本国憲法では「言論の自由」をうたっているが、それに配慮しつつも、公序良俗に反するものを排除しつつ、伝統的な景観を維持しようとしたものであると言える。

第2項 中国における「言語景観」に関する条例

中国でも広告に関する法例が存在していたが、2015年4月24日第十二回全国人民代表大会常務委員会第十四回会議で改定され「これまでで最も厳しい」とされる新しい『広告法』が發布された。2015年9月1日から現在に至るまでこの法令に違反し摘発された事例は多い。以下『広告法』の具体例を幾つか挙げておく。

『広告法』第二章広告内容規則¹⁶第九条

第(三)項 《国家級(国家レベル)》《最高級》《最佳(最高)》のような最上級を表す用語の使用は禁止する。

「最上級を表す用語」とは具体的には以下のものである。

国家級(国家レベル)、世界級(世界レベル)、最高級、最佳(最高)、最大、第一、唯一、首個(初めての)、最好(最も良い)、精確、頂級(最高級)、最高、最低、最具(最もふさわしい)、最新技術、最先進科学(先端科学)、国家級産品(国家レベル商品)、最便宜(最も安い)、絶対、大牌(高級ブランド)、名牌(有名ブランド)、王牌(奥の手)など。

¹⁶ 《广告法》第二章 广告内容准则 第九条 广告不得有下列情形：

- (一) 使用或者变相使用中华人民共和国的国旗、国歌、国徽，军旗、军歌、军徽；
- (二) 使用或者变相使用国家机关、国家机关工作人员的名义或者形象；
- (三) 使用“国家级”、“最高级”、“最佳”等用语；
- (四) 损害国家的尊严或者利益，泄露国家秘密；
- (五) 妨碍社会安定，损害社会公共利益；
- (六) 危害人身、财产安全，泄露个人隐私；
- (七) 妨碍社会公共秩序或者违背社会良好风尚；
- (八) 含有淫秽、色情、赌博、迷信、恐怖、暴力的内容；
- (九) 含有民族、种族、宗教、性别歧视的内容；
- (十) 妨碍环境、自然资源或者文化遗产保护；
- (十一) 法律、行政法规规定禁止的其他情形。

新しい『広告法』第五十七条では、法律違反に対する料刑も明記されている。「工商行政管理部门によって広告・宣伝の停止、広告主に20万元以上百万元以下の罰金とする。違反が重大な場合、営業許可証の没収、広告審査機関による広告審査の許可書類の取り消し、一年以内の広告審査の申請の禁止」¹⁷である。

第3章 研究目的

本研究では、看板やタイトルなどに見られる絵文字（ピクトグラム）や言語表現などを、言語類型論的、認知言語学的、日中言語対照的観点から検討を加える。

中川（1992, p.19）は、言語類型論的に中国語・日本語・英語を検討したものであるが、寺村（1976）、池上（1981）をうけ、中国語は「する」言語である英語と「なる」言語である日本語の中間に位置づけているが、例外として動詞が表す動作の成立に関するものを挙げている。

動作の成立における日中差を指摘した荒川（1981）を概観する。¹⁸

- (1-C) 记了, 可是没记住。
- (1-J) *覚えたが、覚えられなかった。
- (2-C) 抓了, 可是没抓住。
- (2-J) ?つかまえたが、つかまえられなかった。
- (3-C) 找了, 可是没找到。
- (3-J) 搜したが、見つからなかった。

以上3例は中国語としては問題ないが、その日本語訳は1>2>3の順に不自然さが増す。それは中国語の《记》が、覚えようとする動作を始めた段階で成立するのに、日本語では記憶に留めた段階になってはじめて「覚える」という動作が成立すること、つまりアスペクトに関わる問題である。この傾向はかなり一般的で、荒川（1981）は多くの例を挙げている。さらに池上（1981）では、“invite”、“persuade”などの例を挙げ日本語の「招待する」は「招待したが、来なかった」、「説得する」は「説得したが、だめだった」のように言えるが、英語では招待に応じる人が来てはじめて“invite”が成立し、説得に応じてはじめて“persuade”が成立するとしている。つまり英語は日本語より「結果の<達成>」という深い段階まで至らないと動作が成立したと見なさないとしている。“invite”に対応する中国語の例を荒川（1981）は挙げている。

- (4-C) 请了, 可是他不来。
- (4-J) 呼んだが、彼は来ない。

2007年の松岡農林水産大臣の自殺の中国語記事の見出しが《松岡農林水産大臣自殺身亡》

¹⁷ 同上 第五十七条 有下列行为之一的, 由工商行政管理部门责令停止发布广告, 对广告主处二十万元以上一百万元以下的罚款, 情节严重的, 并可以吊销营业执照, 由广告审查机关撤销广告审查批准文件、一年内不受理其广告审查申请。

¹⁸ 例文番号は引用者からした。例文の前の*は非文法的なもので、?は母語話者によって成否が分かれたり、不自然に感じられたりするものである。

となり、《身亡》がなければ、松岡氏が死に至ったかどうか不明であろうか。¹⁹日本語の見出しで「松岡農林水産大臣自殺」とあれば、誰でも彼が死に至ったと理解する。「自殺」では中国語と日本語が成立しているが、中国語の「自殺」という動作動詞が「行為」のみをいい、「結果」まで言及していない傾向がみられる。

さらには、視点、デフォルト、初期値の違いが問題になる。例えば、日本語の「半旗を掲げる」を中国語では《下（降）半旗》と言うが、これは視点の置き方や、旗が本来ある状態つまりデフォルト、あるいは初めにどういう状態を想定するのつまり初期値の問題に起因すると思われる。《下（降）半旗》は中国語では、旗が最上位にあると想定しており、下へ降ろすという動作に注目され、「半旗を掲げる」は最初の掲げる段階から始まるだろう。中国語話者にとって「掲げる」という動詞が英語の“raise”として捉え、誤解を生むことがあると同様に、日本語話者にとって《下（降）半旗》の「掲げる」と正反対の《下（降）》は分かりにくい表現ではないだろうか。

このように見出しや貼り紙・看板のような簡単な語句であっても各言語の差異が反映することがある。本稿では可能な限りこのような事例を収集し、理解に差が生じる原因を探ってみたいと考える。

第1部：看板・標識と言語

第1章 看板・標識の機能・働きから——指示・勧告・命令

看板・標識は看板や張り紙などのような公共場所で人々の目に付く文字情報であり、「言語景観」とも言われる。

張（2011, p.24）は看板の表記内容を（1）行政・公的団体、（2）商業、（3）個人の三種類に分けている。「行政当局並びに団体組織が管理のために掲示した安全・衛生規則、通知、道路・地名標識、機関・団体標識」が（1）の行政・団体であり、「集客目的を持つ店舗名、広告板など」が（2）の商業標識、「私宅の表札、または私有地に関する注意事項の看板」が（3）の個人標識としている。

看板表記は、文字によるものピクトグラムによるものをまとめて標識と呼ぶことにすれば、機能的側面から、（1）指示標識、（2）勧告標識、（3）命令（禁止）標識と三分することもできる。以下具体的に考察する。

第1節 指示標識

指示標識は、団体・機関名を表す看板、地名、あるいは《機動車道》（自動車道）、《分離式道路》（分離帯で分けられる車道）のようにある地域や場所の属性を示す看板表記などがある。

¹⁹ 中川正之教授は授業で示唆された見出し文による。



図1 「自転車を除く」という指示標識

交差点の手前に「指定方向外進行禁止」で左に曲がる矢印があり、補助標識で「自転車をのぞく／一方通行」という標識がある。

ここでは、自転車はいったい左に曲がれるかどうかという疑念が、少なくとも中国語母語話者である筆者には生じる。そこで「除く」の意味を辞書でしらべた。

「除く」

- ① そこからなくする。取り除く。取り去る。《去除, 除掉, 消除》
- ② (それまで許されていた資格などを) 取り消す。《取消, 除去, 除名》
- ③ 加えない。除外する。別にする。《除了, 除外》
- ④ 誅する。殺す。《除掉》

(『広辞苑』第五版 岩波書店)

「自転車を除く」の「除く」は、③の「加えない。除外する。別にする。」に相当するだろうが、この標識から、以下の二つの読みが可能になる。

- (A) 自転車のみ指定方向外進行可能 (もちろん指定方向へも進行可能)、上記の図の場合、自転車のみが右左折・直進のいずれもが可能であるが、その他の車両は左折しかできない。
- (B) 自転車のみ指定方向へ進行不可能、ここでは、自転車のみ左折できない。

(A) の読みは、左にカーブする標識を目にして、自転車の通行が、左だけではなく、どの方向でも通行可能ということである。そもそも青地に白矢印の標識は「指定方向外進行禁止」という意味であり、大多数の日本語ネイティブの感覚では、「自転車の左方向以外通行禁止」の適応から除外したということである。

それでは、なぜ筆者は B の読みをしたのか。来日間もない頃であったが、「自転車を除く」という標識を見て、左折可能なのは自転車以外と感じた。つまり青地に白矢印の標識を見たとき、「指定方向へ進行可能」と思ったのだ。今でもそれが一番自然な読みではないかと思っている。さらに、「自転車を除く」という標識を見て、「指定方向へ進行可能な車両」から自転車が除外されると直感的に感じたのである。大学で日本語を勉強したとはいえ、来日間もない筆者にとって「青地に白矢印の標識」は矢印の方向に進行するとは見えなかったのだ。

(A) と (B) の感覚を中国語に翻訳すると、

(A) 《所有車都只能左拐，除了自行車（不只能左拐，还能右拐、直行）。》指定方向外進行禁止の全ての車の範囲から自転車を除外すること。

(B) 《所有車都能左拐，除了自行車（不能左拐）。》指定方向へ進行可能なすべての車の範囲から自転車を除外すること。

筆者のみならず、日本語社会における禁止や否定を誤解する中国語話者は少なくない。以前プラットホームでよく耳にした「電車が近づいてきておりますので白線の内側までお下がりください」というアナウンスに対して「私は白線の外側に出ていないのに、なぜ白線の内側まで下がるよう注意されなければならないのか」と言ったものだった。主語を明示しない日本語が誤解を生む原因の一つであって、このアナウンスも「白線の外側に出ている人」に向けて発せられたものである。より一般的には、命令文の強制力と言われるもので、**Please smoke here** と喫煙場所を表示した英語表示も、設置者の意図は「喫煙者」に向けたものであったが、英語としては非喫煙者にも「ここでタバコを吸いなさい」という強制力を持つものになってしまう。

交通標識に話をもどすと、「除く」対象が自転車であることは明白であるが、この標識が意味するところの恣意性が関係しており、それがデフォルトとして普遍性を持つのか否かが問われなければならない。

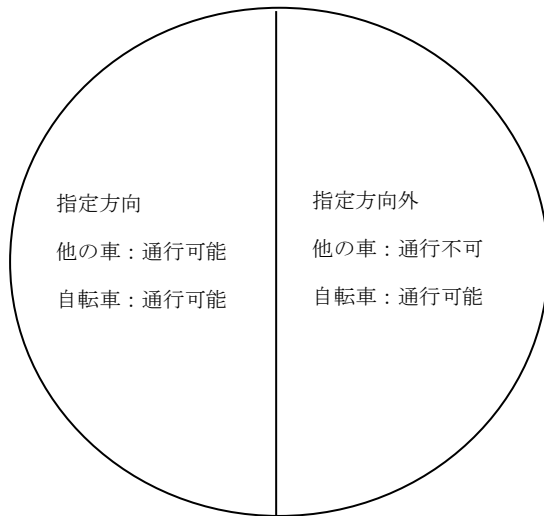


図2 Aの感覚

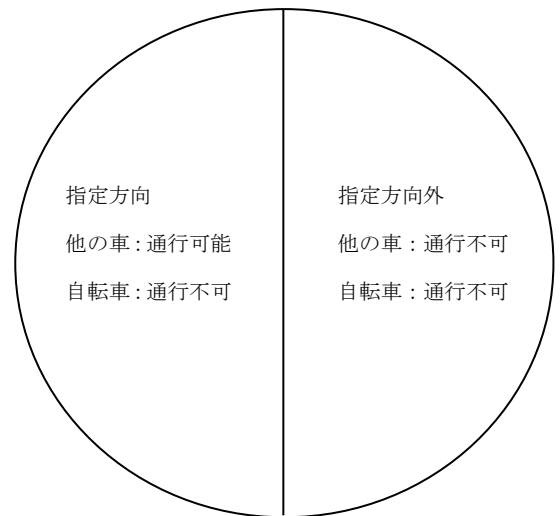


図3 Bの感覚

図2と図3をよく比べると、Aの感覚とは、指定方向外（すべての方向）の範囲で判断することで、Bの感覚とは、指定方向内の範囲で自転車を除いた結果である。

中川（2005）は、日本人が空間的にも、時間的にも中国人より視野を広くとることを指摘している。日本語の話し手は、あるものの内部を覗きこむより、視野を大きくとり境界を超えた部分との関係で捉える傾向が強いといえる。²⁰上記の図3のように、中国人としての筆者は、指定方向へ進行する範囲で自転車が含まれている可能性のみを考慮している。一方、日本語のネイティブの感覚では、指定方向外の範囲で通行することの可能性まで考慮に入れていると言えるだろう。



図4 京都市バスの均一運賃区間



図5 ある居酒屋のキャッチコピー

²⁰ 中川正之『漢語からみえる世界と世間』岩波書店 2005年 p.153

上の写真は、いずれも日本語が、乗車区間外や営業時間外を視野に入れ、配慮したものである。中国語ならば、《非乗車（優惠）区間》、《非営業時間》のように、《非ー》の形で表され、考慮の外に置かれるところであろう。

言語学的には、否定のスコープの問題と関係するが、ここでは深入りをしない。

第2節 勸告標識

勸告標識とは注意すべき事項を明確に禁じるのではなく、対象者の関心・注意を喚起する看板表記である。たとえば、《小心地滑》（床が滑ります）、《小心台階》（階段あり）、《小心碰頭》（頭上注意）、《小心駕駛》（安全運転）、《注意安全》（慎重に）、《油漆未乾》（ペンキ塗りたて）などがある。（ ）は日本語訳であるが、《小心地滑》（床が滑ります）の例からも、日本語が事実を述べることで、間接的に注意を促す傾向にあることが読みとれる。中国語では四字句が圧倒的多数であるが、日本語は一般的に長くなる傾向がある。《小心地滑》もすべてを日本語にすれば「床がすべりやすくなっておりますので、ご注意ください」のように長くなる。この点は禁止・命令においても同じことが言える。最近では「皆様のご協力により、このトイレは清潔に使われております」のような感謝の言葉を書いたものすら見られるようになった。禁止から勸告へさらには事実の指摘、そして感謝の表明と、日本語が婉曲表現を好むという性格がより強くなっている事例である。

第3節 命令標識

命令標識（禁止表現）とは《別吻我》（衝突注意）、《请勿吸煙》（禁煙）、《嚴禁煙火》（火氣嚴禁）、《禁止停車》（停車禁止）のように直接的表現で命令・禁止を表示するものである。命令語句によく現れる強制動詞を以下のように、定義される。

ほかの動作を遂行せしめ、それらの動作の実現を助け、または妨げるか、または少なくともこれらの動作の遂行を認め、許すような動作を意味する。²¹

中国語では以下のような語が用いられる。

《请》 何かをするように頼む、依頼する。

《禁止》 禁じる

《准, 许, 准许》 許す

さらに、《别》と《勿》が用いられる。《勿》は書き言葉であり、看板にもよく見られる。《請勿吸煙》（喫煙禁止）、《非誠勿擾》（誠意がなければお断わり）。話し言葉では禁止命令は、《不要》が一般的であるが、書き言葉になると、とりわけ立て札のようなものには、《勿》

²¹ C.E.ヤーホントフ著、橋本萬太郎訳『中国語動詞の研究』白帝社 1987年 p.87

が用いられる。荒川清秀（2015）²²は、中国語では、看板に限らず手書きの伝言でも、書き言葉になる。話し言葉をそのまま書くと、教養がないように思われはしまいかと恐れるそうであると指摘している。

図6で示したように、《別》、《请勿》、《禁止》を比べると、いずれもが命令表現ではあるが、口語的な《別》はやや軽く、書面語的な《请勿》と《禁止》は、フォーマルで、かたく、命令あるいは禁止の語気（モダリティ）が強い。さらに、《別》は、聞き手が何かをすることを話者が主観的に願わないことを言う。²³《请勿》と《禁止》も禁止を表すが、客観的に何かを実行する可能性がないというニュアンスが強い。



図6 《別》、《请勿》と《禁止》の語感の違い

日本語でも、「立入禁止」「飛び込み禁止」などのような禁止や命令標識が頻繁に見られる。しかしながら、前述の「床がすべりやすくなっておりますので、ご注意ください」に見られるように、日本語では、禁止から勧告標識に変わる婉曲表現も少なくない。

第2章 「言語景観」にみる表現のテクニック

賃貸マンションなどで空室があることを看板で知らせる場合、「空室あり」とやや古めかしい表現をとる。こういった古めかしい表現が格調ある表現に繋がる。中国でも「コック募集」を《招聘厨师》とすることがある。《招聘厨师》のような四字で短いフレーズの使用で読み手にインパクトが与えられる。こういうことに如何なる効果があるのかは今後の課題としたい。

第1節 修辭の使用

交通事故防止のため、車の後ろにステッカーがしばしば貼られることがある。運転中あるいは停車中に他の車に追突されないように《别吻我》（衝突注意）、《别吻我，我怕羞》（「キスしないで、恥ずかしいから」、衝突注意の意）のようなおどけたものも見られる。もちろん《追尾危险》（衝突危険）、《保持车距》（車の距離を注意する）などのないわば普通の表現もあるが、《别吻我，我怕羞》（「キスしないで、恥ずかしいから」）は、車を人間に見立てた修辭の一種である擬人化である。

²² 荒川清秀「街の中国語から見えてくるもの」『中国学志』2015年

²³ 朱德熙著、杉村博文・木村英樹訳『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説—』白帝社1995年 p.80



図7 《别吻我》の標識

相原（1996）によると、修辞を大きく分ければ、中国語では以下のようなものがある。《比喻》、《借代》、《比拟》、《夸张》、《对偶》、《对比》、《排比》、《反复》、《双关》、《设问》、《反问》、《反语》、《引用》、《婉转》、《衬托》、《顶针》など。

問題の《别吻我》は、《比拟》である。相原（1996）が指摘するように、《比拟》は、物を人に擬したり、別の物に擬して表現するという修辞である。車を「擬人化」すると、当然のことであるが、単なる物よりも感情移入されることが多く、慎重な運転を促し、衝突などの事故を回避できる可能性が高いと考えられる。

このように意表をついた表現でインパクトを強めることに一定の効果はあると思われる。

さらに、《别吻我，我怕羞》の《羞》には、《双关》と呼ばれる修辞が用いられている。相原（1996）の説明を引用すれば、《双关》とは、一つの語に二つの意味を持たせる「かけことば」で、発音が同じ、あるいは派生義をもつ語であることが前提になる。《别吻我，我怕羞》の《羞》の場合、《修》と同音で、「恥ずかしい」のみでなく、「修理する」をも含意する。つまり、《我怕羞》は「私は恥ずかしい」と「私は修理（費用）が恐ろしい」の意味を持つことになる。

このような事例は、商品名などでは古くから用いられてきた手法ではあるが、個人が使用するものにも広がってきていることを物語る。キャッチコピーやロゴ、キャラクターが氾濫する時代の産物であると言えるだろう。

第2節 数量詞の使用

キャッチコピーの修辞として、様々なものが挙げられるが、ここでは数量詞を用いたものを見ておこう。日本では風邪薬「ルル」のコピーとして「クシャミ三回、ルル三錠」が1957年以来今日でも用いられている。三島由紀夫『文章読本』（中公文庫）は、「注意一秒、怪我一生」などの例を挙げ、これらはいずれも七五調という日本人の心に深く根差したものであるとしている。もちろん数量表現の明晰さによるところも小さくはない。

中国では、デビアスダイヤモンドのキャッチコピー《鑽石恒久遠，一顆永流傳》（ダイヤモンドは永遠に変わらず、一粒が子々孫々まで永く伝わる）がまず頭に浮かぶ。「一顆」という数量詞で、数量の少なさを強調し、たった一粒が変化せずいつまでも持つことができることを謳う。さらには、ダイヤモンドの持ち主にダイヤモンドの硬さと永遠の愛情を重ね合わせるにより購買意欲をそそる。

《五顆花生米才能提煉一滴魯花花生油》（五粒のピーナッツでたった一滴の魯花（ブランド名）ピーナッツ油）は一滴のピーナッツ油を搾り取るのに5粒のピーナッツが必要だと、明確な数字で油の純正度を表している。数量詞の持つ客観性を利用して、真実味を醸し出している。副詞《才》は、数量表現に用いられると「わずかに」という意味を持つことがあり、ここでは、「5粒のピーナッツで、わずか一滴のピーナッツ油しかとれない」とその希少性を強調している。

第3章 「有」と「在」について 一行き先表示板をめぐる

人間の認知において「存在すること」がまず前提になる。「あの自動車は速い」の前提として「自動車が走る」という前提があり、その前提には「自動車がある」ということが前提になる。言葉を変えれば、「有る」は前提を必要としない、もっとも原初的な言葉である。

中国語の《有》は、存在物を後ろにとり、[場所・時間+有+存在物]の語順をとる。文頭の場所や時間を表す言葉は省略されることもある。論語の《有朋自遠方來、不亦樂乎。》は、《有朋》で始まる。日本のおとぎ話の多くが「むかしむかしあるところにお爺さんとお婆さんがいました」と存在から始めるのと同様、《有》は初めにふさわしい。

以下に見る表示にも《有》が多く用いられているのはこのことと無関係ではないが、まず《有》と《在》の日中対照を簡単にしておこう。

第1節 中国語の《有》と《在》

先にみたように事物の《有無》（現代語では《無》に代わって《没有》が用いられるが、本稿で扱う範囲ではなお《無》が用いられることが少なくない）をいう場合、《有》構文が用いられる。この構文は、先の論語の例でも分かるように古くからある構文である。《有》構文は先に述べた事由により、話題に初めて導入される、いわゆる不定 *indefinite* の場合が多い。不定とは、話し手・聞き手にとって未知なものが典型であるが、「(駅前で立っている知り合いに)何をしているの?—人を待っています」のように話し手は知っていてもことさら聞き手に言う必要がない場合、つまり不特定 *unspecific* を表すマーカーとしても用いられる。日本語の「或る人」がそうであるように中国語の《有人》も不定・不特定のいずれをも表す。

《有》構文が不特定を表すのに対して、《在》は[存在物+在+場所]という文型をとり、存在物は既知 *definite* である。つまり話題になるなどして既知の状態の人物や物がどこに存在するのか、すなわち「所在」を言う形である。

中国語の《有》が「有無」を言い、《在》が「所在」を言うのに対して、日本語の「ある」は無生物、「いる」は有生物、とりわけ人間の存在を言うのが原則である。もちろん「彼には妻子がある」のように彼について「既婚者である」といった属性をいう場合はその限りでなく、「景子という妻、太郎という子ども」のように特定化すれば「彼には景子という妻と太郎という子どもが*ある/いる」というように「いる」を用いなければならない。中国語の《有》と《在》と日本語の「ある」と「いる」の使い方の原則が異なる。しかし、一方で存在・所有をいう表現が完了表現と関わる（中国語方言に見られる《有没有去过？》のような表現、あるいは英語の *have*、フランス語の *avoir*、ドイツ語の *haben* などが完了に関係する）一方、《在》や「いる」が進行中を表す（英語の *He is at work.*）などの言語普遍性に関わる現象や、次の例のように人間が他の動物や事物よりも既知であることを前提にすることが多いことにより両者が混同されることがある。

例 （急に） 父/友だち/?猫が病気になりました。

《有》がなんの前提もなしに用いられることから注意書きなどにも多用されている。

① 《有電危険，請勿靠近。》

（電気が危険ですから、近づかないでください。）

② 《天台有座》

（屋上には座席がある。）

③ 《有茶喝，有 Wifi，有飯吃。》

（お茶のサービスあり、Wifi あり、ご飯も食べられる。）

④ 《人血白蛋白 有售》

（ヒューマンセロアルブミン販売中。）

⑤ 《有空房》

（空室あり。）

⑥ 《無煙校区》

（キャンパス全面禁煙。）

⑦ 《無煙景区》

（観光地全面禁煙）

上記の例の文法形式から見ると、《有》構文には⊖《有》＋名詞（あるいは名詞の属性を表す短い文）、⊖《有》＋動詞²⁴などがある。

⊖《有》＋名詞（あるいは名詞の属性を表すフレーズ）

²⁴ これを「動詞」ということには様々な議論がある。朱徳熙は、二音節の動詞に名詞的な用法があるとするが、名詞化 *nominalization* という議論もある。本稿では朱徳熙を承けて「名動詞」とする。

呂（1980）²⁵では、《有》を以下のように説明している。

ア) 表示領有、具有，可帶《了》《過》。否定式為《沒有》、《沒》。

（所属關係を表す。《了》《過》が後ろ付けられる。《沒有》《沒》で否定を表す。）

イ) 表示存在

（存在を表す）

比如，《他有意見了》。（彼には異なった考えがあった。）

这里的《有》表达了一个从没有到有，或者从有到没有，这样的一个变化的过程。²⁶

（ここでは、《有》は無しから有るないし有るから無しという変化のプロセスを表す）

例①の《有電》は存在の意味で、「電気がある」である。《有電》と《危険》が因果關係を表し、《危険》が後ろに付ける。もしこの文の《危険》を《小心》に変えると、《小心》は他動詞であるので、《有電》の前に付け加え、《小心有電》の形になる。

例②の《有座》は存在を表す。《有電》と同じ意味だが、注意を惹く看板と違って、情報提示で、「屋上に座席がある」ということを示す。

例②の《有》はウ) の用法と同じく、三つの条件が並べて、列挙している。

㊦ 《有》 + 名動詞

朱（1995）²⁷は：《有》是准谓宾动词，宾语可以由动词充当，但只能是某些双音节名动词或者是偏正结构短语。例如：有影响 有准备 有调查 有计划 有深远的影响 有周密的计划。

（朱（1995）は、《有》は動詞で、述語として動詞を後ろに付けることが出来る。しかし、後ろの述語が双音節動詞または主述關係を表す短文しかないと言っていた。《有》 + 単音節動詞は現代漢語の中で極めて少ないということがわかる。）

また、《有》 + VP の用法が広東語あるいは福建方言でしばしば見られる。

例えば、《昨天我有看电影。》（昨日、私は映画を見ました。）

《最近有想我吗？》（この間、私のことを思っていますか。）

さらに、古い漢語では、よく《有》 + 動詞（単音節）の形が見える。《有劳（了）》《有辱（斯文）》など。《有》がアスペクト標識であることを示す例である。

張（1999）では、「在粤语和闽南话中，由于有一个与否定副词相对的肯定副词《有》，所

²⁵ 呂叔湘 『現代漢語八百詞』 商務印刷館 1980

²⁶ 孟昭水・范淑華 「談“有”的有界性」 『泰安師專學報』 Vol.23 No.5 2001

²⁷ 朱德熙著、杉村博文・木村英樹訳 『文法講義—朱德熙教授の中國語文法要説—』 白帝社 1995年

以回答问题时，可以用《有+动》和《没有+动》的形式。」²⁸

(《有》は副詞で、肯定の意を表す。副詞の《有》に対して、否定の副詞《没有》も存在する。)

中国語の看板で、古い漢語の文法を使用し、書き言葉のように示している。

例⑤の「空室あり」は現代語風に「空室ある」では看板やポスターにはならない。荒川清秀(2009)²⁹では、中国語がポスターやメモなどでは古い形が顔を出すことを指摘している。

例④の《有售》も《有》+動詞という漢語の古い形の一つと考えられる。

日本語では、「空室あり」のほか、古い形が看板に見られる例が様々ある。

たとえば、

⑧「事故多し」 交差点付近で、注意喚起のため掲げられている。

⑨「大阪観光局：電車・バスに1日乗り放題！観光スポット40ヶ所以上無料！約27施設と65以上の店舗で特典あり！」 交通施設の広告看板など。

例⑥と⑦の否定形の《無》は「禁煙」の意味であるが、近年中国でもこのような間接命令表現が増加している。ただし、標識によくみられる《無人駕駛》の《無》は禁止の意は入っておらず《有無》の《無》と同じく運転者がいないという意味である。

第2節 行き先表示などに見る「有」と「在」

大学の研究棟の各研究室のドアに「行き先表示版」がある。「授業中」の「中」は中国語でも用いられつつあり、また「営業中」の「中」に代わって《正在營業》という中国語の貼り紙があるのを見たことがあるが、「在室」は中国語に存在しない。

トイレの「使用中」か否かは「有(人)」あるいは「無(人)」であるが、研究室の場合は、存在物は既知であるので《有》は用いられない。日本語・中国語とも「在任中」は可能であるが、〔在+場所〕に関して、日中語で出入りがあり、日本語では〔場所〕が一音節という制約がありそうである。「在日」は話し言葉でも使用できるが〔場所〕が長くなり「?在コスタリカ」のようになると「於会議室」の「於」と同様、書き言葉専用の形態素になるなど、まだまだ検討しなければならないことが多い。

下記の表1のように、〔在+場所〕に関する日中語を挙げておく。

日本語	中国語
在学	在校
在職	在職
在室	工作中, 正在辦公
在勤	在崗
在任	在任

²⁸ 張豫峰 「“有”字句的語用研究」 『河南大学学报』 Vol.39 No.3 1999

²⁹ 荒川清秀 『中国語を歩く—辞書と街角の考現学—』 東方書店 2009

在庫	庫存
在館	館存
在日	駐日
在韓	駐韓

表1 「在+場所」に関する日中語

「在日」と「在韓」が存在するのに、「在中」という言い方は存在しない。「在中国日本国大使館」のように「在中国」という形になる。封筒に書く「(履歴書) 在中」と紛らわしくなるからということも考えられるが、「在英・在米」なども不自然であることを考えると、個別的な語彙の問題であろう。なお「在韓」という日本語も不自然であると感じる日本人も少なくない。

日本語では「在日米軍」、「駐日大使」のように両方が用いられる。なお、「在日」は朝鮮半島出身者で日本に居住している人のことを言う場合もある。

「在庫」と「在館」は中国語では、《存》という動詞を用い、その語順は逆転し「名詞+動詞」の形になるが、その理由は分からない。

第4章 標識・看板と方言

標識や看板が広く人の注意を喚起することを目的としたものである以上、その言語においてもっとも広く通用するものを用いるのが効果的であるが、逆に方言を用いることにより独特の効果を生み出すことがある。時には同郷の人の符牒として仲間意識の確認にも使用されるが、景観としては、異国情緒とでも言うべき、非日常性を醸し出すことが多い。

⑩ 《鶏脚沓兒》(中国の蘇州にある鶏の足を売る店の店名)

《沓兒》は、「隅っこ」という意味の中国の北部方言で、辺鄙なところで営業している店ということになる。それは謙虚であるともとれるが、隠れ家的なニュアンスをも醸し出す。それとともに、《鶏脚(jijiao)》は「鶏の足」の意味であるが、ここでは《犄角(jijiao)沓兒 gala(隅っこ)》と四字句の《犄角(jijiao)》と同音であり、《鶏脚沓兒》は中国語話者に《犄角沓兒》を想起させる。

⑪ 《請打賞哦》(アイテムを送ってくださいね。)

ここの「アイテム」とは、褒賞金のことを指している。たとえば、レストランでサービスを受ける際に、チップを払うというのもその一つである。また、中国で近年、《直播》というユーチューバーやアフィリエイターという形のライブ配信方式が盛んで、インターネットを通して、ネット有名人が(カメラを通じて)無料ライブを配信するシステムのこと、例えばチャンネル登録者に化粧のテクニック、流行しているものの紹介や歌を公開している。鑑賞するファンたちが自分の好きなキャスターやネット有名人に褒賞金を送ったりす

ることで、支える意を示している。

⑫ 《打赏有理》（好きなものや人に）アイテムを送ることは理にかなっている。）

《打赏》は、古い時代から伝わるもので、身分や地位が高い人からお金や物などを身分や地位などの低い人にあげるということであるが、今は、身分や地位などに関わらず、特に無料サービスを受ける場合、チップを支払うというような意味である。近年、《打赏经济》が流行り、《主播》（キャスター）、《网红》（ネット有名人）のような人に《红包》（お年玉のようなもので、今は年末以外でもめでたい場合普通に用いられる）をあげるという方法で称賛するあるいは感謝する気持ちを表す。また、ウィーチャットのような SNS アプリでの公式アカウントの文章やコメントを読む際、「いいね！」を押すか褒賞金を送るかという形で書き手に感謝の意を示す。

《自媒体》（自メディア、小規模ネットワーク）などと同様に、新たに生み出された経済的なパターンの一つとして流行っている。要するに、リスナーがネット有名人やキャスターのライブや中継を見る際に、相手にアイテムを送るような手段ということである。

配信の後に⑪⑫のようなテロップが流される。ここの、《打赏》は特定の方言というより、古い表現が復活したと考えられる。

《打 X》：《打的》（タクシーを呼ぶ）、《打理》（整理する）、《打赏》、《打点》（準備する）、《打饭》（食堂でご飯をもらう）、《打水》（水を汲む）、《打卡》（タイムカードを打刻する）。

《打》は、現在の中国語では普通に使用されている動詞であるが、《打的》の《打》は広東語の《搭的士》の《搭》に由来するとする説もある。一般的に南方の方言の一部が若者言葉として全国に広がり、普通話に根差すという例は少なくない。そのような「新しい」表現が広告などに多用されることは珍しくない。

⑬ 《客官留步》（お客様、（別のところに行かずに）そのままお待ちください。）

客を呼び込む看板である。《留步》も特定地域の方言とは言えないが、古い漢語表現の一つである。古い町並みの地域でこの看板を見つけたときは、この表現が景観にマッチしていると思われる。

⑭ 《吃茶》

方言の多くは、古い漢語の形を残したものである。

《吃》と《喝》の混同もその一つであると考えられる。普通話では《喝茶》が一般的であるが、中国語呉語では《喝茶》の意味で《吃茶》が用いられる（発音はピンインの [chicha] ではなく、日本語表記で「チェヅ」に近い発音である）。日本語の「喫茶」と同じである。中国語では、漢字の簡略化の方策の一つとして、《喫・吃》のように同音で、意味的にも関連がある場合には、字体の簡単な方に統一するというものがある。その結果《喫⇒吃》とい

うことになった。日本語に入った漢語や呉語が古い形を保っている例である。呉語では、《茶》以外でも、《吃酒》、《吃茶》、《吃香烟》、《吃鴉片》などがある。つまり、《喫》は、「飲む、吸う」の意も含まれているということである。

⑮ 《請勿泊車》（駐車禁止）

《泊》

『現代漢語大辞典』によると、

1. 停船靠岸（船を港や岸にとめる）、《停泊》、《泊舟》、《泊船》など。
2. 栖止，停留（しばらくとどめる）、《漂泊》。
3. 心が安らかする、《淡泊》。

広東語では、船のみならず、車も《泊》という動詞で表す。

古詩には、次のような用例が見られる。

唐・杜牧『山行』《停車坐愛楓林晚、霜葉紅于二月花。》

唐・杜甫『絶句』《窓含西嶺千秋雪、門泊東吳万里船。》

《泊車》は広東語で「車を停める」という意味である。しかし、広東語の《泊》([p'ak])は、英語の「Parking」の音訳から由来したという説もあり、古い漢語の《泊》の意味が拡大したとする説と錯綜している。

英語由来だと考えると、《泊車》と《停車》は時間的に差がある。《泊車》は Park という英語で、「長い間に駐車する」という意味である。《停車》は Stop という英語から来て、「暫く」という短い時間を指している。日本の「停車」と「駐車」の違いと同じである。日本の交通標識としても区別されている。なお、日本では一晩以上不法駐車した場合は、車庫法違反というより重い罰則が科せられることがある。

中国の東北地方にあるレストランの看板が筆者の印象に残っている。東北には《猪肉炖粉条》という名菜がある。そのレストランの看板では、東北方言で《猪又炖粉条》と書かれた。異郷者の筆者がそれを見て、《猪又》に惹かれ、東北方言と思いながら異郷感・非日常感を感じられる。また、蘇州のバスでは、蘇州方言を用いてアナウンスすることがある。異郷者に非日常感を与える効果があるとはいえ、蘇州語話者あるいは蘇州方言がわかる人に親しみ感を思わせるであろう。異郷感であれ、親しみであれ、いずれにしても、方言を用いることによって、読み手にインパクトを与える。

第5章 看板表記にみる語気助詞（文末詞）

「何とかぜよ」 土佐弁

「おいでやす」 京都弁

言語景観における方言の使用は、象徴的な意味を含み、全国共通の地域性の表示のような

ものになっている³⁰。役割語（金水 2015³¹）に近く、実際に用いられているか否かという問題はひとまず置いておいて、日本語話者が共通のイメージを持っているものである。たとえば、任侠映画や漫画に出て来るヤクザは、京都弁を話さない。ヤクザに京都弁はふさわしくない。広島弁の言葉がよく用いられる。方言や位相を顕著に表すのが、語気助詞（終助詞）である。役割語の知識を共有し、共有している話者が多ければ多いほど、その知識は役割語らしさを増やす。現実にはどうであれ、方言もキャラクターと密接に結びついていることが少なくないのである。

「何とかぜよ」の「ぜよ」には、高知の豪放なイメージがつきまとう、「おいでやす」には、京都の舞妓言葉を彷彿させる。中国語の方言は日本のような役割語的、キャラクター設定的な機能を持っているのかについても考慮する必要がある。

ここでは、大阪の人に馴染み深い看板である「好きやねん、大阪」についてやや詳しく考察する。

大阪方言の語感を持たない人にとっては、「好き」と「大阪」の二つの単語から「大阪が好きだ」ということは分かるが、文末表現「やねん」のもつニュアンスを正確に読み取るとは不可能であろう。「やねん」は大阪方言を知っている人に限り正確に理解できる部分である。とはいえ、「やねん」のもつモダリティを言葉で説明できる大阪人は多くない。大阪弁話者の日本語学者尾上圭介氏は、尾上（2010）³²で、大阪の人にとってなくてはならない道具としての「ねん」という言葉について、相手と自分の間にある扉を開いてこちらの手の内を相手に見せるという姿勢を持っていると指摘されている。

尾上（2010）によれば、「ねん」という言葉は、そもそも「ノヤ」、共通語では「ノダ」という言葉が変化したものである。「ノダ」とは、話し手だけが知っている事情、話し手の側に属する認識を、相手に見せて共有するというものである。「ノダ」と「ねん」を比べると、「ねん」を使った方がより聞き手に配慮する感じがすると述べられている。「ねん」という表現は相手の距離を縮める、やさしく、柔らかい表現である。また、「ねん」をつけることによって、「実は……なのです」というようなことを相手に打ち明ける姿勢が表現されることになるから、あたりが柔らかくなると述べられている。ここでは、つまり、「大阪が好きだ」ということを聞き手に、耳打ちするように打ち明けて見せることになるのだろう。

一方、「ねん」という文末表現は文末表現なりの様々な語気を表している。

尾上（2010）は、「ねん」を7つに分類している。「告白」「訴え」「教え」「意志」「命令」

³⁰ 『国際シンポジウム 世界の言語景観・日本の言語景観』平成 21 年度日本海総合研究プロジェクト研究報告 2010 年 3 月 富山大学文学部

³¹ 「役割語・キャラクター言語研究 国際ワークショップ 2015 報告論集」2015 年 2 月
「役割語」とは、ある特定の言葉遣いを聞くと特定の人物像を思い浮かべることができるとき、あるいはある特定の人物像を提示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉遣いを思い浮かべることができるとき、その言葉遣いを「役割語」と呼ぶ。

³² 尾上圭介 『大阪ことば学』 岩波新書 2010 年

「発見・認識」「再認識」である。

「告白」というのは、「自分のことを相手に開いて見せる」という気持ちである。たとえば、「うち知ってんねん」の「ねん」。「好きやねん、大阪」の「ねん」も自分の気持ちを聞き手に伝える、「告白」という用法に当てはまると考える。

「訴え」というのは、自分に関する事で相手が十分には納得していないことを相手にむかって訴えるという気持ちだ。たとえば、「ねぶた目なんかしてへんねん」藤堂・相原(1985)は、「語気助詞の意味や働きを細かく分けるとキリがない」と述べているが、「ねん」には「告白」と「訴え」の重なった分けがたい気持ちもあると考えられる。

「教え」というのは、「自分だけが知っていることを相手にむかって『実は』と教える」気持ちである。たとえば、「弱い子にはやさしいねん」。

「意志」は、「自分がするつもりのことを相手に開いて見せる」。「あそぶねん」。「命令」の例としては「さっさとするねん」を挙げることができる。

「発見・認識」と「再認識」との気持ちは近いが、ただ「再認識」というのは、「初めて気づいたことではなく、忘れかけていたことを再び確認する」というものだ。たとえば、「そやねん」。

いずれにしろ「好きやねん、大阪」という看板を見た日本人は、「大阪に来た」という実感を持つに違いない。

話を中国語の語気助詞にもどす。中国語番組のタイトルにも中国語語気助詞の使われているケースが少なくない。

例えば、《我们约会吧》(デートしようよ)という中国にある番組のタイトルである。

呂(1980)³³は《吧 ba》を以下のように分類している。

1. 疑問文の文末につき、推測の意を表す。慣用句：《大概……吧》、《也许……吧》、《恐怕……吧》など。

例：親が甘えさせたのではなからうか。 訳：《大概是父母亲太溺爱了吧。》

2. 軽い命令やアドバイスの語気を表す。典型的な命令文は語気を用いないが、命令文に《吧 ba》を加えると、語気がやや和らげられ、勧告の意味を帯びる。

例：行こうか。 訳：《走吧。》

3. 事実を述べたり、状況を説明したりする肯定の語気を表す。平叙文の文末に《吧 ba》を用いると、意見、希望に賛成することを表す。

例：じゃ、そうしようか。 訳：《那就这么办吧。》

《我们约会吧》の語気助詞《吧》は、疑問や推測の意を表し、「勧誘」あるいは相手の意向をたずねる機能をもっている。

³³ 呂淑湘 『現代漢語八百詞』 1980年

第1節 中国語における普通話の独占状態について

現代の中国語教育は漢字の共通語（現代語）（普通話）の発音を教えるだけで、方言音で漢字を読むことはまったくなされていない。昔から、地域毎にその地域の方言音で同じ小説を鑑賞するということができた。一つの漢字は普通話のみならず、方言の発音で読むこともできる。

呉語文学（蘇白小説とも言われる）は、清代末から盛んになった。特に有名な小説としては『海上花列傳』があり、胡適によって「呉語文学における最初の傑作」と称賛された。『海上花列傳』は漢字で書かれたものである。その中で、「日頭」（共通語では《太陽》）、「面」（共通語では《臉》）（顔の意）、「口」（共通語では《嘴》）（口の意）などの呉語の単語が用いられている。そしてそれらは、そのまま呉語で発音することができる。

街でしばしば目にする《上海寧》という語を含む看板の《寧》は、共通語では《人》と書かれるべきであるが、呉語の発音〔ning〕を忠実になぞられることを期待してわざわざ上海語の《人》の読音に近い共通語の《寧》をあてるようなことが行われている。後で詳しく論じる漢字の成り立ちである六書の中の仮借に近い。

表記する字を有する方言には《方言正字》というものが存在する。例えば、呉方言の《勳》という《方言正字》は、《不要》（・・・するな）という意味である。これは《弗要》が縮約され〔fiau〕となったものであるが、『海上花列傳』にも以下のような例がある。

《今朝是超市打折个日脚、勳錯過特價！》

（今朝はスーパーの大売出しの日です、特別価格を逃さないように。）

なお当然のことながら、《方言正字》は、その方言の話し手かその知識のある人にしか通じない。《方言正字》はごく少数で、理解する人も多くない。そこで普通話の中から類似した音を持つ字があてられることになる。しかし、中国人なら前後の文脈から、意味が推定できることも少なくなく、それが異郷のムードを醸し出すことになる。《方言正字》が日本語の役割語のように、なんとなくある種の雰囲気やイメージが共有されているのかどうか今後の検討課題としたい。

民族共通語としての普通話普及が功を奏して、今日では普通話で漢字を読むことが当然のこととされているが、呉語のように文化的伝統をもつ地域では、なお呉語が話され、普通話であっても、その中の一部の語を呉語風に表記したり、発音したりすることが、それなりの意味を持つ場合も少なくない。とくに当地の広告・看板などでは、そのような傾向が顕著であり、それが地域に景観の一部を担っていることも事実である。

第2部：ピクトグラムの諸相

序章 「言語景観」にみる表記のバリエーション

トイレの標識に男女の絵が描かれたり、ヒールとパイプで描かれたりすることがしばしば見られる。それがなぜ「トイレ」と読み取られるのか。読み手が「トイレ」という意味を読み取った時点で、この絵は単なる絵ではなく、文字となってくる。それが、ピクトグラムであり、「景観」文字でもある。なお、男性が青、女性が赤という色分けに対してジェンダーの観点から異論が出され、青一色が主流となりつつある。

本稿で取り扱うピクトグラムやタイトルなどの言語景観に見られる「景観」文字は、色彩が問題になる点と、環境に依存する境遇性を持つとはいえ、多くの場合単独で用いられ、文脈を持たず、全体と部分という構造的な点で普通の言語表現とは異なる。


第1章 ピクトグラム

ことばを使わず、一目でわかるマークや記号をピクトグラムと呼ぶ。

そもそも、ピクトグラムが大々的かつ統一的に用いられ始めたのは、1964年東京オリンピックである。当時の日本は高度経済成長のさなかにあり、戦後の日本の新しい姿をアピールする絶好の機会だとして、海外から訪れる観光客にことばの壁を乗り越えて案内表示するにはどうしたらいいか議論されていた。デザインの専門家から、一目で分かる案内表示をつくるべきだとする提案があり、案内用のマークが考案されたのが始まりである。³⁴

その後、日本工業規格(JIS規格 JIS: Japanese Industrial Standards)で定められたピクトグラムが増えて行く。ピクトグラムは世界中に広がって行くが、当然日本発祥のものが多い。しかし、日本のピクトグラムは国際標準(ISO)と異なるものが多く、日本語の語感がない外国人に分かりづらいものが少なくない。日本のピクトグラムの背景には日本語が抜きがたく存在する。そこで、言語の普通性と個別性の問題がピクトグラムにも出てくることになる。

言語の普遍性とは Chomsky(1957 Syntactic Structure)以来改めて強調されることになった、人類の言語に存在する普遍的な部分である。Chomsky 自身の言語に対する考え方ははげしく進歩するが、言語学の目的は言語の普遍性を定式化することだとする考え方は揺らいでいない。一方、言語の多様性に注目する研究者も少なくなく、改めて言語の普遍性と多様性、つまり個別性が論議の対象になってくる。言語の多様性・個別性は前述のソーシャルの言語の恣意性とも強く関係する。チョムスキー理論の目指す普遍性は抽象性が高く、日常の言語運用を事細かに説明するものではない。JIS で定められたピクトグラムが普遍的ではなく、日本国内で日本語話者が理解することは容易であるが、非母語話者にとっては容易なことではない。皮肉なことであるが、日本を訪問する外国人が増えるにつれ、日本のピクトグラムの個別性・恣意性が持つ問題があぶり出されてきた。

例えば、温泉マークのピクトグラムを外国人に見せ、その反応をみると、温泉ではなく、「焼肉みたい」「コーヒーか紅茶のお店」「温かい料理を出す施設」などの答えが出てきたと

³⁴ 「温泉マーク なぜ変える？」NHK NEWS ビジネス特集 2016年7月26日
http://www3.nhk.or.jp/news/business_tokushu/2016_0726.htm

いう。

今回 2020 年東京オリンピックの開催に向け、日本人の生活に馴染み深い JIS 基準のピクトグラムが外国人に伝わりやすいように改正されることになった。

経済産業省の案内用図記号の JIS 改正委員会会議によると、おおよそ二つの内容に分けられている。

- ① 新たな図記号の追加。現在 JIS には約 140 種類の図記号が規定されているが、上記の他にも実際に私たちの日常の生活環境で使われている図記号が多くある。今回は、年々増加する外国人観光客等に必要と思われる新しい図記号の追加について、審議する予定である。(例：海外発行カード対応 ATM や無線 LAN、祈祷室など)
- ② 国際規格との整合性。既存の JIS の図記号については、国際規格との整合化の観点から審議する予定である。³⁵

日本人向け	外国人向けと決まった15種類				
		神社		レストラン	
X 交番		美術館		トイレ	
十 教会		ATM 銀行		温泉	
		ショッピングセンター		鉄道駅	
H ホテル		コンビニ		空港	
今回見送られた記号	寺院	モスク	観光案内所		

図1 (『卍』はそのまま、外国人向けに地図記号15種) 読売新聞 特集 2016年3月30日³⁶⁾

交番のピクトグラムは制服を着た警察がもっている警棒(むかしは六尺棒(ろくしゃくぼう))を交差させた形を記号にしたものである。しかし、交通標識の車両通行止めマークと混同され、外国人には、立入禁止の標識に見えることが多く、警察官が誰の目から見てもあきらかなように描きこまれることになった。

郵便局のピクトグラムは昔、郵便などをあつかう役所が逓信省(ていしんしょう)と呼ばれていたときのカタカナの「テ」を○で囲み作られたものである。その来歴からしても日本

³⁵ 「2020年東京オリ・パラに向けて案内用図記号のJIS改正委員会を開催します」経済産業省 2016年7月

<http://www.meti.go.jp/press/2016/07/20160704001/20160704001.html>

³⁶ 「『卍』はそのまま、外国人向けに地図記号15種」読売新聞 特集 2016年3月30日

<http://www.yomiuri.co.jp/feature/TO000299/20160330-OYT1T50149.html>

人にしか理解できないものであった。今回は、封筒を絵画化したものになり、「メール」のピクトグラムに便乗するかたちとなった。

ホテルのピクトグラムは Hospital (病院) の頭文字 H と紛らわしいので、ベッドに横たわる人の姿に変えられた。



図2 「温泉マーク なぜ変える？」NHK NEWS ビジネス特集 2016年7月26日



図3 元の温泉マーク

図4 変更されたマーク

元の温泉マークのデザインとは、湯船から三本の湯気が立ち上がる様子である。

変更された温泉マークは、これまでの湯船と湯気を残したまま、三人が温泉に浸かっている様子が描き加えられる。

温泉マークの変遷は以下のようなものである。

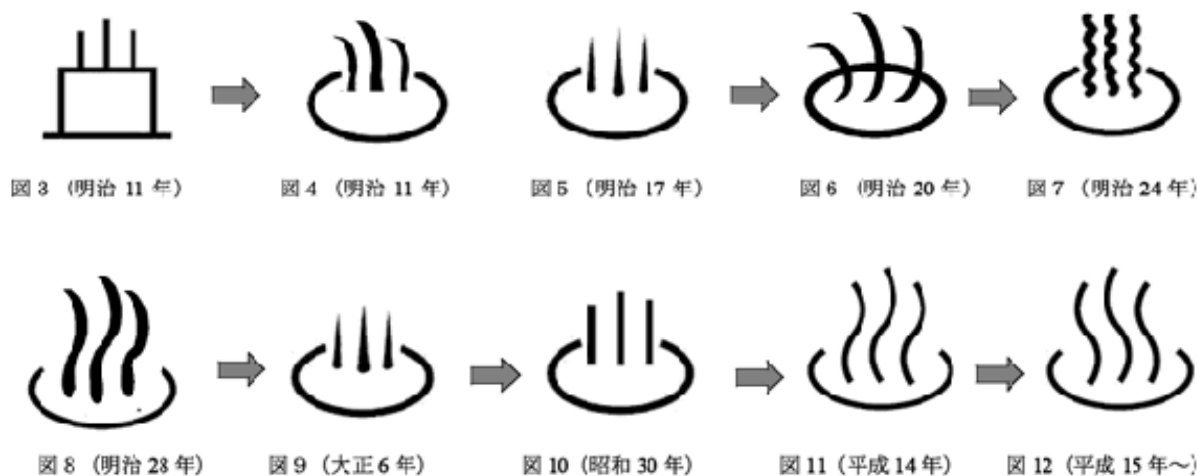


図5 (極楽湯のホームページより)

上の図の変遷を見ると、いずれも湯船あるいは風呂桶のような場所から三本の湯気を思わせる線が立ち上がる様子であるが、その線がまっすぐになったり、S型になったり、揺れを見せている。湯気を想起させる線が3本なのは、以下に示すように入浴の時間・回数を示していると言われるが、俗説(民間語源)の域を出ないと思われる。

3本線の最初の線(左の線)は、一回目の入浴時間を5分程度に控え、まず体を温めること。

3本湯気線の真ん中の線は、二回目はしっかり8分間湯に浸かる。

3本湯気線の最後の線(右の線)とは、最後に3分間サッと湯に浸かる。

入浴回数を示しているという説もある。三本の線は三回を表し、一回目は宿についたとき軽く温泉に浸かって、二回目は夜寝る前にゆっくりとくつろいで、三回目は翌日の朝もう一回サッと温泉に浸かるということのようである。



図6 「温泉マーク 雑学」 URL: <http://www.skyspa.co.jp/blog/archives/7213/trackback>

温泉マークの変遷で、もう一つ際立っているのが湯気の線の向きである。♨は地図記号なので、上が北、右が東、左が西を指す。したがって、左側に曲がる湯気のデザインは東風を、右側に曲がるデザインは西風を、真っすぐ上に伸びるものは無風を表すこととなる説がある。

現在使われている地図記号は、温泉記号のみでなく噴火口の記号（噴煙の向き）、煙突の記号（煙の向き）、自衛隊記号（旗のたなびく向き）などすべてが偏西風による西風を意識してデザインされているようである。

平成15年以前の湯気のマークは曲線の場合いずれも現在のS型ではなく、逆S型になっていることに気づく。平成15年に現在のS型に修正されることになった。³⁷

中国の温泉マークは基本的に、各温泉・浴場のオリジナルのマークで、統一された温泉マークのようなピクトグラムは存在しない。しかし、多くの温泉マークに波線が含まれ、湯気あるいは流れている温泉水をイメージしているものと思われる。「湯船から三本の湯気が立ち上がる様子」というピクトグラムも使われてはいる。実際の道路標識で温泉マークのピクトグラムを見ることはほとんどなく、大抵の場合、漢字で表示されている。



図7 (中国南京湯山温泉のオリジナルのマーク)

温泉マークのみではなく、その他、2017年3月22日に「温泉マークを含む7つの案内用図記号の変更及びヘルプマークの追加についての最終案」³⁸として、変更案がまとめられ公開された。

変更理由として、まず、外国人観光客が誤解しやすい点を挙げることができる。「JIS 図記

³⁷ 「温泉コラム 第29回 温泉の記号の変遷」 極楽湯

http://www.gokurakuyu.ne.jp/gokurakuyu/onsen_column/entry_1029/

³⁸ 経済産業省 「温泉マークを含む7つの案内用図記号の変更及びヘルプマークの追加について最終案を取りまとめました (JISZ8210 (案内用図記号) の改正)」

URL:<http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170322002/20170322002.html>

(最終閲覧日：2017年4月14日)

号と ISO 図記号との理解度に関するアンケート調査結果³⁹から見ると、外国人観光客（海外 6 カ国・地域平均）にとっては、案内所のピクトグラム以外の JIS 図記号に関して、理解度が ISO 図記号より低いことが判明した。そのみならず、日本国内の日本人であっても「駐車場」、「手荷物受取所」、「乗り継ぎ」、「乳幼児用設備」などの JIS 図記号への理解度が 30%程度にとどまることが判明した。一方で、「駐車場」、「手荷物受取所」、「乗り継ぎ」、「乳幼児用設備」などの ISO 図記号への理解度が 50%を超えることも明らかになった。そこで、JIS 図記号と ISO 図記号への理解度の差が生じる原因を探ってみると、ISO 図記号が JIS 図記号に比べ、人物が描き込まれているという点が際立つ。

「駐車場」「手荷物受取所」「救護所」「乗り継ぎ」「ベビーケアルーム」「温泉」を示すピクトグラムに関して、以前使用されていた JIS マークと新たな ISO のピクトグラムにより改正されたものを比較し、以下主な変更箇所を簡単に紹介する。

- (1) 「駐車場」：「P」の文字の右下に車が描き加えられた。
- (2) 「手荷物受取所」：荷物の横側に人物が描き加えられ、手荷物の下にベルトコンベヤーが描き加えられた。
- (3) 「救護所」：以前の指を負傷した掌の絵を、緑色の地に十字の白抜きのマークに変更された。

- (4) 「ヘルプマーク」を表すピクトグラムが赤であることと対をなす点に注意したい。

日本の救護所には黒・赤・黄・緑と 4 種類のトリアージタグが用意されている。緑色は軽症者用、黄色は中等症者、赤色は重症者、黒色は遺体を表わす。赤・黄・緑の色分けは交通信号にも見られる普遍性の高いものであると考えられる。「救護所」の緑も軽度・安心安全がイメージされるように配慮されたものであると考えられる。「非常口」を表す標識も緑が多い点を考えると、煙が立ち込めるような状況での標識が見えやすいという透過性の問題も重要ではあるが、安心を与えるということも重要であると思われる。「ヘルプマーク」は 2011 年東京で山加朱美東京都議会議員から提案されたもので、2012 年正式に制定された。「ヘルプマーク」の認知度を高めるため、2016 年 4 月 1 日から京都にも導入されている。「ヘルプマークの赤は支援を必要としていること、ハートは周囲にヘルプするという気持ちを持たせるもの、という意味を含んでいる。」⁴⁰

- (5) 「乗り継ぎ」：手荷物を持っている人物が描き加えられた。
- (6) 「ベビーケアルーム」：従来は乳児一人であったものが、哺乳瓶とともに介護者が描き加えられた。

³⁹ 経済産業省 「JIS 図記号と ISO 図記号のアンケート調査結果」
URL:<http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170322002/20170322002-2.pdf>
(最終閲覧日：2017 年 4 月 18 日)

⁴⁰ 京都府 「ご存知ですか ヘルプマーク」
URL: <http://www.pref.kyoto.jp/shogaishien/helpmark.html>
(最終閲覧日：2017 年 7 月 12 日)

(7)「温泉」：日本人には「温泉マーク」として馴染み深いピクトグラムの存続を求める要望が、温泉地の関係者を中心に出されていることもあり、以前の温泉マークを残すとともに、国際規格（ISO）に従い、3 人の入浴者が描き加えられた。



図 8 温泉マークを含む 7 つの案内用図記号の変更及びヘルプマークの追加⁴¹

変更点で特筆すべきは、誰にでも分かることを目標とし、人物が新たに描き加えられている点である。以下、人物が描き込まれるに至った言語的な理由を考えてみたい。

第 2 章 人物の描き込みについて

日本語の伝統文法の中では受け身・尊敬などと並んで自発というカテゴリーがある。これは日本語が世界の諸現象を、意志を持った人間が意図的に対象物に力を加え、対象物を変化させるという他動詞的な把握ではなく、あらゆるものが自然に変化すると捉える自動詞的傾向の強いことを示すものである。

認知言語学の祖とも呼ぶべきロナルド・ラネカー（1987, 1991）⁴²は、SVO の語順をとる言語について、動作主の力がビリヤードのスティックを通してボールに移り、それが他のボールに連鎖的に衝突していくことになぞらえビリヤードボール・モデルと呼んだ。

中国でも呂叔湘（1956）⁴³が SVO の S を「起詞」、O を「止詞」と呼びラネカーと似た見解を示している。

⁴¹ 経済産業省 「温泉マークを含む 7 つの案内用図記号の変更及びヘルプマークの追加について最終案を取りまとめました（JISZ8210（案内用図記号）の改正）」

URL:<http://www.meti.go.jp/press/2016/03/20170322002/20170322002.html>

（最終閲覧日：2017 年 4 月 14 日）

⁴² ロナルド・ラネカー

Foundations of Cognitive Grammar, Volume I, Theoretical Prerequisites. Stanford, California: Stanford University Press, 1987.

Foundations of Cognitive Grammar, Volume II, Descriptive Application. Stanford, California: Stanford University Press, 1991.

⁴³ 呂叔湘 『中国文法要略』 商務印刷館 1956 年

このような見方に対して、定延利之（2000）⁴⁴は、日本語のような言語を「カビはえモデル」と呼んだ。日本語世界では多くの事象をまるでカビが自然に生えるように生起するという捉え方である。

中国語は英語と同様に SVO を基本語順とする言語であるが、同時に英語が〔動作主+動作+対象〕であるのに対して〔主題+陳述〕型の文も少なくない。中川(1992)が言語類型論的に中国語を英語と日本語の中間に位置づけた理由の一つでもある。

- (1-C) 妹妹吃了。
- (1-J) 妹は食べた。
- (2-C) 飯吃了。
- (2-J) ご飯は食べた。

(1)の「妹」が動作主であり、(2)の「ご飯」が動作主ではなく、主題であることは言語外的知識、つまり「妹」は動作主であることができる有情者であり、「ご飯」はそうではないということによるが、「ご飯」を「魚」に変えて、

- (3-C) 魚吃了。
- (3-J) 魚は食べた。

となるといずれも二義的になり「魚」が動作主なのか主題なのかは文脈による。そういう意味で日本語や中国語は文脈依存性が高い言語であると言える。

寺村（1976）や池上嘉彦(1981)の言葉を借りると、日本語は「なる」言語、中国語は「する」と「なる」の中間に位置するが、日本語の大きな特徴である文脈依存性の高さを加味すると、話し言葉であれ、書き言葉であれ、日本語は動作主を言わない傾向の強い言語であると言える。

それは、文レベルにとどまらず、語構成のレベルにも表れている。中川（2005）⁴⁵によれば、日本で通用している「売買・送迎・貸借」が中国語では《買売・迎送・借貸》と反転している例が多い。例外として「出入」が日中とも同じ並び方であることを指摘し、日本語では、〔離脱+接近〕と形態素の並列における母音優先、〔(音節)短+長〕がその原理として存在し、中国語では、〔一声・二声・三声・四声〕という声調順とともに、動作の生起順を重要なパラメーターとして挙げている。日本語としての「出入」は他の「売買・送迎・貸借」とともに〔離脱+接近〕が優先的にはたらいしているとする。中国語の《出入》については、入国管理法が中国では、《中国公民出入境》と《外国人出入境》と別々になっていること、これは、初期値、つまり中国公民はまず《国内》にいて、それから《国外》に《出》(出る)、

⁴⁴ 定延利之 『認知言語論』 大修館 2000

⁴⁵ 中川正之 『漢語にみえる世界と世間』 岩波書店 2005

しかる後に《国外》から中国に《入》(入る)、外国人の場合は初期値が外国にいるである。

中国語では、一つの文に動詞が二つ用いられる場合、動作の生起順に並べるといふかなり強い原則があり、語構成の段階でも、それが守られていると中川(2005)では主張している。繰り返しになるが日本語の「売買」がこの順に並んでいるのは「売る」場合、品物が遠ざかる、「買う」場合それが近づくからであるか、「うり」が母音で始まり、「かい」が子音で始まることによる可能性も否定できないが、「かしかり」といった同じ子音で始まるものも〔離脱+接近〕が優先されていることから、日本語の「出入」は〔離脱+接近〕、中国語の《出入》は生起順優先と結論付けている。「売買」と《買売》についても同様である。日本語では「うり」が母音始まり、「かい」が子音始まりであるが、やはり〔離脱+接近〕が優先されている。一方中国語では《買》が前に、《売》が後ろにくるが、それは生起順であるとする。《買売》が「商売」の意味になることを考えると、ある特定の人がある物をまず買い、それに利ざやをのせて売る、それが《買売》であるとする。「送迎」、《迎送(現代中国語では《接送》)》においても日本語は〔離脱+接近〕(母音優先の可能性もある)、中国語では、ある人が別のある人を迎えて、その後、その人が客人である人を送るといふ一連の経緯を考えている。

中川(2005)は日本語の「売買」が、たとえば株式市場で「売り買いが交錯している」、あるいは「人の出入りがはげしい」では誰が「売り」(入り)、誰が「買い」(出たか)なのかにはもはや関心がない、つまり動作主が意識されず、動作が独り立ちし、それが日本語の「売買・送迎・貸借・出入」の並び方に〔離脱+接近〕、母音優先などの原則がはたらく基盤にあるとする。それに対して中国語で「継起順」が優先的な原則としてはたらくためには、固定された主語が一連の動作を行うことが基盤になっていると述べている。

中川(2005)の指摘で本稿が注目するのは、上記の行為において「動作主が意識されず」という点である。今回ピクトグラムに人物が書き加えられたのも、日本語の中では動作主や被動作主を意識することが少なかった点が、非日本語話者には分かりにくく、人物を書き込む事態に至ったのであろう。

新幹線の英語アナウンスは長く“*This train will be make a brief stop at Kyoto.*”⁴⁶のように主語が“*train*”であったのが、“*we*”に変えられたそうである。「この列車はまもなく京都に停車します」という日本語を直訳した英語よりも「我々はもうすぐ京都に到着します」式の英語の方が、英語話者にとっては自然なのだろう。この事例でも、日本語では人物(とりわけ動作主)が意識に登らないという傾向が見てとれる。

「立ち入り禁止」を《闲人免进》とするのも同様であろう。

太田匡亮氏のご教示によれば、北京空港の到着手続きの場所に、各国語で来華を歓迎する垂れ幕がかかっており、英語では“*Welcome my friends!*”とあり、日本語では「ようこそいらっしゃいませ!」とあり、中国語では論語の冒頭《有朋自遠方来，不亦樂乎。》であるといふ。英語で“*my friends*”のように、人物に呼びかけることが、親しさの表現になり、それ

⁴⁶ 中川正之教授は授業で示唆された例文による。

が敬意につながる言語は少なくない。中国語もそうである。日本語は数少ない例外の言語であるといえる。



図9 北京空港の垂れ幕（2017年6月、北京で、太田匡亮氏撮影）

第3章 ピクトグラムにみるアイコニシティ

「文字についてたった一つの普遍的な定義を目指そうとすると、どうしてもその場限りのものとなってしまうたり、時代錯誤的になったり、あるいは文化的な偏向が入ってしまう危険性がある。」⁴⁷ (p.2 「第1章 文字とは何か」)

文字の機能を大きく分ければ、「表音」と「表意」に二分される。

「表意」とは、字面通り意味を表すということで、「表音」とは、文字が音を示されるということである。日本語の仮名や英語のアルファベットは「表音」文字で、漢字は「表意」の典型例である。その漢字の中でも象形文字のアイコニシティが一番強い。漢字六書の中では、象形に続いて会意がピクトグラムとの関係で問題になる。

近年「表意文字」に代わり「表語文字」が用いられることが多く、漢字が「意味」を表すのではなく「語」を表すという意味では正しいと思われる。

象形とはいえ、「山」や「川」などの漢字がそのまま山や川の絵であるという訳ではない。直線や曲線を規則的に並べ、一定の制約が加わり、字体の変遷を経て現在の漢字になり、さらに、一定の意味と音が漢字にとって表裏一体のものとなり、漢字が「表語」機能を持つにいたった。漢字は、ごく少数の例外（「珊瑚」や「葡萄」など）を除いて「一文

⁴⁷ フロリアン・クルマス『文字の言語学—現代文字論入門』斎藤伸治（訳）大修館 2014年3月

字一単語」という特徴を持っており、「一文字一音節（あるいは単音）」の表音文字とは大きな差がある。

六書は、象形⇒指事⇒会意⇒形声と作字手段を拡大し、漢字の数を増やしてきた。

象形文字は事物の形を象って描かれたものであり、その数は多くない、日、月、山、川、木などが典型的な象形文字である。しかし、この世界のすべてを象形で表すことは不可能で、形のないあるいは抽象的な事物を表すために指事用法が発明された。たとえば、数字の《一、二》や位置を示す《上、下》など。

会意とは意味の合成で、会意文字は既に存在している象形文字または指事文字を組み合わせて作られたものである。たとえば、《人》と《木》を組み合わせ《休》、人が木に寄りかかって「休む」の意で、《木》と《木》が二つ合わせられ《林》、三つを合わせると《森》になる。《林》と《森》はアイコニックの例でもある。会意の手法は、車の絵と×を合わせて、車の進入禁止を表すなどピクトグラムでも見られる。

象形文字（ヒエログリフ）の「象形」という名が示すように、現実世界のものの形を擬えるということである。看板標識に描かれたピクトグラムも象形文字に似た絵の一種なので、「表意」の機能を持つ。しかし、ピクトグラムと象形文字は異なる点もある。たとえば、「山」や「川」などの象形文字は、単に山や川を擬えた一つ一つの絵が記号化したものである。それに対してピクトグラムは、形を擬えるのみならず、「手荷持受け取り所」に見られるように人物やベルトを描き込むなどして、文脈に代わる状況を作り出し、「表意」の機能を実現している。さらに、「トイレ」をピクトグラムで表す場合、象形文字のように手を洗う絵やトイレの絵を用いることもできるが、実際は男女の絵あるいはヒールとパイプの絵が用いられている。なぜ「トイレ」を表すのに、直接的な関連性のない男女の絵やヒールとパイプの絵でそれが可能になるのかが問題になる。

ここでは、言語記号の恣意性という観点から考察したい。

日本語を理解しない外国人には「御手洗」という言語表現は通用しない（漢字圏の人なら「御手洗」を理解する可能性はあるが、かつて女性用に用いられた「御婦人（用）」は、古代中国語に精通している人には「婦人を御する」と読めるだろう。「同様に、朝鮮語の「화장실」、英語の toilet や中国語の《厕所》なども同様である。つまり、同じ内容（意味）でも言語が異なれば形（音）が異なる。

近代言語学の祖と称されるソシュール⁴⁸（フェルディナン・ド・ソシュール（1916）『一般言語学講義』）は言語の形式を能記（signifiant）、内容を所記（signifié）と呼び、能記と所記の関係には、上に「トイレ」の各言語の例で見たように必然的な関係はなく恣意的であるとした。さらに記号について以下のような考えを持っていた。ソシュールの記号についての考えを立川健二・山田広昭（1990）の要約を引用しておく。

⁴⁸ フェルディナン・ド・ソシュール：スイスの言語学者、言語哲学者。

文字や言葉だけが記号ではない。また、道路標識や交通信号、化学式や商品のブランド・マークといった人工的な「しるし」だけが記号なのではない。あなたが目にし耳にするものすべて、あなたが考えたり想像したりするものすべて、要するにあなたにとって<意味>をもつすべてのものが記号なのだ。あなたの壁にはってあるポスター、これももちろん記号だ。⁴⁹

ソシュールは擬音語を含めすべての言語表現における能記と所記の関係は恣意的であるとし、さらに交通標識やブランド・マークのようなものをも、形式と意味の関係は恣意的であるとした。

本稿では、ソシュールのいう恣意性についてこれ以上の深入りはしない。むしろ近年、とくに認知言語学の中で注目されている恣意性とは正反対の概念であるアイコニシティに注目したい。(アイコニシティとは、いわゆる類像性、言語における表現形式がある事物の性質を、そのままではないけれども何らかの形で踏襲していることである。)

アイコニシティについては、「木、林、森」を例に樹木の多さを表すのに「木」という記号を二倍、三倍としている例を見た。これは現実に存在するものの多寡、長短などに記号が連動する例である。日本語では「ながい(長い)」の強調として「ながーい」と音を長く引き伸ばすことがあるが、これもアイコニシティの例である。または、日本語の副詞「やはり」と「やっぱり」や、形容詞の「ややこしい」と「ややっこしい」なども喉が詰まるような促音によって、いっそう程度の深さを表すことがある。これもアイコニシティの例と言えよう。

外国人も母語の干渉や日本語の学習不足のせいで、促音、濁音や、撥音などの発音が抜けてしまい、誤解を招く例もしばしば見られる。

丹野(2005)は、言語表現に含まれる音韻に対し、音象徴の存在について実験をしている。その結果、「ほ」という音韻が、実際に耳に入る際、「ふわりと空中に浮くような感覚を刺激する」ことによって、「軽妙且つ飛ぶ」という様子が頭に浮かぶ。また、教室を静かにさせようとして発する「し」も、「口を閉じて、指を口元に置き、「しっ」という音を出す」動作を連想させる、と指摘している。中国語でも静かにさせる際、同様の動作で《嘘(xu)》を発する。いずれも音韻と意味がある程度連動することを示している。音韻と意味とのアイコニシティについては、中国や日本の中国語・文学研究者にも同様の考えが見られ、音象徴主義 *sound symbolism* と称される。吉川幸次郎氏は、《動dong》と《蕩dang》の違いを母音 o と a の口の開きの違い、すなわち《動dong》が「こまかな運動」、《蕩dang》が大きな運動、のように説明されていたそうである⁵⁰。

ソシュールの言う恣意性は、言語の個別性に着目したものであり、アイコニシティは言語の普遍性に着目したものである。筆者は言語には個別性と普遍性の両面があるとする立

⁴⁹ 立川健二・山田広昭『現代言語論』 新曜社 p.20 1990年6月

⁵⁰ 中川正之教授は授業で示唆しておられた例による。

場であるが、ソーシャル以来、言語のアイコン的な側面が軽んじられてきたことは指摘しておきたい。

本稿で扱うピクトグラムには、多くの場合特定の音韻形式が固定していないという点で言語記号や多くの記号と異なっている。

さて、男女の絵やヒールとパイプの絵などと「トイレ」という意味内容とは何の直接的な関連性もないが、なぜ読み手に「トイレ」と読み取られるのであろうか。まずこのようなピクトグラムが設置される場所が文脈をつくる。「トイレ」に行きたい人がいて、その人たちがその場所を捜し求めているという状況の中で、「男女」をイメージさせる絵がある。トイレが男女の峻別を要する場所であることが前提となって、能記と所記が結びつくのであろう。「男」を表すためにズボン姿、「女」を表すためにスカート姿、これはある程度の普遍性を持つと発案者は考えたのであろう。トイレを表す語が個別言語の中でも多くの言いかえを行っていることから分かるように、間接的な表現に傾斜しがちである。

「男女」の絵よりも、「男」を象徴するパイプ、「女」を象徴するヒールのほうが間接的ではあるが、間違いなく所記に至ると発案者は考えたのであろう。このようなステレオタイプの発想は時に批判の対象になることがあるが、発案者の工夫がしのばれるとも考えられる。

第4章 漢字の類像性とピクトグラムの六書的側面



漢字の中でも象形文字の類像性が一番強く、漢字六書の中で次に類像性が高いのは会意と指事であろう。また会意・指事という漢字の表し方とピクトグラムとの関係が問題になる。







象形文字（ヒエログリフ）の「象形」という名称が示すように、現実世界のものの形を擬えるということである。とはいえ、「山」や「川」などの漢字がそのまま山や川の絵であるという訳ではない。直線や曲線を規則的に並べ、一定の制約が加わり、数度の字体の変遷を経て現在の漢字に至った。筆順も定められたものが存在する。「雨」は「天」から「雨粒」が落ちてきているサマを描いたものが基になっているが、点の数の多寡で大雨や小雨を書き表すことはできない。言語文字としての約束事、つまり恣意性が存在する。看板標識に描かれたピクトグラムの多くは象形文字に似た絵の一種なので、「表意」の機能を持つ。しかし、ピクトグラムと象形文字は異なる点もある。たとえば、「山」や「川」などの象形文字は、単に山や川を擬えた一つ一つの絵が記号化したもので、いわば素材にすぎない。それに対してピクトグラムは、形を擬えるのみならず、空港などでの「手荷持受取所」に見られるように人物やベルトを描き込むなどにして、それだけで文脈に代わる状況を作り出し、コトやサマを表すなど「表意」の機能を実現している。

漢字は、一定の音と結びつく形と表裏一体のものとなり、「表語」機能を持つようになった。漢字は、ごく少数の例外（「珊瑚」や「葡萄」など）を除いて「一文字一単語」という特徴を持っており、「一文字一音節（あるいは単音）」の表音文字とは大きな差が存在

している。ピクトグラムは、視覚的なものが優勢で、一定の形を擬える特徴が漢字（特に象形文字）と共通しているが、音と結びついていないことで、表語文字の漢字と大違いがある。

象形文字の「日・月」は、太陽と月を描いたものがもとになっているが、その「日」と「月」を合わせて「明」としたのが会意である。会意とは意味の合成で、既に存在している象形文字または指事文字を組み合わせたものである。たとえば、「人」と「木」を組み合わせ「休」、人が木に寄りかかって「休む」の意で、「木」と「木」が二つ合わせると「林」、三つ合わせると「森」になる。「林」と「森」はアイコニックの例でもある。つまり現実世界において「木」が多くなることと「林」や「森」の字画（「木」の字）が増えることと連動している。「休」はピクトグラムにおいて新しく人間の絵が書き込まれたことを想起させる。なお、中国語においては「休」が《退休（退職）》のように辞めるという意味に拡張し、「禁止・停止」命令を表すようになる。これは日本語にない意味・機能である。元はアイコニックであったものが各言語の中で独自に発展し、言語個別性を持つようになる。アイコニックが普遍性を持つのに対して言語が恣意的であることの要因の一つを物語る。

指事文字の「上」は基準線の上にあることを示す。そういう意味では「↑」と似た原理でできていると言える。会場案内で「↑」は「直進」、「→」は「右に進む」、「↗」は「右にまがる」を示し、かなりの普遍性を有すると考えられる。これがピクトグラムの指事的側面である。さらに VDR の再生  も同様であろう。なお早送りが  となるのは

「木」が「林」になるのと同様のアイコニシティである。巻き戻しが  であるのは、逆向きに早送りすることを示す。 あるいは  はスキップを表すが、これも「早送り・巻き戻しの記号+■（ここまで止まる）」と解すれば会意の手法である。矢印や はエレベーターのボタンなどにも用いられるようになった。「open ; close（開 ; 閉）」のような文字表記が開けるが、閉めるがとより広く理解されるピクトグラムに代えられている。

携帯電話（iPhone）のアイコンには、カメラ・時計・計算器のように極めて絵画的で一目瞭然のものや天気予報・カレンダー・地図のようにほぼ誤解なく推定できるものから設定・ツイッターのように知らなければ、まったく分からないものまである。類像性の度合いが強いほど理解しやすく、記号が恣意的になればなるほど、誤解する余地は少なくなりますが、知らなければ分からないという個別性を強くする。

下の図に示されているように、2020年東京オリンピックスポーツピクトグラムも類像性の高い例である。デザインされた競技しているアスリートの動きの絵や競技道具（バドミントンやバスケットボール）などの要素を描き出し、言語を問わず、世界中の人々に理解できるように工夫されている。



図 10 東京 2020 オリンピックスポーツピクトグラム

漢字は、象形⇒指事⇒会意⇒形声と造字手段を拡大し、その数を増やしてきた。繰り返しになるが、象形文字は事物の形を象って描かれたものであるが、この世界の森羅現象すべてを象形で表すことは不可能で、その数は多くない。それを補う形で抽象的な事物を表

すため指事用法が用いられた。しかし漢字の圧倒的に多数は形声文字である。形声文字の基本は「河」のように偏で「水」に関わる意味を「可」で音を表すものであるが、ピクトグラムには形声文字に相当するものがない。それは先述したようにピクトグラムは特定の音に対応するものではないことによる。

繰り返しを恐れずに述べるが、「トイレ」をピクトグラムで表す場合、象形文字のように手を洗う絵やトイレそのものの絵を用いることもできたはずであるが、ある種のタブー意識が働き直接的な表現でなく迂言的な表現が用いられている。多くは、男女のシルエット（影絵）やヒールとパイプの絵などである。男はズボン、女はスカートを着用している。それらは「トイレ」という意味内容とは直接的な関連性はない。なぜ読み手に「トイレ」と読み取られるのであろうか。ピクトグラムが設置される場所によって意味を読み取ることができるのもピクトグラムあるいは看板標識の境遇性という特徴を反映したものである。境遇性とは、境遇により意味が明確になる性格のことである。「このあたりに痴漢が出没します」は境遇性があり、その恐れがないところに立てかけることは問題であるが、「今日も元気で！」などは境遇性が弱い。

トイレのピクトグラムに関しては、しばしば男性が青、女性が赤で描かれる。これもジェンダー差別の関係で青一色に統一される方向にあるが、恣意性や類像性の観点からは、なぜ男性が青で女性が赤なのか、さらにはVDRなどのスイッチが赤や緑のランプで示されることがあるが、併せて考えるべき問題であろう。

色彩とピクトグラムの問題に関しても、ここで少し触れておきたい。赤と青は多くの言語において基本色である。日本語の慣用表現として、「木々があおあおとしている」のように、「あお」と「みどり」を区別しないことがある。信号を始め青（緑）は安全を表すが、それは停止することが基本にある。最近では、自転車通行路を歩道の中に設けることがあるが、自転車通行路が赤あるいは茶色、歩道が緑に塗り分けられている事例が見られる。緑が安心安全、あるいは停止→ゆっくり進むことを表しているのであろう。それに対して赤は「たぎる血潮」のイメージがある。外国人に日の丸を見せて、赤い丸は何をイメージしているかと訊ねたところ、圧倒的多数は血の色と答えたという。⁵¹太陽が何色であるかは言語により大きく異なり、様々な見解があるが、日の丸の赤を太陽と答えた外国人はごく少数であったという。

また、赤と青に対して、赤と青（緑）の比喩的用法の概略をまとめると、赤は暖色（あたたかい）・活動・危険で、青は寒色（クール）・静態・安全である。それが、なぜ青が男性、赤が女性なのか、花の典型的な色や華やかさなど考慮すべき点は少なくないが、いわば短絡的に男性は青、女性は赤としたところに問題があったと考えられる。ピクトグラムの「トイレ」の色彩表示は六書の仮借に近いと言える。赤と青の問題は、第3部で述べる補色関係の現象と繋げていく。

⁵¹ 中川正之教授が授業で示唆しておられた例による。

第5章 ピクトグラムの歴史

非常口のピクトグラムの発案者とされる太田幸夫氏はその著書（1995）⁵²で、ピクトグラムが非言語コミュニケーションの媒介として多言語社会で活躍することを指摘している。太田（1995）は読解力と関連する「視解力」という概念、つまり目で見て分かる力、という言い方をしている。そして、視解力がありさえすれば当該言語を理解しなくても、見れば分かるという特徴を取り上げ、ピクトグラムは言語の抽象性を超えて、単純な形で意味を表すものであるとしている。読み手の帰属する集団（位相）によるバイアスにより誤解を招くことも皆無とはいえないが、ピクトグラムが「異なる言語の壁を越えて国際的に伝わる」という重要な役割を持っていることを明確に示している。

ピクトグラムの歴史に関しては、中国の甲骨文字が最初のピクトグラムと言えるか否か議論分かれるであろうが、骨に刻む形で絵文字を表記するという点では元祖と言えるのであろう。日本では、江戸時代に、字の読めない人を対象に作られた「文盲曆」や「文盲心経」^{しんぎょう}さらに、業種を視覚的に表わすため、鍵、キセルなどを看板に描くことも挙げられる。

太田（1995）によれば、日本で案内用図記号（ピクトグラム）が広がったのは1964年の東京オリンピックである。その後、1970年の大阪万国博覧会、1972年の札幌オリンピックや1975年の沖縄海洋博などの国際行事の開催に伴い普及してきたという。

第6章 新たに加えられた案内用図記号（ピクトグラム）

第1章で述べたように、JISとは、日本工業規格である。従来日本規格協会で制定されていたピクトグラムがJIS基準に基づくことになった。

ISOとは、国際規格である。1999年4月から2001年3月までにわたって、国土交通省がJIS化に向け、128項目の標準案内用図記号⁵³を発表した。⁵⁴今回の案内用図記号の改正は2020年の東京オリンピックに向け、さらに国際標準化し、円滑な国際的コミュニケーションを目指すこととなった。中国、アメリカなど7カ国でアンケート調査を実施し、2017年7月20日公示された「案内用図記号のJIS改正」⁵⁵という資料では、JISで制定されたピクトグラムの中、変更されたものが七つ、新たに加えられたものが16種類（「ヘル

⁵² 太田幸夫『ピクトグラムのおはなし』日本規格協会 209p. 1995年3月

⁵³ 交通エコロジー・モビリティ財団（2001）『標準案内用図記号ガイドライン』
URL: http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/pictogram/data/guideline_2001.pdf（最終閲覧日：2017年10月1日）

⁵⁴ 国土交通省（2001）『標準案内用図記号ガイドライン（その1）』
URL: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/zukigou/zukigou01.html>（最終閲覧日：2017年10月1日）

⁵⁵ 経済産業省（2017）『日本工業規格（JIS）を制定・改正しました（平成29年7月分）～案内用図記号などのJISを制定・改正～』
URL: <http://www.meti.go.jp/press/2017/07/20170720002/20170720002-2.pdf>（最終閲覧日：2017年10月1日）

プマーク」を含む) である。また、従来の JIS に従った案内用図記号は 2 年間の移行期間 (2017.7.20~2019.7.19) を経て、JIS から削除されることが決まった。

新たに加えられたものは、無線ラン、充電コーナー、自動販売機、海外発行カード対応 ATM、オストメイト用設備・オストメイト、駅事務室・駅係員、一般車、レンタサイクル・シェアサイクル、コンビニエンスストア、イヤホンガイド、列車の非常停止ボタンなどの場所表示、さらにホームドアにもたれない・物をたてかけないという注意、ホームドアに乗り出さない、ホームドアに手をはさまないようにする注意、シートベルトを締める、ヘルプマークの 16 種類である。



図 11 新たに追加された 15 種類案内用図記号 (ヘルプマークを除く)

新たに加えられた 16 種類のピクトグラムについて、補足説明をしておきたい。

・無線ラン：上図のような形が思い浮かぶであろうが、黒点の上に線が何本なのか？上図のように、三本線が日本では普通に見られる。しかし、ドコモの WiFi 標識の線は二本であり、携帯画面の WiFi 標識の線も二本であるなど出入りが見られる。

・充電コーナー：外国人旅行者にとって携帯やパソコンなどの充電が可能か否か、電圧、コンセントプラグの形状などが問題になる。オーストラリア人が日本に来ると、変換プラグが必要になるが、充電コーナーのピクトグラムのプラグの形状は日本の形で示されている。

・オストメイト：人工肛門使用者。ピクトグラムから人工肛門がイメージされるのかどうかは、この語の普及とともに今後の課題であろう。

・ホームドア：駅のホームの端に設けられたホームと線路を仕切るドアのこと。乗客の転落防止や線路内への立ち入り、列車との接触事故防止ため設置された。

「たてかけない」と「乗り出さない」のマークを比べると、「たてかけない」のピクトグラムに人物が描き加えられていない。動作主なしでは理解の度合いが低いと思われる。

2019年2月20日に、公共・一般施設に現れる案内用図記号が新たに三つ追加された。それは、日本人のみならず、外国人観光客にもトイレをわかり易く案内するため、トイレを利用する際に目に入る「洋風便器」「和風便器」「温水洗浄便座」という3つのピクトグラムである。

表示事項	温水洗浄便座 Spray seat	洋風便器 Sitting style toilet	和風便器 Squatting style toilet
図記号			

図12 「洋風便器」「和風便器」「温水洗浄便座」の案内用図記号

筆者が来日まもない頃、便器の和式と洋式の区別については困ることなく、温水洗浄便座は不思議だと思っていた。昔「Western style」と「Japanese style」で和式と洋式トイレを表記されたことがあるが、「Western style」と「Japanese style」、および「和式」と「洋式」というような文字言語が日本以外の国の人にトイレの具体的な利用法まで伝わらないことも想定できる。文字表記はそこまで意味を伝達できないのは、「しゃがんだ姿勢でトイレを利用する方法」という意味内容（所記）と「和式」という言語形式（能記）とは、その両者の間に恣意性が存在するからである。その国の文化や習慣により解釈にも差が生じられる。「しゃがんだ姿勢でトイレを利用する方法」は「中国式」と言ってもいいだろう。その一方、ピクトグラムと文字表記は端的に情報を伝えるという共通点を持ちながらも、ピクトグラムは意味内容（所記）をわかり易く理解できるよう独特な類像性（アイコン性）が現れる。今回新たなピクトグラムの改正では、トイレの案内用図記号を追加し、ピクトグラムのアイコン性を利用して「トイレの形」まで擬え、意味内容（所記）まで明白に伝えるように

なった。

しかし、「和式」と「洋式」の区別はネイティブスピーカーにとっては、一目でわかるが、外国人にとっては、和式と洋式の異なるところまでさえ伝わるとは言えないだろう。「和式」というのは日本の昔から使われている形式で、「和式」とは一体何かについては、ネイティブである日本人でないとおそらく理解できないだろう。また、各国に自分の国の便器形式があり、西洋でもしゃがみ込み式の便器を採用する例が少なくない。そのために、各国の文化が違えば「洋式」と一括して表示することもできないだろう。たとえば、中国の公衆トイレには下記の図のような「和式便器」の形によく似ていて、踏み台つき先端の丸みを帯びた金隠しのない便器もある。

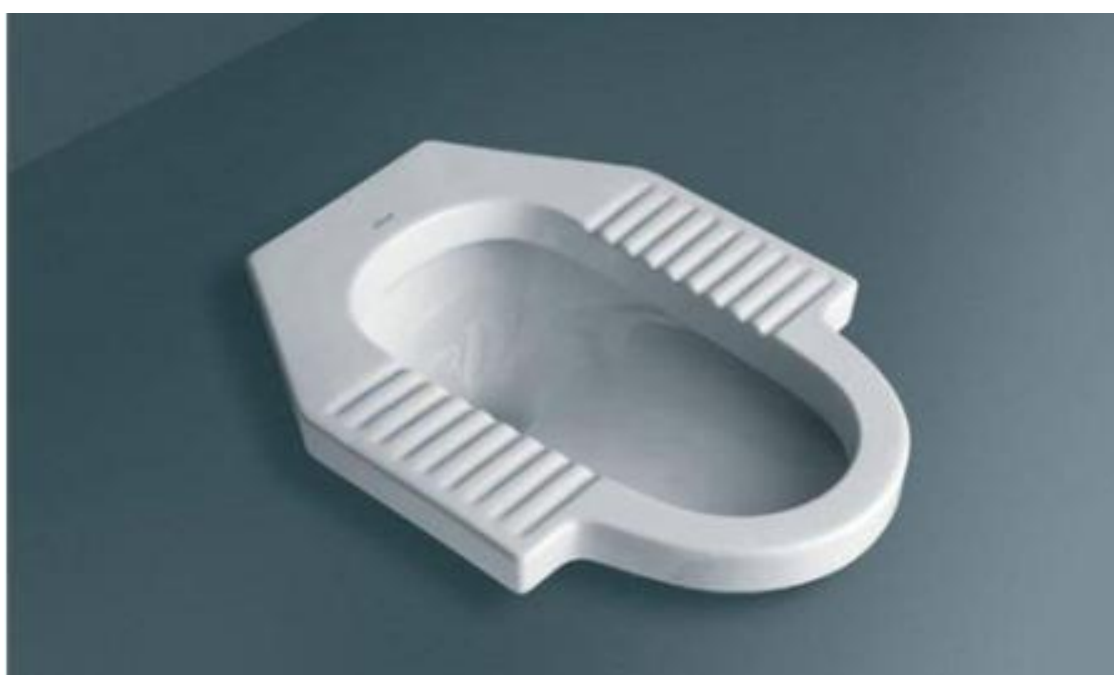


図 13 踏み台つき便器

また、上記の和風便器の図から、視点や相対性などの考慮に入れると、和風便器に似ているが、金隠しが付いていないため、便器の向きが問題になる。金隠しが付いていても、前と後ろが表記される必要性も望まれる。そのため、和風便器に動作主およびその体の向きを書き加えれば、さらに誤解なく理解してもらえらるだろう。

その一方、日本の日常生活で頻繁に使用されている温水洗浄式便座を直観的に理解できるように改正された。ピクトグラムの類像性によって、日本では使用されているものは世界の各地から訪ねてきた観光客に共通的な理解（「万国共通」）を得られようになると言えるだろう。

第 7 章 ピクトグラムで表現できない個別言語⇒ピクトグラムに見る普遍性と

個別性

ピクトグラムは、言語・文化・国家、あるいは年齢を超えて理解できる標識を目指したものであるが、先に見た温泉や非常口の例のように、日中両国においても多少の出入りが見られる。世界規格で統一し、普遍化をはかるという方向が今後一層加速されるであろうが、「絵」のみでは伝えきれない事態も少なくない。

2017年7月、日本では「一時停止」と「徐行」に「STOP」「SLOW」と英語を併記することが決まった。⁵⁶一時停止や徐行をある程度普遍性をもって絵画化することが困難であったことによる。言語を書き込むことは、恣意性が発生し、個別性が強まることを意味する。

英語を「世界語」と見なして書き込むとしても、本稿の関心から言うと、それはそれで問題がある。前節で問題にした視点や相対性から言うと、**slow** や **stop** を車体書き込むことを想定すると、当然 $s \Rightarrow l \Rightarrow o \Rightarrow w$ のように左から綴っていくのが当然であると思われるが、左⇒右を優先するのか、車の前部から後部に綴って行くのかが問題になりうる。下の写真は「嵯峨山通商」が **SAGAYAMA** とローマ字表記したものであるが、当然、左⇒右へと綴られているが、私は一瞬 **AMAYAGAS** と読んだ。車の前部から後部へと読んだからである。左⇒右と車の前部⇒後部のいずれの順序を優先するかである。



図 14 「嵯峨山通商」の表記例

⁵⁶ 「道路標識 英語併記に切り替え開始 東京五輪に向け」毎日新聞 2017年7月1日
URL: <https://mainichi.jp/articles/20170701/dde/041/040/041000c> (最終閲覧日：2017年10月)

日本語でも横書きの場合の書き順は戦後になって変更されたが、アラビア語やペルシヤ語など、英語とは逆の方向に書く言語も少なくない。



図 15 「佐川急便」の表示例

第 8 章 地図記号

外国人向け地図記号（国土地理院より）もピクトグラム的一种である。

看板表記、ピクトグラムと地図記号に対し、表現方式が違っていても、いずれも短時間で意味を伝達することができる。

ピクトグラムが描かれた絵などで意思を伝達し、英語表記がフレーズで意味を表す。

中川（2005）は、冷酒の二つの読み方を取り上げ、自らの語感であると断った上で、「レイシュ」と「ひやざけ」はそれぞれ異なる意味を持っていると指摘している。音読みの「レイシュ」は分類的で、酒販売店でも「レイシュ」専用の棚が設置されることがあるが、「ひやざけ」は本来温めて飲むべき酒を、典型的には裏ぶれた男が冷たいまま飲んでいる絵が浮かぶという意味で描写的とした。同様に「コップ酒」は、単にコップにはいった酒ではなく、本来用いる小さな酒杯を用いず、コップで日本酒を飲むことで、やはりあまり上品でない、アルコール中毒気味の男が飲んでいる姿が浮かぶとしている。「一升酒」は、升が 1800ml、合が 180ml、1 升とは 10 合のことであるが、これも大酒飲みが一升瓶を抱えて酒をあおっている絵が浮かぶとしている。「寝酒」は、就寝前に飲む酒で、眠れない時に飲むという背景が含まれている。「やけ酒」とは、自暴自棄の時に酒を飲むことである。中国語で言えば、借酒消愁とも同じであるが、重要なことは訓読みの「さけ」は分類、つまり酒の種類ではなく、酒を飲む側の心情の入ったもので、多くの日本人には、映像化が可能なものである。聞き手・読み手においても同様の映像化が期待できる。

ピクトグラムと英語表記の違いは、前者は絵が描き出されると、読み手が映像化することが期待できるという点である。

言語の恣意性をソシユールは強調したが、ピクトグラムは読み手に映像化を期待しており、形と意味が有契的であればあるほど、描き出されたものが世界各地でも共有される。町田健（2004）⁵⁷は、有契的とは、能記と所記の間に何らかの関係があることを指しているとしている、本稿で言うアイコニシティである。カイザー（2014）⁵⁸は、絵文字と漢字とは性格が決定的にことなる点が少なくとも2点があると指摘している。その一つは、絵文字が国際的に通用すること、もう一つは、絵文字の形が恣意的ではなく、有契的であることである。しかし、映像化には、過剰な情報を読み手に与える危険性を持っていることも銘記しておかなければならない。

郵便局、交番、神社、教会、博物館・美術館、病院、銀行・ATM、ショッピングセンター・百貨店、コンビニエンスストア・スーパーマーケット、ホテル、レストラン、トイレ、温泉、鉄道駅、空港・飛行場、観光案内所など 2016年3月に15種類が決定された後、下記の図のように、2017年7月20日に観光案内所の地図記号が加えられ、現時点で16種類の外国人向けの地図記号が策定されたことになる⁵⁹。

⁵⁷ 町田健『ソシユールのすべて：言語学でいちばん大切なこと』 研究社 2004年2月 p52

⁵⁸ シュテファン・カイザー「漢字の魅力にひそむエンドレス感と西洋世界の漢字学習『システム』」 『日本語文字・表記の難しさとおもしろさ』 彩流社 2014年3月 p255

⁵⁹ 国土地理院「日本人に分かりやすい地図作成の取り組み」 2017年7月

URL: <http://www.gsi.go.jp/kihonjohochousa/kihonjohochousa40072.html>

（最終閲覧日：2017年10月11日）
















項目	地図記号	項目	地図記号
郵便局		コンビニエンスストア/スーパーマーケット	
交番		ホテル	
神社		レストラン	
教会		トイレ	
博物館/美術館		温泉	
病院		鉄道駅	
銀行/ATM		空港 / 飛行場	
ショッピングセンター / 百貨店		観光案内所	

図 16 外国人向け地図記号（16 施設）⁶⁰

上記の中、5 種類が元の日本の地図記号が外国人を意識した地図記号に大きく変更された。それは、教会、交番、郵便局、病院、ホテルの記号である。

上述したように、教会のピクトグラムは以前、十字架のマークだったが、墓と混同される恐れがあり、建物に十字架がのっている形に改められた。

交番のピクトグラムは警棒（以前は六尺棒）を交差させたものであったが、車両通行止めの交通標識と混同され、外国人には「立ち入り禁止」の意味に取られかねないので警察官の絵が描き加えられたものに変更された。

郵便局のピクトグラムはかつて郵便物を扱う役所が通信省と呼ばれていた時の「テイションショウ」の「テ」を○で囲んだものであったが、日本人以外は理解できないもので、今回メールを擬えたマークに変更された。

病院のマークは旧陸軍の衛生隊のマークを基に作られたものであったが、病院の建物が描き加えられたものに変更された。

ホテルのピクトグラムは Hospital（病院）の頭文字 H と混同の恐れがあるとしてベッドに横たわる人の姿に変えられた。

図形に若干の変更を加えたものとして飛行場のピクトグラムがある。飛行機の形を新型のものにし、より写実的なものになっている。

⁶⁰ 同上

大まかな傾向として甲骨文字が象形を基本とする流線型から、縦横の直線に変化したのと同様にピクトグラムも記号化がすすんでいる。同時に景観を配慮したデザインになっている。

第9章 公共標識等の英語表記 —英語表記書き込みの理由

小泉純一郎元内閣総理大臣が2003年に「観光立国懇談会」を立ち上げ主催した。(観光立国とは、国内の特色ある自然環境、都市光景、美術館・博物館等を整備して国内外の観光客を誘致し、インバウンドを国の経済を支える基盤の一つにすることである。多くの国が観光局等を設置、観光資源の整備、観光業の規制整備を行い、特に外国人観光客の誘致に努めている。『デジタル大辞泉』)。その後、観光立国という戦略を推進していくべく、国土交通省は2005年に「観光活性化標識ガイドライン」を公布した。その中で、「案内標識はユニバーサルデザインの観点から日本語、英語及びピクトグラムの3種類による表記を基本とし、必要に応じて、多言語表記や音声案内等の活用を検討する。」⁶¹ということが付記されている。

表記の一つであるピクトグラムのほか、日本語表記や英語表記なども観光立国の一環として重要な役割を担っている。

京都の市バスでは、金閣寺を「Kinkaku-ji Temple」と英語で放送されている。また、金閣寺のパンフレットには、以下のような英文が書かれている。The pavilion is part of a temple that is formally named Rokuon-ji Temple, but commonly called Kinkaku-ji Temple, or Temple of the Golden Pavilion. (一般には金閣寺と呼ばれているが、正式には「鹿苑寺」と呼ばれる。)

日本の公共標識の英語表記では、金閣寺を Rokuon-ji Temple あるいは Kinkaku-ji Temple と表記される。「金閣寺」のローマ字表記は Kinkakuji である。しかしそのローマ字表記 Kinkakuji の後ろにさらに Temple が付け加えられ、Kinkakuji Temple と英語表記される。

言うまでもなく temple も ji も「寺」の意味であり、重複訳と言える。一方、中国河南省にある禅の発祥地《少林寺》の英語表記は Shaolin Temple である。

英語訳の場合、ふつう固有名詞と普通名詞は区別される。「金閣寺」の「金閣」は固有名詞で Kinkaku と訳され、「寺」は普通名詞で、Temple と訳され、Kinkaku Temple と表記されるべきだが、問題はそう簡単ではない。

2012年の時点では、JR 京都駅前バス案内表示は「D2 三十三間堂 清水寺 祇園 百万遍方面」、その英語表記は To Kiyomizu Temple Gion and Hyakumannben であった。近年、Kiyomizu Temple は、Kiyomizu-dera Temple に書きかえられている。⁶²一方で、壬生寺のオフィシャルサイトでは英語の正式名称が Mibu-dera Temple となっている。しかし、外国語の観光案内サイトでは Mibu Temple という英語表記もなされている。このように接尾辞付加に

⁶¹ 国土交通省 「観光活性化標識ガイドライン」 2005年6月

URL: <http://www.mlit.go.jp/common/000059348.pdf>

(最終閲覧日: 2017年10月11日)

⁶² 當山日出夫 「景観文字研究のこころみ—『祇園』の経年変化を事例として—」 高田智和・横山詔一(編) 『日本語文字・表記の難しさと面白さ』 彩流社 2014年3月

関して表記の揺れが見られる。「固有名詞＋普通名詞」が表記の規則ではあるが、接尾辞を固有名詞に繰り返すのか否かに不統一が見られる。

文学作品のタイトルには看板の英語表記とも違いが見られる。三島由紀夫の小説『金閣寺』の英訳版のタイトルは、『The Temple of the Golden Pavilion』である。翻訳者の修辞や美学・こだわりが感じられ一見して誤解なく分かりやすいことを旨としている看板とは異なった様相を示している。

1. 一般的な英語表記の規則

普通名詞を英語表記する場合、アメリカの五番街が **Fifth Ave.** のように、通りは **～Ave.** (Avenue の略)、**～St.** (Street の略)、**～Road** のようにすることが原則であり、山は **Mt.～** (Mount の略)、湖は **Lake～**、川は **～River** など示されることも明確である。そのほか、駅は **～Station** で、神社は **～Shrine** で、寺は **～Temple** で、城は **～Castle** などの英語表記があげられる。

「固有名詞＋普通名詞（接尾辞）」の英語表記は固有名詞が日本語のローマ字表記で、普通名詞（接辞）が英語表記で示されるのが一般的である。

富士山→Mt. Fuji

琵琶湖→Lake Biwa

利根川→Tone River

Lake が固有名詞の前に表れ、**River** が後に表れていることも問題になるが、今後の課題としたい。

2. 日本人と外国人双方理解を得るため、「固有名詞＋普通名詞（接尾辞）」という一般的な英語表記の規則にこだわらず、日本における英語表記の基準原則が定められた。

国土交通省の「観光活性化標識ガイドライン」（2005）より英語（ローマ字）の表記の基準を見てみよう。

まずは、固有名詞はローマ字で、普通名詞部分は英語に直して表記する。日本語のローマ字表記については、ヘボン式を用いる。

固有名詞のみによる英語表記にはローマ字つづりの後に **～River** などを、前に **Lake～** などを付け、意味の伝わる英語を補足する。ただし、富士山が **Mt.Fuji** に訳されるように上記のような表記方法でない方法が定着しているものについてはこの限りでない。

ガイドラインに基づき、2016年3月に国土地理院から発布された「地名等の英語表記規程」⁶³によれば、以下のような新基準が示された。

⁶³ 国土交通省 「地名等の英語表記規程」 2016年3月
URL : <http://www.gsi.go.jp/common/000138865.pdf>

第3条 地名等の英語表記は、追加方式又は置換方式のいずれかによることを標準とする。

追加方式は、表音のローマ字表記に地形や種別を表す英語を追加する。

置換方式は、表音のローマ字表記のうち、地形や種別を表す部分に対応する英語に置き換える。

第8条 島以外の単体の自然地名の英語表記は、次の各号に定めるところにより行う。

一 地形を表す部分が標準的な漢字及び読み該当しない場合は、追加方式によるものとする。

二 地形を表す部分の直前に促音がある場合は追加方式によるものとする。

三 地形を表す部分の直前に助字（平仮名表記でのみ現れる場合も含む）がある場合は追加方式によるものとする。

2 前項に該当しない場合、次の各号に定めるところにより英語表記を行う。本項では、固有名詞的部分（名称全体から地形を表す部分を除いた部分）の読みの音拍数により場合分けをする。音拍数とは、促音（「っ」）、長音（「ー」）、撥音（「ん」）及び拗音（「きゃ」「きゅ」「きょ」など）をそれぞれ1文字として数えた場合の読みの文字数と同じである。

一 固有名詞的部分の読みが1音拍の場合は追加方式によるものとする。

二 固有名詞的部分の読みが2音拍で漢字1文字の場合は原則追加方式によるものとする。ただし、固有名詞的部分が近隣で他の自然地名、地域名、行政名、居住地名及び公共施設名等に使用されている場合は置換方式によることができる。

三 固有名詞的部分の読みが2音拍で漢字1文字でない場合で、地形を表す英語が先頭に付く場合（山、湖、岬）は原則追加方式によるものとする。ただし、次の場合は置換方式によるものとする。

イ 固有名詞的部分のみで山又は山城を指す場合

ロ 固有名詞的部分が近隣で他の自然地名、地域名、行政名、居住地名及び公共施設名等に使用されている場合

ハ 琵琶湖

実際には、以下のような日本における英語表記の例が挙げられる。

筑波山⁶⁴→Mt.Tsukuba（置換方式）

（最終閲覧日：2017年10月11日）

⁶⁴ 筑波山：日本の関東地方東部、茨城県つくば市北端にある標高877mの山である。富士山と対比して「西に富士、東に筑波」と称される。

大山⁶⁵⇒Mt.Daisen (追加方式)

立山⁶⁶⇒Mt. Tateyama (追加方式)

芦ノ湖⁶⁷⇒Lake Ashinoko (追加方式)

利根川⁶⁸→Tone River (置換方式)

荒川⁶⁹⇒Arakawa River (追加方式)

那珂川⁷⁰→Naka River (置換方式)

中川⁷¹⇒Nakagawa River (追加方式)

置換方式は一般的な英訳の基準に基づき、固有名詞の部分が表音のローマ字表記で示され、普通名詞の部分が英語に置き換えられる。追加方式は地名全体をローマ字表記で示し、後ろに英語表記で種別（山、川、湖のような）を示す方式である。

追加方式は日本人と外国人に分かりやすいよう工夫された基準だと言える。この基準の根底には、外国人が日本人に場所を聞く際に、Tate, Yodo のようなローマ字表記による発音のみでは意味が通じにくくなるという推測があるように思われる。日本人にとっては Tateyama, Yodogawa となって初めて地名が特定できるし、それで十分な表現である。その意味で、すでに日本語の山や川を含む地名にさらに英語の Mt. や River をつけて、Mt. Tateyama, Yodogawa River とするのは、日本語を理解する人にとって余剰表現である。Yama や kawa を理解しない外国人に配慮したものと言うべきであろう。しかし、英語を聞きとることが難しい日本人にとっても Lake Ashino の Lake が聞きとれなければ地名の特定は難しいものとなる。

追加方式として立山が Mt. Tateyama に、芦ノ湖が Lake Ashinoko となり、淀川が「Yodogawa River」となる。これらの普通名詞（接尾辞）の部分が固有名詞に繰りこまれ一語化する。

⁶⁵ 大山：日本の鳥取県にある標高 1,729m の成層火山である。鳥取県および中国地方の最高峰でもある。

⁶⁶ 立山：日本の飛騨山脈（北アルプス）北部、立山連峰の主峰で、中部山岳国立公園を代表する山の一つである。

⁶⁷ 芦ノ湖：神奈川県南西部にある県内最大の湖で、早川水系に属する二級河川でもある。

⁶⁸ 利根川：関東地方を北から東へ流れ、太平洋に注ぐ河川。一級水系である利根川水系の本流である一級河川である。

⁶⁹ 荒川：埼玉県および東京都を流れ東京湾に注ぐ河川である。一級水系である荒川水系の本流で一級河川に指定されている。また、山形県および新潟県にも荒川という一級水系の本流がある。

⁷⁰ 那珂川：栃木県北部那須郡那須町的那須岳山麓を源とし同県東辺部を南に流れ、芳賀郡茂木町で東に向かい、茨城県を南東に流れてひたちなか市と東茨城郡大洗町の境界部で太平洋に注ぐ、一級水系那珂川の本流である。

⁷¹ 中川：埼玉県および東京都を流れ東京湾に注ぐ一級河川。利根川水系の支流である。

表記の問題全般に言えることであるが、首尾一貫したものではあり得ない。こちらを立てればあちらが立たないということは避けがたい。同じ音声形式を持つ那珂川⁷²→Naka River（置換方式）、中川⁷³⇒Nakagawa River（追加方式）の例がこの問題を端的に表す。

この問題を、定延（2001）⁷⁴が「接ぎ木語の問題」として論じている。

まず、合成語と接ぎ木語との相違を見てみよう。

例えば、「中国人日本語学習者」という合成語がある。定義としては、中国語を母語とする日本語を学習している者が「中国人日本語学習者」と言われる。ここでは、意味的には、「中国人+日本語学習者」と分割できる。

合成語は以下のような三つのタイプに分けられる。

「AB+C」 「国際交流センター」

「A+BC」 「中国人日本語学習者」

「A+B+C」 「紅葉見頃予想」

接ぎ木語はこの三つの合成語の世界に属することができない。合成語のどちらの構成にも分割できない。

例えば、「神戸大学長」である。（?は日本語として不自然であることを示す）

「AB+C」タイプだとすると、「【神戸】??【大】+【学長】」あるいは「【神戸】【大学】+??【長】」となる。

「A+BC」タイプだとすると、「【神戸】+??【大】【学長】」「【神戸】+【大学】??【長】」となる。

「【神戸】+??【大】+【学長】」または「【神戸】+【大学】+??【長】」のような「A+B+C」の形は不自然なことは言うまでもない。

定延（2001）は、「神戸大学長」のような表現を合成語とは別の存在だとし「接ぎ木語」と呼ぶよう提案している。

上記の例で、「学」という字を加えると、「神戸大学学長」となる。「神戸大学+学長」のよう「AB+C」の構成で言えるようになる。しかし、正式な名称は「神戸大学長」で、同じ「学」の部分が一つしかない。要するに、「AB+BC」のBが重なった。これが、接ぎ木のような形で示されることができるので、定延（2001）では、「AB+ (B) C」の形を接ぎ木語と意味付けた。

「ji」と「Temple」の重ね方が接ぎ木語と同工異曲であるとも言えよう。

⁷² 那珂川：栃木県北部那須郡那須町的那須岳山麓を源とし同県東辺部を南に流れ、芳賀郡茂木町で東に向かい、茨城県を南東に流れてひたちなか市と東茨城郡大洗町の境界部で太平洋に注ぐ、一級水系那珂川の本流である。

⁷³ 中川：埼玉県および東京都を流れ東京湾に注ぐ一級河川。利根川水系の支流である。

⁷⁴ 定延利之 「出来事としての語-接ぎ木語の動的構造」『文法と音声Ⅲ』 音声文法研究会 くろしお出版 2001年12月

また、音声学の視点から見ると、「立山」の「立」は漢字一文字で二音節である。このような、漢字一文字二音節のようなものに対しては、規則で示されたように、「山」や「川」などの普通名詞の部分も固有名詞としてローマ字表記で示される。「淀川」も同様である。

「芦ノ湖」の例に対しては、「ノ」が「湖」の直前に着く場合では、第8条が示されているように、「地形を表す部分の直前に助字（平仮名表記でのみ現れる場合も含む）がある場合は追加方式によるものとする」。従って、「Lake. Ashinoko」となる。

繰り返しになるが、この問題は最終的には折衷案にならざるを得ない。意味（深層構造）と実際の形式（表層構造）にズレが存在する一つの例である。

富士山→Mt. Fuji

琵琶湖→Lake Biwa

利根川→Tone River

地図表記で用いられる上記のような問題を、修飾語 **Modifier** と主要部 **Head** との順序という観点から考えてみたい。英語においては **Mt.** と **Lake** は前、**River** は前後両方に現れる。英語自体の語順も問題であるが、ここでは日本語の地名表記や企業名の語順について考える。中国語では〔修飾語＋主要部〕で一貫しており問題はないが、日本語では、「伊藤グリル：グリル伊藤」のように反転タイプが見られるし、「商船三井、JR 関西」のような〔中心語＋主要部〕タイプも少なくない。

窪菌（2001）⁷⁵は、「複合語の内部構造がアクセント句形成と関係している」と述べ、「浦島ホテル」と「ホテル浦島」、「堀内マンション」と「マンション堀内」の違いを例に、一つのアクセント句にまとまりやすいか否かについて、「漢字＋カタカナ」の方が「カタカナ＋漢字」よりも一つのアクセント句にまとまりやすいと指摘し、それは実際に用いられている表記法の違いには関係しないとしている。つまり漢字表記の「浦島」がローマ字表記の **Urashima** であっても漢字表記と見なされ、カタカナ表記の「ホテル」が英語表記の **Hotel** に変わっても日本語としてはカタカナ表記として見なされる。そこで「利根川」については **Tone River** の方が **River Tone** よりも日本語としてアクセント句にまとまりやすいということになる。

アクセント句にまとまりやすいということはより一語化しているということでもある。

中川（2005）も、「言語類型論的にいうと、動詞が目的語の前にくる **SVO** 型の言語はヘッドが前、目的語が動詞の前にくる **SOV** 型の言語はヘッドが後ろにある傾向がみられる。日本語は多くの面では **SOV** 型言語の典型的な特徴を示す。……中国語は **SVO** 言語でありながら〔修飾語＋主要部〕のように中間的性格を示す」と指摘している。

同じ漢字を使用している日中間においても「立入禁止」を「這って入ればいいのか？」という質問 が出たり、「開放禁止」というドアの張り紙にドアを開けることを躊躇したりする

⁷⁵ 窪菌晴夫 「語順と音韻構造 一事実と仮説一」『文法と音声Ⅲ』音声文法研究会編 くろしお出版 2001年12月 pp.107~140

例など枚挙にいとまがないほどの事例が報告されている。この例は、「立入」や「開放」という日中同形語において語の中心となる主要部 (Head) が前に来る傾向の強い中国語と後ろに来る傾向の強い日本語の言語類型論的違いに起因していると雷桂林⁷⁶氏は、中川 (2005)・木村 (1996) の研究を踏まえて指摘している。

フランス語やタイ語は〔主要部+修飾語〕タイプであるが、英語は *attractive man* のように修飾語が短い場合は〔修飾語+主要部〕であるが、修飾語 (句) が *the man attractive to girls* (女の子にとって魅力的な男) のように〔主要部+修飾句〕になる。それが *Lake Biwa, Tone River* のような両タイプが併存することと関係があるのか否かは今後の課題としたい。

それに対して典型的な〔修飾語+主要部〕型の言語である日本語に「伊藤グリル」と「グリル伊藤」タイプが存在するのか。

日本語母語話者の語感によると「ホテル浦島」タイプに比べて「浦島ホテル」は古臭い、おしゃれではないという。「ホテル浦島」のタイプは、日本語の句構造 (名詞句)、つまり「美しい自然」のような〔連体修飾+名詞〕とは逆の構造である。本稿では、日本語の本来の構造から外れることが新しさやおしゃれな感じを生むのだと考える。「浦島ホテル」が古臭い感じがするのはまさに日本語の句構造を踏襲したものであることによる。「伊藤グリル」は古くから神戸元町にある人気洋食屋であるが、「グリル伊藤」ではなく「伊藤グリル」と古風であることが、昔からの味や調理法を守っていることを訴えていると思われる。新しくあることと伝統的であることがいずれも好ましいと考えられる時、「ホテルオークラ」と「プリンスホテル」のように句構造の異なる両者が併存することとなる。

レストランのメニューにもこのような外国語からの借用の例がしばしば見られる。その典型はフランス料理のメニューである。「牛テールのゼリー寄せ」、「舌平目のデュグレレ風」、「牛肉の煮込み ブルゴーニュ風」など枚挙にいとまがない。窪菌 (2001) は、これは、Fudge (1984) が指摘するように「フランス語の〔主要部+修飾句〕という意味構造を借用し、フランスらしさを演出したもの」ではないかと述べている。

日本語においては句構造規則を守ることと逸脱することが人々の耳目を集める手段の一つとして用いられている。これはホテルやレストラン関係のようにファッション性と深くかかわる分野のみならず、「東京都立大学」が「首都大学東京」となったように大学名にまで及んでいることは日本の文化の特徴の一つであると言えよう。

2016年春、近畿大学の英称を「Kinki University」から「Kindai University」に変更したという。それは、*kinki* が英語の *Kinky* (変態) と同音して誤解を招くからだという。

これらの現象については、コセリウ (Eugenio Coseriu)⁷⁷の言説からも考察を加えること

⁷⁶ 雷桂林 「从日语的“立入禁止”谈起」 『中国語学』 第138号 2018年1月

URL : <https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/guide/essay.html#2018-01>

(最終閲覧日 : 2019年11月18日)

⁷⁷ コセリウ (Eugenio Coseriu)

ができる。ここでは、コセリウ (1982) の『コセリウ言語学選集：人間学としての言語学 (第3巻) 文法と論理』より引用しておく。

言語観から言えば、自然言語に認められる三つの面がある。その一つは人間がひとと話すという一般的な話活動としての言語 (*das Sprechen im allgemeinen*) でソーシャルのランゲージュ (言語活動) と対応するものである。その二つ目は歴史的に存在する個別言語 (*die Sprachen* [複数], *die Einzelsprachen*)、つまり英語、ドイツ語、日本語といった一つの体系をもった言語である。第三はある人がある人に何らかの発話場面で何かを伝えるという具体的な交信活動、コミュニケーションの実現をはかる行為としての言 (話) である (ソーシャルでいう「パロール」に近い)。コセリウはこのように言語の三つのレベルを考え、さらに個別言語に『体系』(System) と『慣用』(規範) (Norm) を認め、きわめて個人的な言 (言述、話、言行為、話活動、テキスト) (Rede) と対置するのである。(p. 212)

また、コセリウ (1981) の『コセリウ言語学選集：人間学としての言語学 (第2巻) 言語体系』では、以下のようにも述べている。

慣用 (Norm) (規範) というのは一般に用いられている意味の『規範』すなわち正誤の基準や、表現されたものについての主観的評価の基準によって確立されたり課せられたりする規範ではなく、ある言語内に客観的に確認される慣用であり、われわれの述べている慣用を確認する際に、『いかに言うか』が確認されるのであって、『いかに言うべきか』ではない。(p. 74)

「浦島ホテル」が Norm を逸脱した「ホテル浦島」に比べ、古臭いイメージを持つのは、現代日本語においては、ホテル・レストランなどでは〔主要部+修飾語〕が Norm として確立されていることによる。句構造とは別に、たとえ破格であっても、多くの人が用い、社会で安定すればそれが規範となり得る。日本の漢字に熟字訓といわれるものがある。「明日あす」、「梅雨つゆ」、「浴衣ゆかた」、「流石さすが」のように慣用的に読むものは枚挙にいとまがない。それらは、由来もさまざまであり、たとえば「浴衣」が「ゆかた」と言われるからといって、「浴」に「ゆ」という音が、「衣」に「かた」という音があるというわけではない。「浴衣」全体が「ゆかた」なのである。それらと同じように、日本古来のものと外来のものが、当時の規範を超えて結びつき、定着することはあり得ることだと考える。

1921年にルーマニア生まれ。1966年以降西ドイツのチュービンゲン大学のロマンス言語学および一般言語学教授を務めていた。

第3部：色彩と視点をめくる問題

第1章 色彩語から見られる普遍性と恣意性

トイレを表すピクトグラムは男性が青、女性が赤で描かれることが多い。「救護所」マークは地が赤で、「ヘルプマーク」は地が緑である。トリアージは黒が無呼吸群・死亡群、赤が重症群、黄色が中等症群、緑が軽症群を表す⁷⁸。

カテゴリー0		無呼吸群・死亡群
カテゴリーⅠ		最優先 治療群（重症群）
カテゴリーⅡ		待機的 治療群（中等症群）
カテゴリーⅢ		保留群（軽症群）

表1 トリアージカテゴリー（筆者作成）

我々の周りは色彩に溢れている。単なる装飾としての色彩もあれば、一定の約束事にそって、つまり恣意性をもって存在することもある。それらの色彩が景観の重要な部分を構成している。

長い年月を経て、多くの事物は描かれる国や地方によって固有の色彩が定着する。イスラム教のシンボルカラーは緑である。アメリカ合衆国のダートマスはモスグリーンがシンボルカラーでホテルの壁紙もモスグリーンが使われるなど、この色彩で街全体覆われている。関西学院大学のKGブルーはスクールカラーとなり、認知度もかなり高い。また、地中海が沿岸や島々の青い空と海に囲まれた白い壁の町並みのように自然環境と人工物が融合し、観光資源となることもある。

『京のガイドライン・広告編』によると、京都では、屋外の看板や広告物などの乱立で、特に歴史的な町並みとの調和しなくなり、屋外広告物の高さ・色の彩度、組み合わせと面積などについて、周囲の景観に合うように、「規制対象色」（禁止色）を定めた。無彩色（白）やこげ茶、クリーム色等の低彩度の色を原則とし、けばけばしい色彩の使用を避けることを基本としている。⁷⁹

10 数年前から、各街のイメージカラーを比較する機会が何度かあったが、その中でも、京都の色彩がもっとも印象に残っている。多くの人達が、共通して、全体的にくすんだ

⁷⁸ 『トリアージ ハンドブック』東京都福祉保健局

URL : <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/kyuukyuu/saigai/triage.files/toriaji.pdf>（最終閲覧日：2019年1月8日）

⁷⁹ 『京のガイドライン・広告編』

URL:http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000146/146248/guide_koukoku%28L%29.pdf（最終閲覧日：2018年10月2日）

渋いトーンの色を選択しているのである。それと対照的なのが大阪の色だと思う。派手で、はっきりした色合いが好まれているようだ。しかし、その雑多さが大阪の魅力の一つになっているように思われる。これは多分にテレビなどのマスメディアに影響を受けた偏見、ステレオタイプかもしれない。他に、灰色がかった色を好む人が多くいるのは、都会に多く見られるグレイの高層建築物とのコーディネートを考えているのかもしれない。⁸⁰ (p.13)

昔は明るい色彩を表す染料は高価なものが多く、豊かさを誇示するためにそれらの色彩が用いられたことは否定できないが、物資が豊かになるにつれ、逆に落ち着いた色彩、渋い色彩、パステルカラーなどが好まれるようになったと思われる。2018年にドラマ《延禧攻略（瓔珞—紫禁城に燃ゆる逆襲の王妃—）》の上演とともに《莫兰迪色系（モランディが作品に使用された薄暗い色合い）》と呼ばれる色がブームになった。それは伝統的な中国のカラーであると宣伝され、実際紫禁城の雰囲気に対応しい渋い色調であった。

本節では色彩とその所記の関係について考えるが、その前に色彩研究を概観しておこう。

グリーンソン（1976）⁸¹に、以下のような記述がある。それは色彩を虹のようにスペクトル化したもので、周波数を軸に並べたものである。そこで問題にされているのは、白、黒、赤、青などの基本色で、チョコレート色や鼠色のような色彩名は考慮されていない。

グリーンソンは、英語、ショナ語（Shona）（ローデシアにある言語）およびバサ語（Bassa）（リベリアにある言語）における色彩語を、スペクトルに表示される色の分類を用いて大まかに示している。英語はred（赤）、orange（橙）、yellow（黄）、green（緑）、blue（青）、purple（紫）と6色⁸²に分けられるが、ショナ語は三色に分けられ、バサ語はわずかに白と黒の二色しか分けられない。繰り返しになるがショナ語にもバサ語にも「細かい色を表す用語が多数ある」が、基本的な分類としてはこのような二、三色しかないということである。

丸山圭三郎（1981）⁸³では、以下のような記述が見られる。

また、我々にとって、太陽光線のスペクトルや虹の色が、紫、藍、青、緑、黄、橙、赤の七色から構成されているという事実ほど、客観的で普遍的な物理的な現実に基づい

⁸⁰ 成田イクコ 『色からの伝言』 かんぼうサービス 2004年10月28日

⁸¹ H. A. グリーンソン 『記述言語学』 竹林滋・横山一郎（訳） 大修館書店 1976年10月1日

⁸² ニュートンによって太陽光をプリズムで分解する実験が行われて以来、虹は七色ということが定説になった。orange（橙）とindigo（藍）がそれ以前の五色（赤・黄・緑・青・藍）に加えられた。それはニュートンが虹と音階—ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シーの理論と対応させたかったからだと言われている。

⁸³ 丸山圭三郎 『ソシュールの思想』 岩波書店 1981年

たものはないように思われる。ところが、英語ではこの同じスペクトルを purple, blue, green, yellow, orange, red の六色に区切るし、……ウバンギの一言語であるサンゴ(Sango)語では vuko と bengwbwa の二色……にしか区切らないという事実は何を物語っているのであろうか。言語はまさに、それが話されている社会にのみ共通な、経験の固有な概念化・構造化であって、各言語は一つの世界像であり、それを通して連続の現実を非連続化するプリズムであり、独自のゲシュタルトなのである。

ここに例示した二つの見解は、各言語の色彩語を個々に連続するスペクトルから恣意的に切り取ったものとして把握しているが、我々は色彩についてさらに多くのことを感じている。先に京都と大阪の街の色彩について言及したが、視野をやや大きくして、日本・朝鮮半島・中国を比べてみても、経験的にこれは日本の色調、これは中国の色調と感ずることは少なくない。もちろん色の取り合わせがそれぞれの地域と結びついているのであるが、例えば典型的な緑を三地域で比べてみると微妙な差が認められる。しかし、これを定式化するにはまだまだ多くの問題が存在する。

そんな中、B.バーリンと P.ケイ (2016) は、上に見たグリーンソンのような言語相対説に対して疑問を持ち、98 の言語を比較検討し、色彩語を収集し、分析した。それは以下の 11 種、すなわち、白色、黒色、赤色、緑色、黄色、青色、茶色、紫色、ピンク色、オレンジ色、灰色を基本色とし、以下のような傾向を発見した。

- (1) 全て言語には白色 (white) と黒色 (black) が基本色として存在する。
- (2) ある言語に基本色が三つあるなら、三番目の色は赤 (red) である。
- (3) ある言語に基本色が四つあるなら、四番目の色は緑 (green) か黄 (yellow) のいずれかである。(しかし、この段階で緑と黄の両者が存在することはない。)
- (4) ある言語に基本色色が五つあるなら、それは白・黒・赤の他に、緑と黄が存在する。
- (5) ある言語に基本色が六つあるなら、六番目の色は青 (blue) である。
- (6) ある言語に基本色が七つあるなら、七番目の色は茶色 (brown) がある。
- (7) 基本色名が八つ以上なら、紫 (purple)、ピンク (pink)、オレンジ (orange)、灰色 (grey) のいずれかが加わる。⁸⁴ (p.5)

この指摘は極めて興味深いもので、全世界の言語における色彩語を「もし A ならば B である (if…then～)」という含意的普遍性の観点から捉えようとしたものであると言える。

B.バーリンと P.ケイは同時に、カタルーニャ語、広東語、北京語、日本語を上記の 7 項の「例外」とせざるを得ない事象を見つけた。例えば、広東語と北京語では、派生法則に反し

⁸⁴ グレント・バーリン&ポール・ケイ 『基本の色彩語 普遍性と進化について』日高杏子(訳) 法政大学出版局 2016年5月25日

て以下のような事例が存在する。

北京語は黒色、白色、「赤色」、緑色、「黄色」、そして青色の色彩語を持つために、第5段階の例として扱った。さらに灰色が挙げられているが、この「灰色」は基本語とみるよりも「鼠色」と同様「灰の色」から来たものであろう。(p.61)

広東語では白色、黒色、「紅色(赤色)」、緑色、「黄色」、さらに青色がある上にピンクと灰色も存在する。そして、茶色を指す語がなく、この色彩カテゴリーは黄色に含まれている。⁸⁵ (p.62)

この二人の研究を受けて大河内(1982)⁸⁶が日中の色彩語の比較対照を行っている。ここでは中川正之(1985)⁸⁷によるその要約などを引用する。

色彩語を考えるさい、それが眼前にある物の色をつぶさに描写するような場合なのか、それとも「真っ赤な頬」のような慣用的表現や「バラ色の人生」のように象徴的表現に用いられるのかを峻別しなければならない。前者の場合「藍・緑・黄・紅・紫」などの中国語の基本色彩語については、漢字を共通にする日本人が見てひどくかけ離れていると思うような色相はない。ただ「藍」が中国語では活躍すること、もっともそれは現代中国語に「紺」が存在しないことと関連しているが、日本語の「藍」よりずっと主要な色彩語であることと、「緑」が「黄」に接近した色相をも含むことなどは注意しておきたい。

大河内論文は後でも引用する。中川(1985)は、1982年に17枚の日本の色紙(いろがみ)を持参し、北京の在中国日本語研修センターの受講生(中国人)30名にその色紙の色彩名を中国語で記入するという調査を行っている。その報告で「その回答の中で目を引くのが答えのばらつきであった。17枚どの色紙についても三種類以上の回答が見られた。我々にとっては『典型的な』黄色の色紙に対しても7種類の答えがあった。注目すべきは「茶色」の色紙である。その答えが九種類と最も多様であったのと、その中に「紫色」が含まれていたことである。魯迅が『故郷』という小説の中で、元気な田舎の少年の顔色を「紫色」と描写しているのにも合点がいく。中国語には普通話と呼ばれる標準語が制定されてはいるが、その成熟度・均質性にはなお問題ありということではないだろうか」と述べている。1982年と現在では状況も異なるであろうが、当時の日本の色鉛筆、クレヨンにはそれぞれ色彩名が記入してあったが、中国のものには皆無であったという。「茶色」の色紙に対して答えが分

⁸⁵ 同上

⁸⁶ 大河内康憲 「中国語の色彩語」『中国語の諸相』 白帝社 1997年 pp.177-204 (大河内(1982)の論文は『中国語の諸相』に収録された。)

⁸⁷ 中川正之 「日本語と中国語の対照研究」『日本語学』1985年7月号 Vol.4 明治書院

かれたのは、中国語の色彩名にそれが存在しなかったことが大きい。

日本語についても北京語と広東語と同じくアオ（青色）は、ミドリ（イロ）「緑色」よりはるか古代から存在している。さらにアオが、緑色と青色のカテゴリー両方にまたがって使われている数々の証拠がある。⁸⁸ (p.62)

中川（2018）⁸⁹は、沢木幸太郎の小説の一節を引いている。

「道はしばらく海から離れていたが、ひとつの坂を越えると不意に左手前方に輝くばかりの海が姿を現した。太陽の光をいっぱいを受けて、海水は何層にも色を変えている。青く、蒼く、碧い.....。」（新潮文庫『深夜特急 6』）と漢字を使い分けている。修辞の一つとして漢字表記と仮名表記が用いられている。

中川（2018）は修辞としているが、日本語の青が「みどり」をも含むことを端的に示す例である。その他、「木があおあおと茂っている」、「青信号」などを考えれば日本語の「あお」は「みどり」をカバーする能記であることが分かる。

城（2017）によると、古代日本社会においては、「明、暗、顕、漠」という四つの色域しかなかったという。

明は赤から橙、黄色までを含み、暗は黒から灰色に至る黒ずんだ状態。顕は白みの青を含む白の周辺、漠は緑から青、さらに黒に至る広い色域を表現することになった。黄が色名として認識されるようになるのは「陰陽五行説」伝来以降のことである。

日本の古代社会における色の表し方としては、光の「明」「暗」「顕」「漠」を基本構成要素としており、「明」＝アカ、「暗」＝クロ、「顕」＝シロ、「漠」＝アオが基本的な色彩と考えられる。さらに、「陰陽五行説」が中国から伝来して以来、黄色も基本の色名に加わり、5色になったと考えられる。

古代日本人の色彩観は、当時の中国思想哲学の根本をなしている陰陽五行思想からきたものである。「陰陽五行の思想」とは、森羅万象には陰と陽の相反する二気があり、その中から生じた五つの元素（木、火、土、金、水）からなる五気が自然界の循環作用をもたらすとするものである。

五元素のうち、木と火は「陽」、金と水は「陰」で、中心にある土は「陰」「陽」の両方を兼ねているとされるため、大地は「陰」「陽」ともに合わせ持っていると考えられる。

⁸⁸ ブレント・バーリン&ポール・ケイ 『基本の色彩語 普遍性と進化について』 日高杏子（訳）法政大学出版局 2016年5月

⁸⁹ 中川正之 「漢語の散歩道」 『日中友好新聞日本中国友好協会』 2018年

色彩にもその五行説の影響で「五色」あるとされ、その青・赤・黄・白・黒が、方位・時間・五旺・五臓に対応するものとされている⁹⁰ (p.21)。方位を「東が青龍の青、南が朱雀の赤、西が白虎の白、北が玄武の黒である」とするのは周知のことであろう。(成田 (2004) p.22)

基本の色彩語と「明暗頭漠」および「陰陽五行説」からみると、日本、中国ともに「青、赤、黄、白、黒」の五色が伝統的な色彩と言える。

第1節 色彩語の分化と拡大 一慣用表現と象徴的表現

色彩語は時とともに、好まれるものになったり、忌避されるものになったり、様々な変化を蒙る。また、基本色彩語を中心にその所記を拡大し、恣意的に様々な意味合いが付与されてきた。いずれにせよ色名、とりわけ「分化」は、その気候風土・文化と深く関係する。

たとえば、我々にとっては「白」であっても、イヌイト（アラスカ北東部の雪や氷に閉ざされる先住民族）は、実に多くの「白」を表す言葉を持っている。…白といっても細かく識別していかなければならない。つまり、その文化においてどういう色が大切なのかによって、色彩語も分化するのである。⁹¹ (p.78)

たとえば1980年代の自動車の生産台数の約8割が白だったといわれるくらい、日本人は白い車が好きである。このため、その当時、白を表す自動車の色名としてパールホワイト、スーパーエクセレントホワイト、マイカホワイトなど、という具合にさまざまな色名が登場した。その結果、同じ白だが、かなりバリエーションが増えてくるということは、ある意味でそれが文化の反映だといえる。⁹² (p.78)

中国でこの白い車が売れなかったことがある。後述するように「白」が死を連想させるものであったからだ。服装でもアクセサリでも「白一色」は好まれなかった。それに対して「赤」が好まれる。現在でもお年玉やご祝儀袋は赤が普通である。中国人留学生が、日本では赤字で手紙を書くことが絶交を意味することを知らずに問題になったこともある。

赤が好きな中国人は、赤を表す言葉（色名）を多く分化させてきた。

具象名詞＋色彩語：《玫瑰紅》、《桃紅》、《胭脂紅》、《牡丹紅》、《櫻桃紅》、《高粱紅》、《西瓜紅》、《珊瑚紅》、《枫叶紅》、《血紅》、《梅紅》、《石榴紅》、《蘋果紅》、《橙紅》、《橘紅》、《猩

⁹⁰ 成田イクコ 『色からの伝言』 かんぼうサービス 2004年10月28日

⁹¹ 大山正・斎藤美穂 『色彩学入門：色と感性の心理』 東京大学出版社 2009年4月28日

⁹² 大山正・斎藤美穂 『色彩学入門：色と感性の心理』 東京大学出版社 2009年4月28日

紅》などである。

明暗・濃淡に関わる形容詞＋色彩語：《朱紅》、《嫣紅》、《殷紅》、《艷紅》、《淡紅》、《淺紅》、《粉紅》など

名詞＋色彩語：(メタファー表現)：《中国紅》、《高原紅》、《夕陽紅》、《東方紅》など

その他(象徴的な表現)：《网红》、《小粉紅》、《紅袖章》、《紅与專》など

大河内(1997)では、「中国語では名詞と色が直接結合するものが少なくない。」⁹³とし「名詞＋色彩語」の例を挙げている。語構成論からみると「林立・亀裂・蛇行；漆黒・雪白」などにおける名詞と同様である。「豪傑わらい、男泣き」が日本語に存在するように、<名詞＋色彩語>のケースは日本でも見られる。先に挙げた関西学院大学のスクールカラー「KGブルー」もの一例である。

中国語でも《雪白》、《霧靄藍》、《碧綠》のように「具象名詞＋色彩語」で名詞をメタファーとして表す用法が存在すると同時に、「名詞＋色彩語」の形式も存在するが、《咖啡色》《琥珀色》など、名詞が直接《色》を修飾する例は日本語ほど多くはない。日本語では、「鼠色・灰色・柿色・茶色」など枚挙に暇がない。

日常生活の中で一般的に用いられる「慣用色名」では言語によって特徴的な傾向を示す。その色名の付け方は、同じような色でも感性的な違いや文化的背景の違いを表出する。たとえばフランスでは食物と関連した色名が多い。…また、日本では藍や紅など、植物から来ている色名が多く、中国では鉱物資源からつけられる色名が多い。たとえば中国の伝統色には《紫水晶》、《土黄》、《銅綠色》、《鉄綠》、《銀藍》など鉱物にちなんだ色名が多く見られる。⁹⁴ (p.78)

英語では、色彩語が文明社会の発達とともに増え、借入語がたくさん出現し、繊細な色彩が表現される。

この時代の特長は、殆ど借入語であり、また、動植物・鉱物・土壌・宝石・顔料・自然環境から転用した固有色名である。これは、一種のメタファーでもある。⁹⁵ (p.15)

英語でも日本語でも植物名に由来する色名が多いといわれる。一方、宝石・鉱物・食品はこれよりやや下回っている。⁹⁶ (p.17)

⁹³ 大河内康憲 「中国語の色彩語」『中国語の諸相』 白帝社 1997年 pp.177-204

⁹⁴ 大山正・斎藤美穂 『色彩学入門：色と感性の心理』 東京大学出版社 2009年4月28日

⁹⁵ 須賀川誠三 『英語色彩語の意味と比喩』 成美堂 1999年10月15日

⁹⁶ 同上

また、より繊細な色を表すため、近代英語では、複合語を造り出して色彩語を増大する。
ここでは、次の6種類に分類して、それぞれの例を示した。

1. 色彩語+色彩語

(a) 第一要素=名詞 brown-red (赤茶色) (1594)、silver-white (1588)、silver-gray (1607)、gray-blue (1888)

(b) 第一要素=形容詞 reddish-blue (1629)

2. 具象名詞+色彩語

《海・空》 sea-green (1598) sky-blue (1738)

《宝石》 emerald green (1646)、turquoise blue (1398)、jet-black (1475)、opal-gray (1875)

3. 固有名詞+色彩語

《地名》 Cambridge blue (1826)、Egyptian blue (1809)、Oriental-red (1902)、Turkey-red (1747)

《人名》 Wedgwood blue (1892) [Wedgwood が創りだした陶器の色から]

4. 色彩語+colored

amber-colored (1594-1595)、gold-colored (1687)、orange-colored (1678)

5. 名詞+color

gold-color (1678)、mouse-color (1606)

6. 副詞+色彩語

off-white (1927)

上例 1~6 のうち、1 の「色彩語+色彩語」と 2 の「具象名詞+色彩語」の型はその例が多数ある。(p.16)

第2節 赤と緑、藍と黄、白と黒などに見られる補色関係

赤と緑、藍と黄、白と黒などは補色関係にあり、それぞれが正反対という意味で密接な関係を持っている。

緑の葉っぱに囲まれた赤い薔薇は、薔薇の赤がひときわ際立って見える。それは緑色のおかげだと言っても過言ではない。それが補色関係であり、「補色残像現象」という。「補色残像現象」とは、ある色を暫く見た後、白い画面に視線を移すと、今まで見ていた色と違った色が見える感じがする。たとえば、赤だと緑の残像色が見える、それを心理補色の関係という。

赤と青緑のような補色の関係にある色を同時に見ることは、お互いに残像色によって色の感度が高まり、鮮やかさを増して感じるのだ。(p.98)⁹⁷

⁹⁷ 成田イクコ 『色からの伝言』 かんぼうサービス 2004年10月28日

とりわけ、「赤」と「緑」の補色は、《紅紅緑緑（カラフルだ）》のみならず、文学でも、例えば「血の赤」を強調するため周りの緑の葉を描写する例は少なくない。魯迅の《薬》も、肺病に効果があると言われる血に浸したマントウを包むのが緑の蓮の葉という場面がある。

前述したように中国では、紅は縁起の良い色、めでたい色である。日本語の「赤」も《紅》と同様めでたいイメージを持っているが、中国ほど顕著ではない。中国語では、《紅喜事》は結婚式のことである。昔から、伝統的な結婚式では、花嫁は例外なく赤の衣裳を着た。最近西洋の影響を受け、白のウェディングドレスを着ることも少なくない。《白喜事》とは葬式のことを言う。中国の葬式は日本と同様、白か黒である。近親者の場合、基本的に白の喪服（白無垢のような形で）を羽織って、頭に白の帽子と足に白い靴で葬式を行う。友人や遠い親戚の場合には、黒い服あるいは黒に近い服を着て出席する。

さらに、日本語の「赤」と中国語の「紅」とは違う点が存在する。《中国紅》は、「赤」に近い色であるが、「真っ赤」ではない。日本の「紅」の色とも異なる。中国語でも、《赤》が存在するが、朱よりやや暗い色彩である。日本語の「紅」は紫味を帯びた鮮やかな赤であり、「朱」はやや黄色味を帯びている。

古代中国の色彩表示は現代の日本とほぼ同じであるが、《紅》は大きく変化した。『論語』の《君子不以紺緇飾，紅紫不以為褻服。》は、「君子は紺色や緇色を以て飾りとせず、紅や紫色を以て普段の衣服の色としない。」という意味であるが、現代語における《中国紅》は「社会主義」のシンボルとなり、国旗の《紅》がユニフォームや日常の衣服に用いることも少なくない。八・一建軍節に学生たちが《紅歌》（『東方紅』と同様祖国愛を謳歌する歌）を歌うことも珍しくない。《紅》は革命や愛国主義を象徴する色となっている。かつては《紅》が《専（プロフェッショナル）》と対置され、社会主義的思想のことを指した。日本語の「アカ」とはかなりニュアンスが異なる。

大河内（1997）でも指摘されているように、《紅》は人気のあることを表し、《紫》はさらに人気があることを示す。中国語の成語《紅得發紫（赤くて紫がかかるほど）》は、かつての官僚の服の色分けから由来したものである。官位の高低が、緑色⇒赤色⇒紫色という順で、最高位の官職者が紫色を身に着けるということであった。

偶然の一致であろうか、日本では、河川の危険水位を〔青（緑：安全）⇒黄色⇒赤⇒紫（赤紫）〕で示す。ただし、紫と赤の間にピンクが入る。つまり〔青（緑：安全）⇒黄色⇒赤⇒ピンク⇒紫（赤紫）〕の順になる。

ピンクは、日本語でやさしいイメージがあるためこの順序に違和感を覚える日本人もいる。一方「ピンク（桃色）」にはいかがわしい意味合いも存在する。中国語でも、《桃色新聞》のように《桃色》がいかがわしい感を読み手に与える。しかし、ピンクを《粉紅》と訳すと、《桃色》と違って、いかがわしい意味はない。また、《紅》が政治的なシンボルであることの影響で、《粉紅》が「薄い赤」を指し、文学サイトの晋江文学城の《小粉紅》という言い方を元に、「未熟な共産主義者」という意味を帯びるようになった。

大河内（1997）は、「《紅》はしばしば並べられる色は《緑》である。《紅紅緑緑》、《大紅大緑》などを色とりどり、あざやかに色どられていることを写す表現である。」と指摘している。「赤」と「緑」は補色関係にあるが、現実生活においても文学の修辞においても様々に用いられている。文学では杜甫の「絶句」《山青花欲燃》「山は新緑で花は燃えさからんばかりに赤く見える」、あるいは魯迅の『薬』では血に浸した赤い饅頭を包む蓮の葉の緑をことさら描写するなど、赤を引き立てるために緑を導入する、あるいはその逆が、手法として確立しているように思われる。中国の古詩の中にも補色関係の色彩語を含むものが少なくない。例えば白居易の《野火烧不尽，春风吹又生。（野火が焼いても根絶やしにはできず、春風が吹くとまた萌え出でる）》も《野火》の火の赤と草の緑が一对の関係である。同じく古典詩の《柳明花明》は、柳のトンネルを抜け桃の花が咲き誇るさまをみごとに描き出している。そもそも、《緑》の代表として《柳》が、《紅》の代表として《花（すなわち桃の花）》が持ちだされる一因として、一海知義（1981）は、《緑》と《柳》が同じ頭子音〔l〕で、《紅》と《花》〔h〕で始まる双声語であることを指摘している。余談になるが、一海は中国を代表する河川《黄河》と《長江》の内、《黄河 huanghe》は双声語であるのに対して《長江 changjiang》は音節後半部をそろえた畳韻語であることを指摘している。

中国の詞の中で、紅が減り、緑が増えることで女性の容色が衰えることを象徴するものがある。李清照の『如梦令』で《知否知否？应是緑肥紅瘦。（分かっているの？ 雨で花が散ってしまって、葉ばかりになっているはずよ。）》という詞があり、《緑肥紅瘦》が表しているのは花が散って、緑の植物が良く茂っているという様、つまり《女性の容色が衰えやすい》を暗示しているとされる。

日本語では、一海知義（1981）は、「紅一点」という日本語で通用している成語は本来「万緑叢中紅一点」（青葉の中に一輪の赤い花が咲いている）であったことを指摘している。

日本語では、「赤」と「緑」が中国語ほど強く対をなすものではない。中国語では、「万緑叢中紅一点」のみならず、《万花叢中一点緑》という逆の表現もあり、多くの女性の中にただ一人の男性がいるという意である。

日本の小学校では一昔前、カスタネットの青が男子用で、赤は女子用であった。しかし、先に述べたトイレのピクトグラム同様ジェンダーの問題があり、用意する時、男女の数と赤と青のカスタネットを調整しなければならないし、一つの家で姉のおさがりを弟が使用できないなどの問題があり、現在では、赤と青を組み合わせた男女共用のカスタネットが使用されているという。

中国語における《紅》と《緑》はかなり複雑な様相を呈している。《緑》の《綠色食品》が+評価の言葉であると同時に、《緑帽子》（浮気された、不倫された）のような-評価の語も存在する。英語でも green は-評価の語である。日本語の緑が安全・自然を表すものであることを考えるとその差は小さくない。現在でも、香港においては、いわゆる大陸派が赤を反大陸派が緑をシンボルカラーにしている。また、呉（2018）⁹⁸によれば、「台湾では与党の

⁹⁸ 呉幸芬 「日中両言語における『濃・淡』表現の用法について」 台湾日本語言文藝研

民進党は緑で、野党の国民党を藍という色彩で色分けされていて、《藍緑政治》と呼ばれている。特に国会対策に積極的で、その経歴が長い党員は、《深藍》や《深緑》と言われている。」ということも指摘されている。

株式市場では、値上がり銘柄や価格を赤で、値下がりやを緑で表示するのは、日中同じであるが、郵便局のカラーは日本が赤、中国が緑である。

世界各地の郵便のマークを眺めると、イギリスは赤で、救急車と同様、「緊急・喫緊」を表す。ドイツ、フランス、スイス、スペインなどは黄色のマークが用いられ、東欧では浅いブルーが用いられる。日本の郵便ポストは最初黒で、明治維新以降イギリスにならない赤に変更された。中国は1949年建国以来、緑と定められている。緑は平和、青春、繁栄を象徴する色彩である。

赤と青の色覚異常者は、補色関係にある赤と青の区別が困難なことが多く、今後看板などの色使いでは配慮が必要であろう。多様な色覚を持つ人々が遠くから容易に「禁止」、「安全」などの指示標識が一目瞭然となるよう、かつ国際基準との整合性を保ちつつ、色の組み合わせに対する認識調査によりユニバーサルデザインカラーを選定し、図記号の安全色の改正が行われている。⁹⁹

日本人にとって「青のイメージは多元的である」と指摘される。

たとえば、青＝若いという形容詞ひとつとっても、「青年」や「青春」には未来ある人、事物に対する肯定的なニュアンスがあり、「青二才」や「青臭い」には完成されていない未熟さへの否定的なニュアンスが感じられる。さらに、「青々とした木々」や「青虫」や「青信号」のように本来の色が緑色でも青で形容する場合も多いし、「青ざめた顔色」のように血の気がない様子を指すこともある。¹⁰⁰ (p.248)

日本語の「青」に対して「緑」と「藍」が錯綜した現象を呈している。英語の **blue in the face** 「(激しい怒りで) 顔が青くなる」を表し日本語の「真っ赤になって怒る」や「顔を青くする」の相当することがある。中国語では、《气得脸色铁青(緑)》と《緑》が用いられる。一方、**blue with cold** も「非常に寒くて皮膚が青くなる」の意で、中国語では、《冻得脸色发青(緑)》。この場合日本語では「青」であるが、中国語では《青》と《緑》の両者が用いられる。

究学会第十八回定例学会 2018年12月15日

⁹⁹ 安全色および安全標識に関する JIS 改正

URL : <http://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180420006/20180420006.html> (最終閲覧日 : 2018年10月20日)

¹⁰⁰ ミシェル・パストゥロー 『青の歴史』松村恵理・松村剛(訳) 筑摩書房 2005年

一方で、「青」の下位区分である「藍」のイメージは「緑」と違って、幸運且つ好ましい色という場合が多い。大山・斎藤（2009）では、「青は多くの国に共通する嗜好色と位置付けることができる。」と指摘される。また、自由選択場面では概して「色では青」「数では七」が好まれる“Blue Seven Phenomenon”（青七現象）が存在していると指摘される。¹⁰¹（p.68）

アジアにはラピスラズリの鉱床が豊富である（イラン・アフガニスタン・チベット・中国）。深い青色をし、わずかに白か金の筋が入ったこの堅石を彫って作った品物はアジアには比較的多く、幸運を招くとされる。¹⁰²（p.21）

中世の象徴体系はすでに青を平和的な色にしていたし、現代の象徴体系も青を中立的な色にしている。…とくに国際連合がそうで、その兵士たち——「青い兜」——は交戦中の当事者間に介入することを使命としているし、その旗——スカイブルーの地に2本のオリーブの枝に囲まれた地球——は世界に平和のメッセージを届けようとしている。¹⁰³（p.202）

また、「青」は寒色、「赤」は暖色と言われる。上にみてきた赤と青の比喩的用法を考慮すると、赤＝明るい暖色、青は平和・安全なイメージで寒色ということになるが、「青春」「青年」など若さを表す場合、暖色が本来もっている特性も併せ持っているように思われる。

中世とルネサンスのヨーロッパでは青は暖色と見なされ、ときにはあらゆる色のうち最も暖かい色とされる場合すらあった。徐々に「冷たく」なってゆくのは十七世紀以降のことで、本当に寒色の地位を得るのは十九世紀になってからにすぎない。（ゲーテにとってはまだ部分的には暖色である）。¹⁰⁴（p.203）

こういう歴史的な事情が「青」に反映しているのか否か今後の課題としたい。

第3節 色彩語と年齢

日本では高齢者をシルバーで表すことがある。これは1980年代に国鉄（現在のJR）が、

¹⁰¹ 大山正・斎藤美穂 『色彩学入門：色と感性の心理』 東京大学出版社 2009年4月28日

¹⁰² ミシェル・パストゥロー 『青の歴史』 松村恵理・松村剛（訳） 筑摩書房 2005年9月25日

¹⁰³ ミシェル・パストゥロー 『青の歴史』 松村恵理・松村剛（訳） 筑摩書房 2005年9月25日

¹⁰⁴ ミシェル・パストゥロー 『青の歴史』 松村恵理・松村剛（訳） 筑摩書房 2005年9月25日

優先座席をシルバー色にし、シルバー・シートとしたことにはじまる。「シルバー・シート」としたのは、優先座席を作ろうとしたとき、座席に貼る布地でたまたまシルバー色の布が残っていたからだ。それ以降、シルバー世代、シルバー人材センターなどその用法を拡大している。また、紳士の白髪を「ロマンスグレー」ということがあった。年寄りの白髪がシルバーを連想させることも、高齢者＝グレー（シルバー）というアイコニシティがあって下地を作っていたと思われる。一方、中国では、老人ホーム・介護施設に《夕陽紅》と命名されることも多く見られる。沈む夕陽のようにお年寄りが余命いくばくもないが、《紅》は生き生きとした活力が湧いてくる様子を象徴している。また、CCTV（中国中央テレビ）の番組で《夕陽紅》といった長期番組があり、老後生活や年配者に関する題材で生き生きとした姿を映される。

また、高齢者に対しては、色の見え方が変わるので、若者との年代差が出てくる。ピクトグラムや看板などにもこの点を考慮する必要がある。車を運転する人だと誰でも緑色と黄色の取り合わせによる若葉マークが初心者を表すことは周知の通りである。それに対して、高齢者の免許標識は「もみじマーク」と言われる柿色と黄色の取り合わせであったが、「枯れ葉マーク」という俗称で呼ばれ、不評を買い四つ葉のクローバーにシニアの白い S という文字を組み合わせた「四つ葉マーク」に変更された。高齢者向けの免許標識のマークの改正には提案者の工夫が見られる。また、「可能な限り若く見られたい」という日本人の心理を表す事例として興味深い。

また、中国語では、黄色で女性の容色が衰えたことを象徴する言葉がある。《人老珠黄》《人比黄花瘦》など。一方、日本語では、「嘴が黄色い」とか「青二才」などで幼いことを表す言葉もある。英語では、green を元気や活力のある様子を表すが、in a green age のように元気な高齢期を表すこともある。中国語も日本語も「黄口児」（《黄口小儿》）のように、「黄口」という言葉で年が若く経験の足りないものを象徴できる。また、大河内（1997）では、「《黄色》は現代語では墮落やエロを意味する」と指摘されているが、日本語のピンクや英語の blue がそれに相当することがあるなど、色彩には様々な文化的・歴史的意味がつきまとい、様々な問題をなお内在している。

「女性は赤・男性は青」あるいは「白組は男性、紅組は女性」といったステレオタイプの視点を乗り越え、様々な価値観にたった議論が望まれる。

第2章 読み手の視点からみる日本語と中国語のずれの原因

第1節 視点の問題

言語化に伴う客観的現実の主観化には様々な心的要因が関与すると考えられる。話し手が客観的現実を捉える際の認知的な「視点 (perspective)」という現象もそれらのうちの習慣的な要因の一つとする。¹⁰⁵

¹⁰⁵ 「こと・こころ・ことば——現実をことばにする（視点）」木村 英樹

(1) 安全線の問題

「まもなく〇〇線に電車がまいります。危ないですから、黄色線（黄色い点字ブロック）の内側にお下がりください。」



図1 黄色い安全線

このアナウンスを聞くと、「黄色線の内側」という表現を逆の意味に理解することがしばしばある。

筆者の感覚では、「黄色線の内側」は「黄色線と電車との間の細狭い範囲だ」であって、反射的に「黄色線の内側」に入ってしまう。

実際は、黄色線と電車との間のスペースではなく、黄色線を境界線とすると、電車とは反対側の方が「黄色線の内側」である。

中国の場合、「安全線」の内側、外側、どちらもあり得るが、内側の場合は、電車を参照点とし、話し手は、自分自身が「自分の視点から出発し、電車に対し、私に近い方が内側」という意味になるだろう。要するに、話し手を基準とする「当事者現場立脚型の視点¹⁰⁶」から見るということだ。一方、「外側」というと、駅全体を箱のようなものとし、電車が一番中の「走る箱」と見なす立場と言える。自分自身が駅の様子を俯瞰する立場に立つと、自分と電車の関係がすぐ捉えられるし、自分の方が外だという感想が生じるだろう。このような視点の取り方は「傍観者俯瞰型の視点¹⁰⁷」と呼ばれている。

このように視点の置き方が、標識の理解を正反対にする可能性も、今後多くの言語を考慮に入れる中で検討していくべきであろう。

(2) 「北京はあなたを歓迎します」の問題 — 「人間中心の視点」の問題

¹⁰⁶ 同上

¹⁰⁷ 同上



図2 《北京欢迎你》という標語

「北京」を主語として、人間を動作の対象とするのは、中国語では自然なことである。日本人の語感からすると、このような表現は非文法的ではないが不自然である。なぜなら、日本語では、人間と人間以外が文に現れる場合、人間を主語にするのが一般的であるからである。ここでは、「北京」という人間でないものが主語に立ち、人間が動作の対象になっているからである。

《北京欢迎你》を日本語に訳すと、「北京はあなたを歓迎する」となる。日本語ではヒトとモノが使われている場合、ヒトが主語に立つという原則が表現の問題として存在している。例えば「隣の客のイヤフォンから漏れてくる音が私をイライラさせた」は文法的には問はないが、日本語としては自然さに欠ける。「何が彼女をそうさせたか」という映画があったが、これも映画タイトルとしての新奇さを狙った欧米語風の日本語と言わざるを得ない。その意味で「北京」という無生物を主語として用いるのは日本語として不自然で、「北京であなたを歓迎する」、さらには「ようこそ北京へ」がより適切だと考える。

日本語は主語が表現されないことが多く、その場合、主語を補って考えてよい例もあり、おぎなうとかえって不自然になることもある。¹⁰⁸

一方、英語にはいわゆる「無生物主語表現」が多数存在する。¹⁰⁹ 例えば、“This powerful earthquake killed too many people.”は、“earthquake”を主語として、そのまま日本語に訳すと、「地震はたくさんの人を殺した」となり、日本語としての自然さに欠けることになる。この英語の例文は、動詞“kill”の仕手が無生物“earthquake”である。特に“kill”のような他動性の高い動詞は、意志性が明確でなければならず、日本語としては自動詞「死ぬ」を用いた「地震でたくさんの人が死んだ。」の方がはるかに日本語的であると言えるだろう。この点では中国語においても、[他動詞《殺》+結果補語《死》]を用いた《地震殺死了很多人》は不自然であるが、中国語と日本語を比較すると、中国語には人間以外を主語に用いることは

¹⁰⁸ 国廣哲弥 「人間中心と状況中心—日英語表現構造の比較—」 国廣哲弥 The Rising Generation, February 1, 1974

¹⁰⁹ 同上

少なくない。まさに《北京欢迎您》がその例である。言語類型論的に中国語が日本語と英語の中間に位置する事例の一つである。

“This powerful earthquake killed too many people.”を中国語訳する場合、日本語とは異なり、《地震導致了很多人的死亡。》となる可能性が高い。人間以外が主語に立っている点では英語に近いが、《殺死》という他動性の高い動詞的表現を用いることが困難であるという点で日本語と英語の中間的な性格を示している。

日本語は、場面の中の話し手・聞き手よりも状況を表現の中心におこうとする傾向をもっていると言える。¹¹⁰ 「ようこそ北京へ」は動作主である人間を主語として想定することもできるが、「(あなたが) 北京に来た」という状況を歓迎していると考えられるべきであろう。日本語では、動作の行い手を個として切り取るよりも、広い場면을視野に入れ、話し手と聞き手の関係を認識していると言える。

日本語のキャッチコピーに「人間中心」を破った例が少なくない。いずれも破格を狙ったものと言えよう。例えば、下の図のように、「その舟は、梅田の街にワクワクを運んだ。」

次は、大阪地下鉄で乗客同士の声かけなどの助け合いを呼びかけるため掲示されたポスター化粧品のキャッチコピーである。

「あなたのあたたかい一言が駅や車内を明るくします。」

「キレイが恋を大胆にする。」

「一言」や「キレイ」は人間そのものではないが、人間から発せられたもの、人間の属性である。このような例についても〔主語は人間〕という日本語の傾向との関連、Normからの逸脱の両面から今後さらに考察を深めたい。

¹¹⁰ 国廣哲弥 「人間中心と状況中心—日英語表現構造の比較—」 The Rising Generation, February 1, 1974



図3 「その舟は、梅田の街にワクワクを運んだ。」という標語

(3) 主語の途中切り替え

次に扱う問題は、日中両国語における視点の違いのみでとらえきれるものではないが、「主語」との関係で触れておきたい。

荒川清秀 (2009) は、《北京××自動車公司為答謝新購車客戶，開展“買車送報紙”活動。(北京某自動車会社は自動車を今回購入いただいた方に感謝して、「車を買ったら新聞講読プレゼント」キャンペーンを展開する)》を例に挙げ、途中で主語の替わる表現を問題にしている。《買一送一》は多くの中国人にとってなじみのある表現である。

日本語では主語 (正確には「主題」) の入れ替えを嫌う傾向がある。「女性は他人の年齢を聞いたがらないし、他人が自分の年齢を聞くのも嫌がる (女人不願問他人年齡，也討厭自己被問。)」のように主語を入れ替えるくらいなら「女性は他人の年齢を聞いたがらないし、聞かれるのも嫌がる」のように動詞の態 (ヴォイス) を変える。日本語、中国語ともに〔主題+解説〕型言語であるが、日本語のほうがより一層その傾向が強く、複文や段落内での主題の変更を嫌う傾向が強い。

① 《漢字不滅，中国必亡。》(漢字は不滅でなければ、中国は必ず滅びる。)¹¹¹

② 《男人不壞，女人不愛。》(男は悪くなければ、女は愛さない。)

日本人中国語学習者は並列にとって「漢字は不滅だ、中国は必ず滅びる」、「男は悪くない、女は愛さない」と読んでしまう。前項が従属節であることがなかなか理解できない。これは

¹¹¹ 中川正之教授が授業で挙げておられた例による。

視点の問題というより、シンタクスの大きな問題として研究されなければならない。次の例も同様である。

③ 《非誠勿擾》（誠意がなければお断わり）

例文③は、「誠意を持つ」主体と「憂いを持つ」主体は別であり、「あなたに誠意がなければ、私は憂えることはない」という意味である。主語変更と並列文解釈の問題が併存している。

④ 《等车不难，换乘不烦，淡定坐公交用‘139 出行’。》

例文④は、①～③と違って、「バスを待つのが難しくなければ、乗換は面倒くさくない。」の意ではなく、単なる並列であり、「バスを待つのが難しくなく、乗換も面倒くさくなく、気軽にバスを乗るなら『139 でお出かけ』アプリを使用しなさい」という意味である。このような単なる並列と条件文の混在が中国語学習をより困難なものにしている。

第2節 方向観念の相違

第1項 方向性：起点志向と着点志向

中川（2005）は、日本語が着点志向であり、中国語が起点志向であることを指摘している。次の例がそうである。

日本語：「午後3時に会場に行きます。」

中国語訳：《下午3点出发去会场。》

「午後3時に会場に行きます」とは会場に到着するのが午後三時で、その逐語訳の中国語では会場に向けてどこかを出発するのが午後三時だということである。

これはあくまで傾向の問題であり、中川（2005）によれば《出国、出獄》が起点であるのに対して《出席、出廷》が着点であることを指摘した上で、沈国威氏の示唆によるとして後者《出席、出廷》など着点を表すものは日本製漢語であるとする。

日本語においても「フランス帰り、務所帰り」は「フランスから帰った、刑務所から帰った」と起点であるが、「里帰り、赤ちゃん帰り」は「故郷に帰る、赤ちゃんのような状態に帰る」と着点志向である。

《取之于民，用之于民。》 訳：「人民から取ってきたものは、人民のために使う。」

先の《于》は「～から」という起点であるが、後ろの《于》は、「～に」という着点目的を

表す。

以下同様である。

起点：《千里之行，始于足下。》（千里の道も一歩から始まる。）

着点：《于事无补》（事には何の役にも立たない）

着点：《己所不欲，勿施于人。》（己の欲せざるところ、人に施すこと勿れ。）

この言語類型論的な視点の両国語における違いが、様々な看板においても誤解の原因となっていることは疑いの余地がない。前述した「ペンキ塗り立て」と中国語の《油漆未乾》から、「塗り立て」という着点と「乾いていない」という起点の両立から日本語と中国語の方向に対する概念の相違が明白に示されている。

このような起点と着点をはじめとする、位置・方向の認知的ずれが引き起こしうる問題について考えてみたい。

第2項 非常口のピクトグラム

非常口を表すピクトグラムは、非常口に向かって走っている人を表したものであるが、描かれた人がどちらを向いているかが問題になる。中川（2005）で繰り返し述べられているように、日中で正反対の例が非常に多い。日本では図5のように「左向き」が一般的で、中国では「右向き」が一般的である。

中国建国後公布された『中華人民共和国道路交通安全法』には、「右通行」という概念を法律で規定している。『道路交通安全法』の第三十五条には、《機動車、非機動車実行右側通行。（中国では、車両は右通行が行っている。）》と記載されている。

安全出口



図4 中国の非常口のピクトグラム

非常口



図5 日本の非常口のピクトグラム

非常口のマークの由来を考察すると、デザインした人は多摩美術大学の太田幸夫教授で、「左へ走ってドアに入っている人の様子」という絵である。その意味としては「このドアか

ら逃げてください」ということだ。1987年に国際通用になり、世界中の多くの国で使用された。(中国、中国香港、中国台湾にも用いている)

中国の非常口のピクトグラムは、ドアの上部に設置するのではなく、通路に設置し、矢印で非常口の方向を示している。上の写真では、矢印の方向と一致し、「右へ走っている人」が描かれている。

非常口を示すピクトグラムとしては「左へ走っている人」が国際基準となっている。

横顔をどちらに向けて描くのかデフォルトであるのか、左右のどちらかに偏るとすれば、そこに言語や文化が介在するの否か興味深い問題ではあるが解決の糸口さえ見つからない状況である。一例として紙幣に描かれる人物がどちらを向いているのかを見てみよう。

日中の現在流通している紙幣の人物の向きはいずれも左向きである。しかし、中国の第四代人民元の《一角》、《二角》、《五角》は右向きの人物が描かれていた。



図6 中国の紙幣 (第5代)



図7 日本の紙幣



図8 中国の紙幣（第4代）

中国では、もともと《右》が古代から「尊重すべき重要な位置」であった。更迭されることを表す《左遷》に対して栄転することを《右遷》と言うが、《右遷》は日本語では定着していない。

内田慶市（2010）¹¹²は、「ロードス島のモアイ像」について、「右手執燈」と「左手執燈」の違いがあることを指摘し、併せて、中国人の《左右》の方向観念について論じている。要約すると、

古代の中国人は、「見られる側（描かれる側）」を基準にして、図像を見るとき、自分と図像を重ね合わせる。《左青龍、右白虎》、《坐北朝南》などがその例である。近代になってから、中国人にも「見る側（描く側）」を基準にして《左右》を言い分けることが見られるようになった。同じ民族でも、時代により差があるという見方である。

これは《左右》を、見られる物に即して言う、つまり即物型か、見る側を基準にして言う対面型かということになる。日本語でもオーディオ機器のスピーカーの左右は即物型であるが、多くの場合、向かって右のように対面型をとる。中国語に関して、あるいは日中両国語の違いについて様々な議論があるが、ここでは深入りしない。

この節で問題にしたいのは、「左右」のように相対的な表現である。境遇性的一种である。それに対して「東西南北」は絶対的表現である。同様に「去年・来年」は相対的表現であり、

¹¹² 内田慶市 『文化交渉学と言語接触—中国言語学における周縁からのアプローチ—』 関西大学出版社 2010

「2018年、2020年」などは絶対的表現である。日本語が「去年、来年、子供が7歳の時、東京ドームの3倍」のような相対的表現を好むことはよく知られている。道順を言う場合、日本語では「まっすぐ行って、薬屋の角を右にまがって」のように表現することがよくあるが、中国では「東にまがって」のように絶対的表現をとることが多いようであるが、これにも地域差がある¹¹³。

井上京子(1998)¹¹⁴は、「東西南北」も「左右」もなく「上手：下手」を用いる言語を紹介している。



「左右」に話を戻すと、上記のような縦書きの文章に傍線をほどこすとき、中国語では文字の左側、日本語では右側である。

言語事実としていくつかの問題点を指摘することはできるが、その原因が一つなのか多数なのか、あるいはどこにあるのかも現段階では分からないことが多く、今後の課題としたい。

Chomsky (Syntactic Structure 1957年) が言語の普遍的側面を強調し、言語普遍性の追究こそが言語学の目的であるとして以来、言語の普遍性と個別性の問題は大きな関心事である。本稿でしばしば言及しているパラメータも言語の普遍的な側面を前提とし、個別性を各種パラメータの充足度で説明しようとするものである。

本稿では、野村(1984, p13)の次のような立場にたつ。

どの言語にとってみても、言語一般に共通する特徴を備えていることは言うまでもない。そして、他の言語と異なる特性を有することも事実である。つまり、言語には普遍と特殊の両面がある。¹¹⁵

¹¹³ 中川正之 『漢語からみえる世界と世間』 岩波書店 2005年

¹¹⁴ 井上京子 『もし「右」や「左」がなかったら』 大修館 1998年

¹¹⁵ 野村雅昭 『日本語の働き』 筑摩書房 1984年2月

第3節 表現の長さと対句志向

会話の際守らなければならないことを原理として整理したグライス¹¹⁶の会話協調の原理¹¹⁷の中に「簡潔たれ。順序立てよ。」がある。これに対して中川（2011）¹¹⁸は次のような逸話を紹介している。

元学生で中国語の教師をしている大野英樹君（仮名）が、まだ独身であることを知ったある女性が、飲み会で私に大野君の血液型を聞いてほしいと言ってきた。そこで「君の血液型は何？」とメールを送った。即座に「O型でございます。献血と結婚はご容赦ください」と返事が来た。大野君の心情を察すると、「血液型を聞いて来た→結婚話かも知れない→断りたい→結婚はご容赦ください」では余につっけんどんである→「献血」と並べて焦点をぼかそう」ということになったかと想定できる。

日本語では長くなるという犠牲をおかしても摩擦を軽減しようとする傾向が見られる。以下は、阪急電鉄が乗客のマナー向上のため取り組んだマナー啓発活動で、動画やポスターなどで、乗客のマナー意識を呼びかけたものである。¹¹⁹

①「思いをぶつけても 荷物はぶつけない。」

日本語の説明表記：リュックサックなどのお荷物は、他のお客様のご迷惑にならないよう取り扱いにご配慮ください。

英語表記：Please pay attention to the handling of baggage so as not to inconvenience other passengers.

¹¹⁶ ポール・グライス（Herbert Paul Grice 1913~1988）はイギリス出身の哲学者、言語学者。

¹¹⁷ 清塚邦彦訳 『論理と会話』 勁草書房 1998年

¹¹⁸ 「日中対照言語学における認知言語学的アプローチの回顧と現状」『中国語学』258号 p4-p23 日本中国語学会 2011年

¹¹⁹ 「マナー啓発活動」 阪急電鉄

URL: <http://www.hankyu.co.jp/approach/manner/> （最終閲覧日：2018年1月8日）



図 9 例①



図 10 例②

② 「チームワークは固めても ドア付近では固まらない。」

日本語の説明表記：ドア付近にご乗車の際は固まらず、他のお客様のスムーズな乗り降りにご配慮ください。

英語表記：Please do not stand directly in front of the door to allow other passengers to pass through.

- ③ 「知識は広げても 座席では広がらない。」
- ④ 「味にうるさくても 車内ではうるさくしない。」
- ⑤ 「結果は残しても 車内にゴミは残さない。」
- ⑥ 「スマートに歩いても スマートフォンしながら歩かない。」
- ⑦ 「心は乱れても 列は乱さない。」
- ⑧ 「目当ての服は譲らなくても 優先座席はすすんで譲る。」
- ⑨ 「個性は伸ばしても 座席で足は伸ばさない。」
- ⑩ 「ライトは当てても 荷物は当てない。」
- ⑪ 「人気は独り占めしても 座席は独り占めしない。」
- ⑫ 「相談は真っ先に乗っても 降りる人より先に乗らない。」
- ⑬ 「鼻はふさいでも 扉付近はふさがない。」

以上の例①から例⑬までは 2015 年度以降のポスターである。それらは「…V ても…V (ない)」という形が用いられる (例④のみは例外だ)。この場合は、前後の動詞は「同一の形で、意味も同一」、「自他動詞の対で用いられる」、「形が同じで、意味が微妙に違う」という三種類が分けられる。例④では、「うるさい」という形容詞の繰り返しである。上記の例は、前節の行為を肯定しながら、後節の行為を否定する意味を強化する (例⑩は例外である)。「自

他動詞の対で用いられる」という点も自動詞の使用が主観性を取り除き、客観的に表す典型例である。「扉が閉まります。」、「燃えるゴミ」（「燃やすゴミ」もある）のような例も同様である。

なぜこのように簡潔さを犠牲にして対句もどきの表現を並べるのかは明白である。日本語では婉曲表現が多くの場合、敬語の一種と考えられるということである。そしてこの種の表現が年々増加していることは多くの研究者の指摘するところである。上記の例も2014年は次のように簡潔なものであった。

⑭「譲ろう。」

⑮「気をつけよう 歩きスマホはやめましょう 手すりをお持ちください。」

⑯「気をくばろう。」

ところが、2013年度マナーポスターをみると、

⑰「座るスペースは最小に、思いやりは最大に。」

⑱「あなたがちょっと待つだけで、みんなの一步がスムーズに。」

⑲「“少しくらい”より“少しの気配り”を。」

のように対句的なものが出て来る。簡潔さと婉曲の間を揺れ動いている日本語の様が見て取れる。

日本語は敬語表現を典型とする待遇表現が発達した言語である。聞き手が目上であるのか目下であるのか、男性であるのか女性であるのか、さらには話し手も自分の発話がどのように受け取られるのか非常に敏感であり、話し手の帰属する位相に適合したものが求められる。

その対極にあるのが「立入禁止」のような漢語表記、あるいは「空き室あり」のような古い言い方で、言わば、待遇表現を含まない素材のみを提示する看板。広告の言葉であった。それは英語の *staff only* のように簡潔を旨としていた。しかし、それが「関係者以外の立ち入り禁止」となり、助詞「は」を加えたたん「関係者以外の立ち入りは禁止です」のような丁寧な表現が必要になる。最近では「まことに恐れ入りますが、関係者以外の立ち入りは禁止となっています」のように「する」が「なる」になるなど、話しての意図・意思が鮮明にでる他動詞「する」を自動詞「なる」に変えるなど、語調を和らげる工夫をしている。

本節であつかった対句的表現も、そのような婉曲表現の手法の一つだと考えられる。

第4節 ピクトグラムに潜む問題——ステレオタイプとの関連で——

海外のピクトグラムの使用に関して、本田ら（2017）¹²⁰は、移民の導入が進んだEU諸国

¹²⁰ 本田弘之・岩田一成・倉林秀男 『街の公共サインを点検する』 大修館書店 2017

でピクトグラムの使用が多いことを指摘しているが、ピクトグラムの策定の際に、多数派を念頭に置くことが多く、マイノリティーの感情をそこなうことがあることを意識しなければならない。

トイレの男女別の標識の女性はスカート姿で赤、男性はズボン姿で青とされるのも、安易にステレオタイプに頼りすぎるとの批判がある。

そこで、特定の人物（年齢・性別・職業・階層・時代・容姿・風貌・性格など）に対して制定されるピクトグラムが必要であろうという声も聞こえる。

「高齢者のマーク」、「子供のマーク」、「ヘルプマーク」のようなピクトグラムのみならず、「性別を問わずに使えるトイレマーク」も制定された。

香川県でも LGBTQ（「L=レズビアン」「G=ゲイ」「B=バイセクシュアル」「T=トランスジェンダー」「Q=クィア」）に関する活動をしている NPO「PROUD(プラウド)」によるとより「どんな性別でも使えるトイレマーク」の投票を実施したことがある。¹²¹

さらには、多言語サインの言語の順番にはトラブルが起こされやすいという問題について触れておきたい。

日本でよく見られるのは「二言語表記＝日英」と“標準モデル”「四言語表記＝日英中韓」二つのパターンである。しかし、どのような言語を選択するか、どのような順番で提示するか、これが様々なメッセージを暗に伝える。

例えば、「日＋中」という二言語表示のみになると、プラスイメージの看板はもちろん良いが、勧告看板や禁止看板などの看板だとしたら誤解を招く可能性がある。対象がすでに特定されていたという誤解が生じてしまう可能性もある。本田ら（2017）では、訳に他のサインとは明らかに異なる言語を追加すると、その言葉を話す人を想定犯罪者扱いしていることが伝わってしまう。

これは看板やピクトグラムに限らず、コミュニケーションにおける「過剰読み取り」の問題に関連する。私用のテレビ電話がそれほど用いられないのは、顔が相手に見られることで知られたくない情報が伝わってしまうのではないかと恐れるからであろう。情報を過不足なく伝える・受けることは、情報化社会にあってもなお大きな問題である。

年

¹²¹ 「『どんな性別でも使えるトイレマーク』を決めよう！」

URL:<http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1511/18/news126.html>（最終閲覧日：2018年5月18日）

結論

本論文では、3部を分けて、看板・標識およびピクトグラムなどの「言語景観」が、作り手の意図とは違った解釈を引き起こす原因について様々な角度から検討し、言語表現について言語類型論的な指標（パラメータ）の幾つかを援用し、それぞれの言語の類型論的な特徴づけを試みた。

まずは、問題の所在という序論の部分である。

第1章では、多言語主義社会の中で増えていく多言語による看板表記あるいはタイトルや見出しなどについて、その特徴と相違点、両者の背後に隠れている様々な問題を概観した。具体的な言語景観の事例を提示しながら、日本語、中国語および英語の例を比較し、標識や看板などの言語景観の特徴を挙げた。すなわち、表現のコンパクトさ、端的に文化の特徴を表現する、言語の多様性、景観と依存する点などと特徴づけた。

第2章では、言語景観に関する先行研究を紹介し、検討を加えた。先行研究の多くは、歴史的なアプローチによる研究や地理学的研究に集中している。言語景観に用いられる各言語の出現率や文字表記に関する研究、地域性のある言語景観の研究に限られており、言語類型論観点からの研究は多くない。

章の前半では、看板表記と同様、文脈が存在せず、短いものが多いタイトルについて概説した。章の後半では、先行研究に基づき、「文献」文字と「景観」文字の異同を説明し、経済言語学の観点から多言語表示に見られることばの市場価値について論じた。また、言語景観に関する条例で、各国において看板に対して厳しく制限しようとする動きがあることを指摘した。

第3章では研究目的を述べ、看板表記やタイトルなどの簡単な語句であっても各言語の差異が反映することがあることをふまえて、本論文では、可能な限りピクトグラムや言語景観に現れる表現などを取り上げて、言語類型論的、認知言語学的、日中言語対照的観点から検討を加えた。

引き続き第1部は、看板・標識という文字言語による例に注目し、「言語景観」の言語表現から日中の相違を指摘した。

第1章では看板の内容と機能から看板や標識などに現れる言語表現を指示標識、勧告標識、命令（禁止）標識と三分した。また、各分類から日本語と中国語の表現上の相違を具体的に論述した。

第2章では、修辞と数量詞の使用という2節に分けた。第1節では、言語景観で取り扱ったテクニク修辞の表現方法を論じた。勧告標識や命令標識などで用いられる修辞にはインパクト感を強め、印象を与えられる効果がある。第2節では、数量詞の使用を着目点として、日本語でも中国語でも具体的な数字を利用し看板・標識の真実味を醸し出せることを指

摘した。

第3章では、看板標識にみる《有》と《在》の問題を中心に、日中対照を簡単に論述した。第1節では、中国語の注意書きに現れる《有》の使用から日本語の「空き室有り」の古い漢語の形が看板に残される点を指摘した。第2節では、日本語の行先表示板の「有」と「在」と中国語の日中対照から日本語と中国語の《有》と《在》の相違を説明した。

第4章では、看板や標識などにみる方言の使用に関して、論述を試みた。方言を用い、ある地域と国の特徴を表現する独特な効果があり、「言語景観」とある地域や国の文化と依存している点が反映されている点を指摘した。

第5章では、前章の方言に基づき、大阪弁の「好きやねん」という標語を例に文末表現に着目して、看板やタイトルなどに現れる文末助詞について考察した。第1節では、看板表記において普通話の漢字で方言を表記する例を挙げ、地域の景観と調和するべく、看板や標識もその地域の景観の一部となるよう方言が使われるなど工夫が凝らされている事例をみた。

第2部においては、ピクトグラムを中心に論を展開した。

第1章では、ピクトグラムについて本稿での定義付けを行った。また、言語の普遍性と個別性に着目し、元の JIS 標準に基づいたピクトグラムには個別性・恣意性が認められることを指摘した。また、具体的な「温泉マーク」の例を挙げながら、温泉マークの変遷を例に、ピクトグラムが ISO 標準と整合化する中で、普遍性を持つようになったことを指摘した。さらに、JIS 図記号と ISO 図記号を比較しながら、読み手が違った理解をしてしまう理由について考察した。そして誤解を回避するためには、「人物が描き加える」という点が重要であることを指摘した。

オリンピックに向けての案内用図記号の改正点「人物の描き加え」は、典型的な「なる」言語である日本語の動作主を意識することが少ないという類型論的特徴によるもので、「する」言語の母語話者を意識したものであろう。

「する」言語と「なる」言語、VO 言語と OV 言語に付随する諸傾向のほか、杉村博文氏は、中国語の特徴として、孤立型言語・単音節言語・声調言語・主題優先言語、さらには時間順序原則・対句志向・傍観者俯瞰型視点を挙げている。これらの特徴が標識やピクトグラムにどう表れているか今後とも検討したい。

中川（2005）では、「[「する」言語：「なる」言語]、「時間順序原則」については並列語の語構成を例に言及している。

言語形式（記号＝能記）と内容（意味＝所記）の間には必然的な関係はないとする言語の恣意性に対して、最近の認知言語学では記号と意味に一定の必然性（iconic）があるとする。アイコニックの例としては、「人々」という「人」を重ねた形が複数を表し、「ピョンと跳ねた、*ピョンと跳ねている、?ピョンピョン跳ねた、ピョンピョン跳ねている」などがあげられる。しかし、言語の大部分は形式と内容が恣意的な関係にあることは否定できない。

第3章では、ピクトグラムはアイコニックな側面が強く、それだけに普遍性と言ってもよ

い面が濃厚に存在するが、記号である以上、恣意的な側面、従って、個別的な側面も否定できないことを指摘した。

第4章では、ピクトグラムと漢字の六書との関連性について検討を加えた。とりわけ、六書における象形・指事・会意がピクトグラムにおいても類似の手法が見られること、六書の仮借が存在しないのは、ピクトグラムには特定の音形式が存在しないことによると指摘した。

第5章においては、簡単にピクトグラムの歴史を概観した。

第6章では、2017年から現在に至る、ピクトグラムの改正について注目されるものを紹介した。

第7章では、ピクトグラムは絵によって情報を伝えるものなので、絵で表現することが不可能であるものや、瞬時に所記を理解しがたいものがどうしても存在する。さらには、誤解の可能性のあるものは極力避けなければならない。そこで道路標識の「徐行」を表すピクトグラムは、最近英語の *slow* が書き込まれた。

ピクトグラムは絵文字であるので、絵画の一種として、その色彩が問題になる。また看板も景観として、その色彩が重要な要素になる。後述する第3部では色彩語の普遍性と個別性についても紙幅を割き論じた。

第8章では、地図記号においても、外国人が誤解されないように改正が行われた点について述べた。

第9章では、英語表記に表われる重複表記の現象に注目し、意味と形式にズレが存在することを指摘した。そして、修飾語と主要部の順序という言語構造の相違から分析を行い、看板・標識においては句構造の規範から逸脱する表現は少なくないことを指摘した。

第3部では、景観における色彩に焦点を当て、日中の色彩語の相違について論述を行った。さらに、言語景観に現れる言語表現について、視点・方向観念・デフォルト・初期値などに見られる日中の相違を試みた。

第1章は、景観の重要な構成部分である色彩語の使用の日中の異同について述べ、赤と緑、藍と黄、白と黒などに見られる補色関係から日本語と中国語の色彩に対する心理あるいは色彩語の象徴的意義の相違について論述した。さらに、「もみじマーク」や「トイレ」のピクトグラムに用いられる色彩が年齢や性別と安易に結びつけることの問題点を挙げ、発案者の工夫が必要であることを指摘した。

第2章では、普遍性と個別性の観点から、言語景観に現れる言語表現を視点、方向観念、デフォルト、初期値の異同から問題点を挙げ、分析した。さらに、ピクトグラムに潜むステレオタイプの問題について論じた。

本稿では、言語類型論的なパラメータを用い、日本語、中国語、英語がどのような性格を持つのかを様々な観点から論じ、多言語主義社会においては、多言語の共通点と相違点に注目し、摩擦を解消するための工夫が必要であることを主張した。

今後の課題としては、本稿で扱った事例をさらに調査分析するとともに、国際化が進みつつある視覚障害者に対するプラットホームなどの注意喚起に用いられる「ピンポン」などの音声など、視覚のみならず聴覚的な問題まで対象を広げ、コミュニケーションを促進するものと阻害するものを明確にすることを研究テーマにして、引き続き研究を行いたい。

参考文献

- 浅間正通 (2000) 『異文化理解の座標軸—概念的理解を超えて—』 日本図書センター
- 荒川清秀 (2009) 『中国語を歩く—辞書と街角の考現学—』 東方書店
- 荒川清秀 (2014) 『中国語を歩く—辞書と街角の考現学— パート 2』 東方書店
- 荒川清秀 (1981) 「中国語動詞にみられるいくつかのカテゴリー」 『愛知大学文学会文学論叢』 (67)
- 池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学 —言語と文化のタイポロジーへの試論—』 大修館
- 池上嘉彦 (1981) 「‘Activity’-‘Accomplishment’-‘Achievement’ : 動詞意味構造の類型 (2) (3)」 『英語青年』 126 (10)
- 一海知義 (1981) 『漢語の知識』 岩波書店
- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味 I』 くろしお出版社
- 尾上圭介 (2010) 『大阪ことば学』 岩波書店
- 井上史雄 (2000) 『日本語の値段』 大修館書店
- 于楽育 (2017) 「タイトル・看板表記などに見る日中比較対照 —ピクトグラムにおける人物の描き加えについて—」 『Studies in Language Science Working Papers』 No.7 立命館大学言語教育情報研究科
- 于楽育 (2018) 「ピクトグラムにおける恣意性と類像性—接ぎ木語との比較で—」 『Studies in Language Science Working Papers』 No.8 立命館大学言語教育情報研究科
- 大河内康憲 (1997) 「中国語の色彩語」 『中国語の諸相』 白帝社
- 大山正・斎藤美穂 (2009) 『色彩学入門：色と感性の心理』 東京大学出版社
- 小川環樹・西田太一郎・赤塚 忠・阿辻 哲次・釜谷 武志・木津祐子 (2017) 『角川新字源』改訂新版 角川書店
- 太田幸夫 (1995) 『ピクトグラムのおはなし』 日本規格協会
- 菊池寛 (1968) 『父帰る・藤十郎の恋』 角川文庫
- (本論文では、岩波書店出版の菊池寛 (2016) 『父帰る藤十郎の恋：菊池寛戯曲集』石割透 (編) を参考にした。)
- 窪蘭晴夫 (2001) 「語順と音韻構造 —事実と仮設—」 『文法と音声 III』音声文法研究会編 くろしお出版
- コセリウ (1981) 『コセリウ言語学選集：人間の学としての言語学(第 2 巻) 言語体系』原誠・上田

- 博人(訳) 三修社
- コセリウ(1982) 『コセリウ言語学選集:人間の学としての言語学(第3巻) 文法と論理』川島敦夫・渡瀬嘉朗・倉又浩一・小上佳子(訳) 三修社
- 呉 幸芬(2018) 「日中両言語における『濃・淡』表現の用法について」 台湾日本語言文藝研究学会第十八回定例学会
- 定延利之(2000) 『認知言語論』 大修館
- 定延利之(2001) 「出来事としての語 —接ぎ木語の動的構造」『文法と音声Ⅲ』 音声文法研究会 くろしお出版
- 朱徳熙(1988) 『現代中国語文法研究』松村文芳・杉村博文(訳) 白帝社
- 朱徳熙(1995) 『文法講義—朱徳熙教授の中国語文法要説—』杉村博文・木村英樹(訳) 白帝社
- 城一夫(2017) 『日本の色のルーツを探して』 株式会社パイインターナショナル
- 鈴木孝夫(1973) 『ことばと文化』 岩波書店
- 鈴木孝夫(1990) 『日本語と外国語』 岩波書店
- 須賀川誠三(1999) 『英語色彩語の意味と比喩』 成美堂
- 立川健二・山田広昭(1990) 『現代言語論』 新曜社
- 田守育啓・ローレンス・スコラップ(1999) 『オノマトペ —形態と意味—』くろしお出版
- 田守育啓(2002) 『オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』 岩波書店
- 丹野真智俊(2005) 『オノマトペ(擬音語・擬態語)を考える』 松籟社
- 高田智和(2011) 『『景観文字』の記録と分析のために』 『世界の言語景観 日本の言語景観 景色のなかのことば』中井精一 ダニエル・ロング(編), 桂書房
- 陳舜臣(1985) 『玉嶺よふたび』中国語訳『重見玉嶺』卞立強(訳) 中国友誼出版公司
- 張守祥(2011) 「中国(黒龍江省)における言語景観—ハルビン市とチャムス市での調査に基づいて—」 『世界の言語景観 日本の言語景観 景色のなかのことば』中井精一 ダニエル・ロング(編), 桂書房
- 寺村秀夫(1976) 「「ナル」表現と「スル」表現—日英「態」表現の比較」『日本語と日本語教育—文字・表現編』 国立国語研究所
- 富山大学文学部編(2010) 『国際シンポジウム 世界の言語景観・日本の言語景観』平成21年度日本海総合研究プロジェクト研究報告
- 當山日出夫(2014) 「景観文字研究のころみ —『祇園』の経年変化を事例として—」高田智和・横山詔一(編)『日本語文字・表記の難しさと面白さ』彩流社
- 鳥飼久美子(1998) 『ことばが招く国際摩擦』 ジャパンタイムズ
- 中川正之(1985) 「日本語と中国語の対照研究」『日本語学』7月号 Vol.4 明治書院
- 中川正之(1992) 「類型論からみた中国語・日本語・英語」 『日本語と中国語の対照研究論文集』大河内康憲(編), くろしお出版

- 中川正之 (2005) 『漢語からみえる世界と世間』 岩波書店
- 中川正之・定延利之 (2006) 『言語に現れる「世界」と「世間』』 くろしお出版
- 中川正之 (2010) 「現代日本語における漢語と現代中国語」『立命館文学』 No.615
- 中川正之 (2017) 「活着」 『漢語の散歩道(749)』 日中友好新聞日本中国友好協会
- 成田イクコ (2004) 『色からの伝言』 かんぽうサービス
- 橋本萬太郎・鈴木孝夫・山田尚勇 (1987) 『漢字民族の決断 ―漢字の未来に向けて』 大修館書店
- 平高史也・木村護郎クリストフ (2017) 『多言語主義社会に向けて』 くろしお出版
- フロリアン・クルマス (2014) 『文字の言語学 ―現代文字論入門』斎藤伸治(訳) 大修館書店
- 藤堂明保・相原茂 (1985) 『新訂中国語概論』 大修館書店
- 益岡隆志 (1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版
- 丸山圭三郎 (1981) 『ソシュールの思想』 岩波書店
- C.E.ヤーホントフ (1987) 『中国語動詞の研究』橋本萬太郎(訳) 白帝社
- 呂叔湘 (1956) 『中国文法要略』 商務印刷館
- 呂叔湘 (1980) 『現代漢語八百詞』 商務印刷館
- Ronald W. Langacker (1987) *Foundations of Cognitive Grammar, Volume I, Theoretical Prerequisites.* Stanford, California: Stanford University Press.
- Ronald W. Langacker (1991) *Foundations of Cognitive Grammar, Volume II, Descriptive Application.* Stanford, California: Stanford University Press.
- H. A. グリースン (1976) 『記述言語学』 竹林滋・横山一郎(訳) 大修館書店
- ブレント・バーリン&ポール・ケイ (2016) 『基本の色彩語 普遍性と進化について』 日高杏子(訳) 法政大学出版局
- ミシェル・パストゥロー (2005) 『青の歴史』 松村恵理・松村剛(訳) 筑摩書房